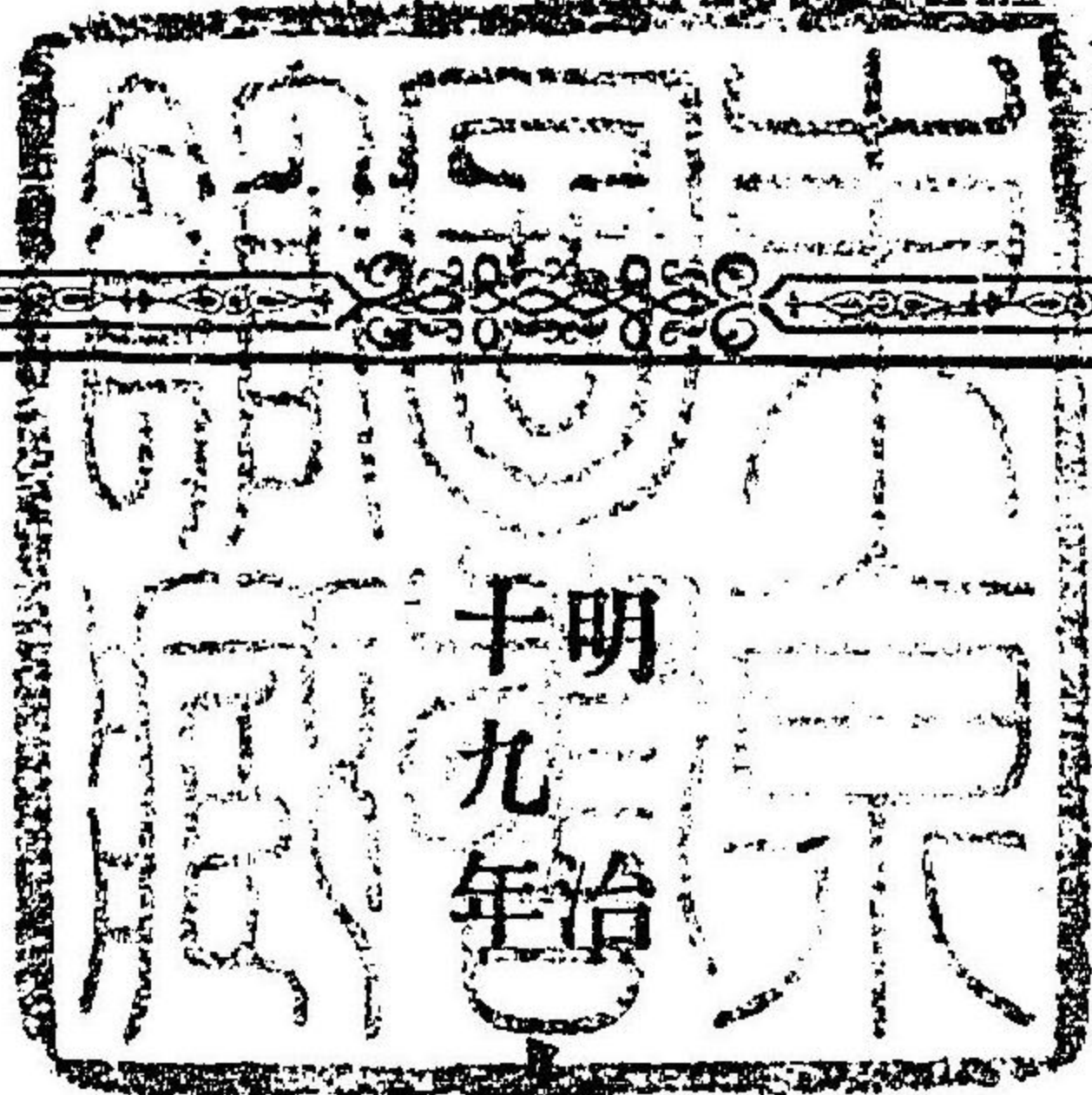


W 18628

22



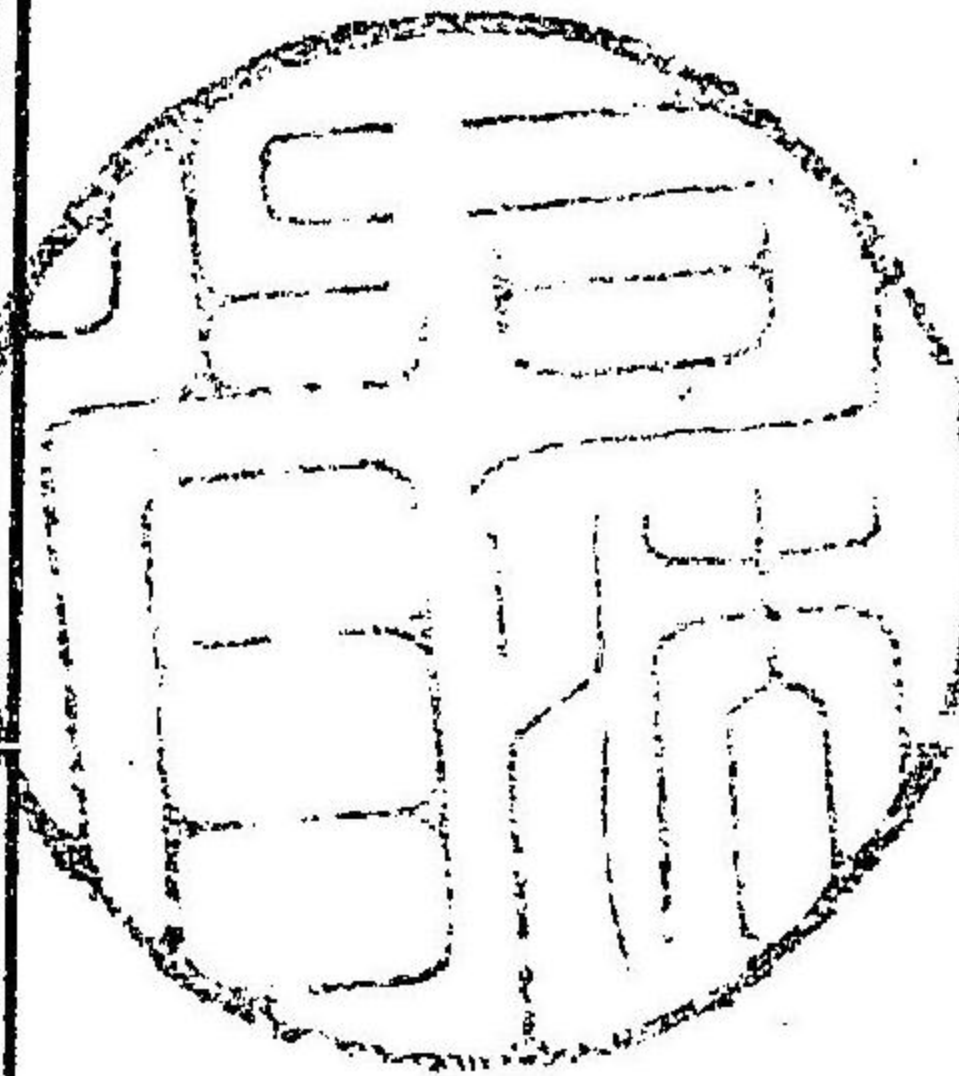
司法省藏版

版權所有

明治九年

大審院諸罰則判決錄

明治二十二年七月印行



CZ  
2711  
04

大審院諸罰則判決錄

凡例

- 一 本書ハ明治十九年大審院ニ於テ判決ヲ與ヘタル諸罰則中ヨリ後來ノ模範トナルヘキモノヲ拔萃シ編纂シタルモノナリ
- 一 本書ハ初メニ諸罰則ノ名目ヲ掲ケ訴件ノ細目ハ之ヲ各罰則ノ初メニ添附ス但訴件僅少ニシテ罰則ノ性質稍類似スルモノハ一二則ヲ合スルモノアリ
- 一 訴件編纂ノ躰裁ハ事實ノ相同シキモノヲ類別シ敢テ大審院ニ於テ受理シタル年次號數ニ關セス
- 一 每件初メニ訴件ノ要ヲ取り問題ヲ掲ケ以テ其訴件ノ何タルヲ知ルニ便ナラシム
- 一 争點罰則ニ關セス治罪手續其他ニ係ハルモノハ之ヲ其各罰則ノ最末雜ノ部ニ集録ス

- 一 每件ノ初頭ニ何年何號ト割註アルハ大審院ニ於テ訴件ヲ受理シタル年次及ヒ號數ナリ
- 一 本書中單ニ大審院ニ於テ棄却シタリト記スルモノハ總テ治罪法第四百二十七條ニ依リタルモノトス
- 一 初審裁判所ニ於テ科シタル罰金科料等ハ或ハ其金額ヲ記シ或ハ若干ノ文字ヲ以テ之ヲ省略ス

明治十九年大審院諸罰則判決錄

目錄

一 酒造稅規則及醬油稅規則違犯	自八十一丁二拾八件
一 賣藥規則賣藥印紙稅規則及藥品取扱規則違犯	自八十一丁拾七件
一 古物商取締條例及質屋取締條例違犯	自百二十九丁拾四件
一 船稅規則車稅規則衝突豫防規則及牛馬賣買條例違犯	自百六十五丁拾一件
一 出版條例及新聞條例違犯	自百九十一丁七件
一 證券印紙稅規則違犯	自二百十九丁拾四件
一 徵兵令及徵兵事務條例違犯	自二百七十一丁拾五件
一 菓子稅規則違犯	自三百二十一丁三件
一 度量衡規則違犯	自三百二十七丁三件
一 米商會所條例違犯	自三百三十七丁貳件

- 一 商標條例違反  
自三百五十一丁 壹 件  
至三百五十三丁
  - 一 地券書換條例土地賣買條例及隱田切開切添地  
處分規則違反  
自三百五十五丁 六 件  
至三百七十七丁
  - 一 鳥獸獵規則及火藥取締規則違反  
自三百七十一丁 六 件  
至三百八十四丁
  - 一 煙草稅規則違反  
自三百八十九丁 三拾五件  
至四百七十七丁
- 右貳拾六則  
通計百五十五件

酒造及醬油稅則違反目錄

丁數

- 一 自家用料酒ニ關スル件  
自家用料酒ノ販賣ニ關ス  
一同上  
明治十八年 第一  
第九百四十五號
- 一 制限外ノ醸造及販賣ニ關ス  
一 制限外ノ醸造ニ關ス  
無鑑札醸造ニ關スル件  
明治十九年 第二  
第九百九十一號  
明治十九年 第五  
第九百九十一號  
明治十九年 第八  
第九百九十一號
- 一 免許ヲ受ケス自用ノ酒類ヲ他家ニ於テ醸造シタルニ關ス  
一 免許ヲ受ケス自用ノ酒類ヲ醸造シタルニ關ス  
一 免許鑑札ノ下附ナキ以前ニ酖ノ仕込ヲ爲シタルニ關ス  
酒類ノ混和隱造隱蔽及無届無檢印ノ器械ヲ使  
用シタルニ關スル件  
明治十八年 第一〇  
第一千五百十八號  
明治十九年 第一二  
第四百九十四號  
明治十九年 第一四  
第三百七十九號
- 一 検査既濟ノ酒類ニ未濟ノ酒類ヲ混和シタルニ關ス  
明治十八年 一七  
第七百四十四號

一 検査既済ノ白酒醪ニ甘酒ヲ混和シ其石數ヲ増加シタルニ關ス

明治十九年 第千六百四號 一九

一 隠造ノ酒類ヲ販賣自用ニ供シ且之ヲ検査既済ノ酒類ニ混和販賣シタルニ關ス

明治十八年 第千七百三十六號 二二

一 隠蔽ノ酒類ニ検査既済ノ酒類ヲ混和シ之ヲ販賣シタルニ關ス

明治十九年 第千四百號 二七

一 醪ノ隠蔽ニ關ス

明治十八年 第千五百三十號 三一

一 同上

明治十九年 第八百八十號 三四

一 醪ノ隠蔽及屑濟ノ清酒ニ増水製成シタル清酒ヲ隠蔽シタルニ關ス

明治十九年 第千七百十八號 三七

一 醪及醎ノ隠蔽及無屑無檢印ノ器械ヲ使用シタルニ關ス

明治十九年 第千四百十六號 三九

一 酒類ノ隠蔽及無屑ノ器械ヲ使用シタルニ關ス

明治十九年 第千五百七十四號 四三

兼業ニ關スル件

一 酒造業者カ醬麴ノ受賣ヲ爲シタルニ關ス

明治十八年 第千二百九十四號 四六

一 酒造業者カ酢ノ販賣ヲ爲シタルニ關ス

明治十九年 乙第千七十號 四九

家族ノ犯罪ニ關スル件

一 酒造業者ニアラサル者ノ家族カ無免許ニテ

明治十九年 第千二百十六號 五二

酒類ノ醸造ヲ爲シタルニ關ス

明治十九年 第千二百十六號 五二

一 酒造業者ニアラサル者ノ家族カ自用ノ酒類

明治十九年 第千二百十四號 五五

ノ醸造ヲ爲シタルニ關ス

明治十九年 第千二百十四號 五五

從犯ニ關スル件

一 他人ノ依頼ニ應シ醎ノ造込ヲ爲シタルニ關ス

明治十八年 第千七百九十七號 五八

一 犯則ノ情ヲ知り他人ノ依頼ニ應シ酒類醬麴ヲ

製造シタルニ關ス

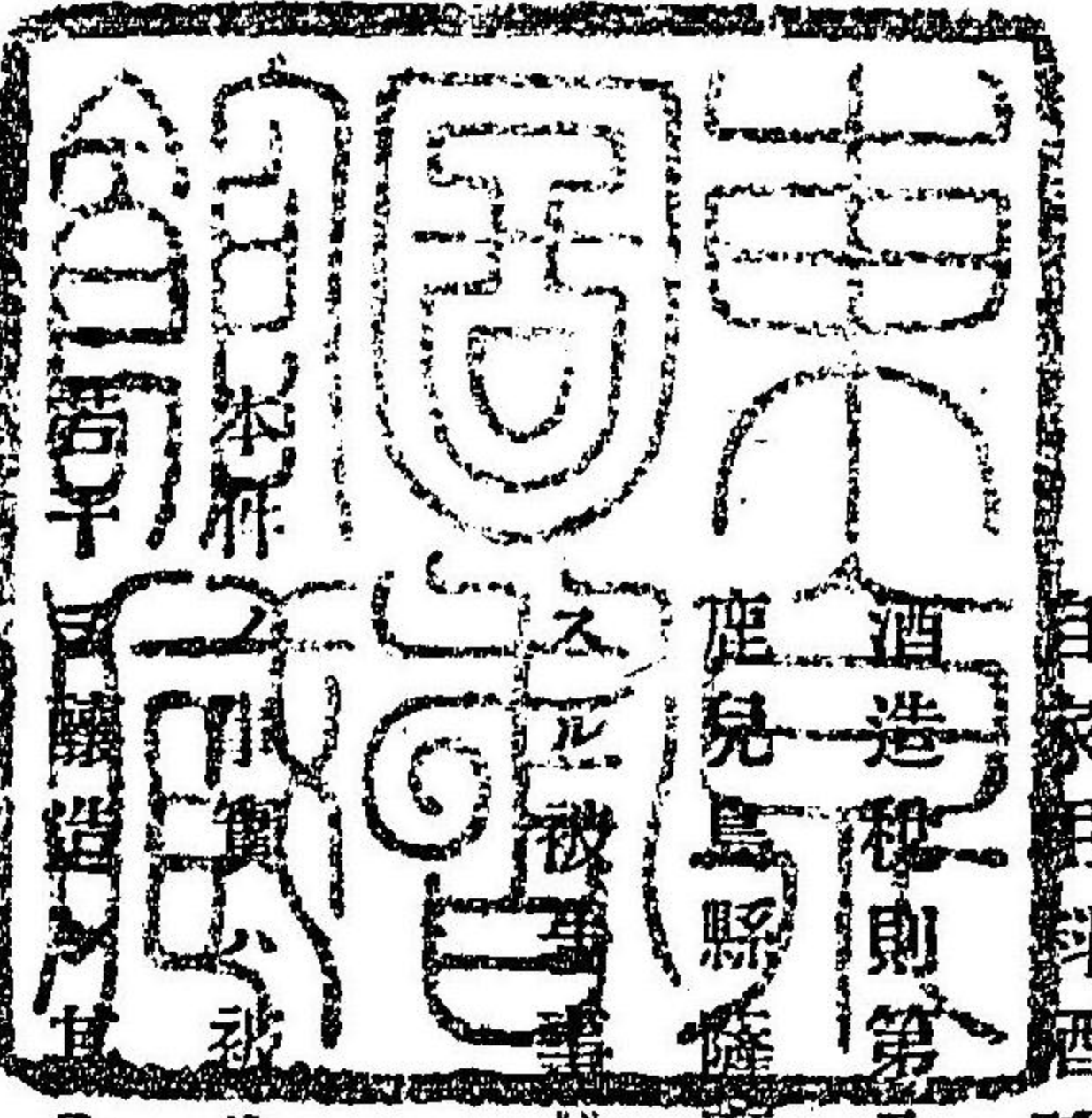
明治十九年 第千四百十七號 六一

一 犯則ノ情ヲ知り他人ノ依頼ニ應シ自宅ヲ酒造

製造シタルニ關ス

明治十九年 第千四百十七號 六一

No. 18628/22

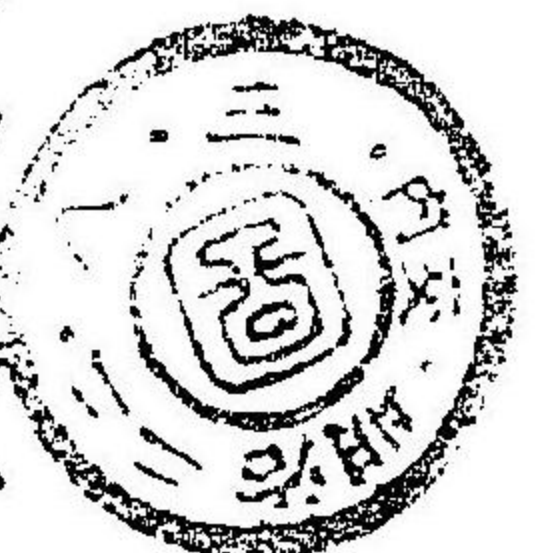


明治十九年大審院罰則判決錄  
酒造稅則違犯明治十八年  
第九百四拾五號

自家用料酒釀造ノ免許ヲ受ケタル者其釀造酒ヲ販賣シタルハ  
酒造稅則第八條ニ依リ其器械ヲ沒收スヘキモノナリヤ否  
鹿兒島縣薩摩國川黑郡平山村三百二十三番戶平民有園新吉ニ對  
スル事件

初審 鹿兒島輕罪裁判所

本件被告新吉ニ於テ自家用料酒釀造ノ免許鑑札ヲ受ケ燒酎  
若干ヲ釀造シ其内若干ヲ代價若干ニ販賣シタルモノニシテ初審裁判  
所ハ右被告ノ所爲ニ對シ酒造稅則附則第五條第八條ニ依リ罰金若干  
圓ニ處シ其販賣代金若干ヲ追徵シ但書ヲ以テ押收アル桶瓶等ハ之ヲ  
還付スル旨言渡シタルニ檢察官ニ於テハ酒造稅則附則第八條ニハ云  
々仍ホ犯罪ニ係ル物品及器械ヲ沒收ストアルニ原裁判所カ但書ノ言



- 場ニ貸與シタルニ關ス 明治十九年 第六四  
第五百十九號
- 一親屬ノ依頼ニ應シ酒類ノ隱蔽ヲ爲シタルニ關ス 明治十八年 六六  
第八百二號
- 器械ニ關スル件 明治十八年 六九  
第七百七拾五號
- 一無届ニテ酒桶ノ輪替ヲ爲シタルニ關ス 明治十八年 七二  
第八百三十四號
- 一他人ノ鑑札器械等ヲ借用シ酒類ノ釀造販賣ヲ  
爲シタルニ關ス 明治十八年 七六  
第六百五十三號
- 雜件 明治十九年 七八  
第二百九十四號
- 一違警罪裁判所ノ權限ニ關ス
- 醬油稅則ニ關スル件
- 一檢査既濟ノ醬油ト未濟ノ醬油トヲ混和隱蔽シ  
タルニ關ス

渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於  
 テハ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却セシモノニ係ル  
 其理由ニ曰ク酒造税則附則第八條中仍ホ犯罪ニ係ル物品及機械ヲ沒  
 收ストアルハ犯罪ノ用ニ供シタル物品機械犯罪ニ因テ製造シタル酒  
 類等苟モ其犯罪ニ密着ノ關係ヲ有スル者ヲ沒收スルノ意義ニシテ本  
 按酒造機械ノ如キハ犯罪以前ノ正當ノ所爲即自家用料燒酎製造ノ用  
 ニ供シタルトキニアリテハ其之ヲ賣捌キタル所爲即犯罪ニ關係ナキ  
 者ナレハ之ヲ其犯罪ニ係ル機械ナリトシ沒收スルヲ能ハサルヤ明瞭  
 ナリトス

酒造税則違犯 明治十八年  
第七百八十四號

自家用料酒醸造ノ免許ヲ受ケタル者其醸造酒ノ若干ヲ販賣シタ  
 ル場合ニ於テハ其器械及殘餘ノ酒類糟等ハ總テ犯罪ニ係ルモノ  
 トシテ之ヲ沒收スヘキモノナリヤ否

鳥取縣伯耆國久米郡堀村平民農業宮本重次郎ニ對スル被告事件

初審 鳥取輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告重次郎ニ於テ第一免許鑑札ヲ受ケス自家用料ノ濁  
 酒二斗五升ヲ醸造シテ之ヲ消糜シ第二其後免許鑑札ヲ受ケ自家用料  
 ノ清酒八斗八升九合ヲ醸造シ内四升五合ヲ代金若干ニテ他人ニ販賣  
 シタルモノニテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ヲ以テ酒造税則附則第一  
 條第五條ニ違背スルモノトシ同附則第八條第九條ニ依リ第一ノ所爲  
 ニ對シテハ罰金若干圓第二ノ所爲ニ對シテハ罰金若干圓ニ處シ賣捌  
 代金若干ヲ追徴シ尙ホ第一ノ犯罪ニ係ル器械ヲ沒收シ清酒六斗六升  
 糟若干ハ之ヲ還付スル旨言渡シタルニ檢察官ニ於テハ該器械タルヤ  
 第二ノ所爲ニモ使用シタルモノナレハ其件ニ付テモ沒收ノ言渡ヲ爲  
 スヘキニ其事由ヲ明示セス又何等ノ判決ヲ與ヘサルノミナラス清酒  
 六斗六升糟若干ハ犯罪ニ係ルモノナルヲ明カナルニ之ヲ還付スルノ

言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナル旨上告シタリ然レニ刑事局ニ於テ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却セシモノニ係ル其理由ニ曰ク上告ノ旨趣ハ掲テ前顯ノ如シト雖モ酒造稅則附則ヲ審按スルニ第三條自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石ヲ超ユルヲ得ス又其第五條自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ストアリテ免許ヲ受ケタル以上ハ自家用料ノ爲メ一期壹石以内ヲ製造シ得ヘキハ勿論ナレモ之レヲ賣捌クハ法ノ禁スル所ナルヲ以テ若シ之レヲ犯シタル時ハ同附則第八條ノ明文ニ從ヒ其賣捌キタル所爲ヲ罪トシ相當ノ罰金ニ處シ賣代價ヲ追徴スルニ止ル可キモノナリ其第八條ニ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ストハ多クハ同附則第一條第三條第四條等ヲ犯シタルノ場合ニ當行スヘキ物ニシテ本件被告カ第二所爲ノ如キ場合ニ適當スルモノニ非ス抑モ被告カ第二ノ所爲タル原判官ノ判定シタル事實ニ依レハ正當ニ免許ヲ受ケ制

限以内ノ清酒ヲ製造シタルモノニシテ此所爲ニ於テハ聊カ法則ニ觸ル、廉ナキモ唯其酒類ノ中四升五合ヲ賣捌キタルヨリ犯罪ノ組成シタルモノナレバ該四升五合ハ犯罪ノ酒類ト云フヘキモ其正當ナル釀造ニ使用シタル器械及ヒ殘酒又ハ其糟等ニ至ルマテ犯罪ニ係ルモノト云フヲ得ス故ニ原裁判第二ノ所爲ニ對シ器械沒收ヲ言渡サス殘清酒及ヒ酒糟等還付ノ言渡ヲ爲シタルハ最至當ノ處分ニシテ擬律ノ錯誤ハ勿論聊カ間然スル所ナキヲ以テ該上告ハ相立タサルモノト判定ス

酒造稅則違犯 明治十九年  
第九百九十二號

自家用料酒釀造ノ免許ヲ受ケ石高制限以外ノ酒類ヲ釀造シ之ヲ賣捌キタル者ハ當初ノ目的如何ニ關セス酒造稅則第四章第二十九條ニ依テ所斷スヘキモノナリヤ否

兵庫縣攝津國有馬郡長坂町平民農今西仙太郎ニ對スル被告事件



## 初審 神戸輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告仙太郎ニ於テ自家用料酒釀造ノ免許ヲ得其制限ヲ超ヘ清酒醗合セテ壹石壹斗三升貳合ヲ釀造シタル而已ナラス被告ハ旅人宿ヲ兼業スルヲ以テ其ノ若干ヲ休泊ノ旅人等ニ賣捌キタル所爲アリシモノニテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ヲ以テ酒造稅則第三條及ヒ第五條ヲ犯シタルモノニシテ共ニ同第八條ニ依リ處分スヘキ犯罪ナリト判定シ其壹石以上ヲ釀造シタル所爲ニ對シテハ罰金三圓ニ處シ酒造器械並ニ現在酒ヲ沒收シ其賣捌キタル所爲ニ對シテハ罰金六圓ニ處シ賣捌代金若干圓ヲ追徴スル旨言渡シタルニ檢察官ニ於テハ酒造稅則附則第三條第五條ハ一ハ自家用料ノ造酒高ヲ壹石以下ニ制限シ一ハ壹石以下ト雖モ自用ノ爲メ製造シタル酒ハ販賣スルヲ得サルヲ規定セシモノニシテ本件ノ如キニ條件ヲ具有シタル所爲ニ對シテハ當初ノ目的如何ニ關セス最早自家用料ノ酒造規則ニ依テ論

スヘキモノニアラス即チ免許鑑札ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シ現ニ營業シタル者ナルヲ以テ酒造稅則第四章第廿九條ニ依テ處斷スヘキモノナルニ原裁判ノ玆ニ出テサリシハ擬律錯誤ノ處分ナリト認ムル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於テ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却セシモノニ係ル

其理由ニ曰ク檢察官ハ自家用料ノ酒造高壹石ヲ超フル時ハ酒造稅則ニ依リ處分スヘキモノナルニ原裁判所カ同則附則ヲ適用シテ處罰シタルハ擬律錯誤ナリト云フモ酒造稅則附則第三條ハ其製造者ニ對シテ其製造高壹石ヲ超フル時ハ總テ本則ニ從フヘシト命シタルモノニシテ之レニ背ク者ヲ處罰セヨトノ法律ニアラサルナリ况ヤ第三條ニ背キタル者ハ第八條ノ制裁スル處ナルニ於テオヤ故ニ原裁判所ニ於テ被告カ自家用料ノ酒造高ニ超過シテ製造シテ之ヲ賣捌キタル所爲ニ對シ酒造稅則附則第三條第五條第八條ニ依リ處罰シタルハ相當ニ

シテ擬律錯誤ナリト云フヲ得ス

酒造税則違犯 明治十九年  
第一千六百六拾三號

自家用料酒醸造ノ免許ヲ受ケ之ヲ數次ニ醸造シ其石高制限ヲ超過シタル場合ニ於テハ其度數并ニ其都度造込高ノ如何ハ之ヲ判文上ニ明示セサル可ラサルモノナルヤ否

長崎縣肥前國北松浦郡今福村平民農川田政八ニ對スル被告事件

初審 平 兵 支 廳

本件ノ事實ハ被告政八ニ於テ自家用料酒醸造ノ免許ヲ受ケ明治十八年陰曆九月以降十九年陰曆正月ニ至ル迄ノ間其制限ヲ超過シ數次ニ濁酒壹石三斗ヲ醸造シ内七斗六升ヲ消費シタルモノナリ然ルニ初審裁判所ハ其判文ニ於テ單ニ被告ハ明治十八年陰曆九月以來其制限ヲ超過シ云々ト判示シ其度數及其都度造込高ノ如何ヲ明示セス直ニ酒造税則ニ依リ罰金沒收ノ言渡ヲ爲シタリ而シテ檢察官ハ其法律ノ適

用等ニ付原裁判ノ不法ナルヲ上告セシニ大審院立會檢事ハ附帶上告ヲ爲シ原判文ハ明治十八年陰曆九月以來云々トアツテ其造込度數及其都度ノ醸造高ヲ明示セサルカ故ニ規則ニ觸レシ廉ヲ知ルニ由ナシ即チ事實ノ理由ヲ欠キタル不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀アラフヲ希望シ上告論旨ニ付テハ別ニ意見ヲ附セサル旨陳述シタリ因テ刑事局ニ於テハ附帶上告ノ論旨ニ依リ治罪法第四百廿八條ニ則リ原裁判ノ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル  
其理由ニ曰ク免許ヲ受ケ自家用料酒類ヲ製造スルニハ一期間壹石以上ヲ製造スルヲ得ス若シ之ヲ數次ニ醸造シ遂ニ一石ヲ超過スル時ハ其超過ニ至リシ度ノ造込高ノ全部及容器等ヲ沒收スヘキモノナレハ本件被告ガ醸造セシ度數并造込高ノ如何ヲ判示スルハ最モ必要ノ事項ナルニ原判文上明治十八年陰曆九月以來明治十九年陰曆正月迄ノ間其制限ヲ超過シ云々トノミアリテ治罪法第三百四條ノ規定ニ背

キ前説明ノ事實理由ヲ明示シアラザレハ法律ノ適用果シテ當レルヤ否ヲ鑑査スルニ由ナク即チ本院檢事附帶上告旨趣ハ其理由アルモノニ付原檢察官ノ上告旨趣ニ對シ別ニ辨明ヲ要セス此點ヲ以テ原裁判ヲ破毀スヘキモノト判定ス

酒造稅則違犯 明治十八年  
第一千五百五十八號

免許ヲ受ケス自家用料ノ酒類ヲ他家ニ於テ製造シタル場合ニ於テハ其他家ニ於テ製造シタル所爲モ亦タ酒造稅則附則第八條ニ問擬スヘキモノナリヤ否

鹿兒島縣薩摩國揖宿郡成川村二百四拾四番戶平民農業上瀬市郎兵衛ニ對スル被告事件

初審 鹿兒島輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告市郎兵衛ニ於テ免許ヲ受ケス他人ノ家ニ於テ自家用料ノ燒酎若干ヲ釀造シタルモノニシテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲

ニ對シ酒造稅則附則第一條第八條ニ照シ被告ヲ罰金若干圓ニ處シタル上其燒酎并器械ヲ沒收シ其他家ニ於テ製造シタル所爲ノ如キハ既ニ同附則第一條ニ背キタルモノナレハ同第四條ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラス乃チ其所爲ハ犯則トナラサルヲ以テ無罪ナル旨言渡シタルニ檢察官ニ於テハ其他家ニ於テ製造シタル所爲ノ如キモ亦タ同附則第八條ニ問擬スヘキモノナルニ之ヲ不問ニ付シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於テハ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却セシモノニ係ル

其理由ニ曰ク上告論旨ハ被告カ免許ヲ得スシテ自家用料ノ酒類ヲ他家ニ於テ製造シタル所爲ノ如キモ亦酒造稅則附則第八條ニ問擬スヘキモノナリト云フニアルモ元來同附則第四條ハ全附則第一條ニ從ヒ製造免許鑑札ヲ受ケタル者ニ對シ定メタル細則ニシテ本件ノ如キ無免許製造人ニ迄其制裁ヲ及ボスヘキ法章ニ非サレハ原裁判所カ單ニ

全第一條違犯ノ廉ノミヲ罰シテ此所爲ヲ不問ニ附シタルハ至當ノ裁  
判ナルニ付上告論旨ハ其理由ナキモノトス  
酒造稅則違犯明治十九年  
第四百九拾四號

免許鑑札ヲ受ケス酒類ヲ釀造シタルモノハ假令ヘ其後之カ届出  
ヲ爲シ己ニ鑑札料ヲ納メタルモノト雖モ尙ホ酒造稅則附則第一  
條及第八條ノ制裁ヲ免カレサルヤ否

山形縣羽前國南置玉郡鹽野村平民須藤磯馬ニ對スル被告事件

初審 米 澤 支 廳

本件ノ事實ハ被告磯馬ニ於テ無鑑札ニテ自家用料ノ濁酒若干ヲ釀造  
シ其後之カ届出ト同時ニ鑑札料ヲ納メタルモ其鑑札ノ下付ナキ以前  
酒造檢査員ノ爲ニ告發セラレタルモノニシテ初審裁判所ハ檢査官カ  
其公訴ヲ拋棄シタルニモ拘ハラズ被告ノ所爲ヲ以テ酒造稅則附則第  
一條及ヒ第八條ニ依照スヘキモノトナシ罰金若干圓ニ處シタル上尙

ホ犯罪ニ係ル濁酒并ニ桶ヲ沒收スル旨言渡シタリ然ルニ檢査官ニ於  
テハ酒造稅則附則第一條ハ酒造者ニ鑑札料ヲ納ムルヲ命令スル一  
種ノ稅法ナレハ被告カ所爲ハ其手續上ニ瑕瑾アルモ己ニ鑑札料ヲ納  
メ届出ヲ爲シタル以上ハ敢テ該則ノ違犯者ヲ以テ論スヘキモノニア  
ラサルニ前顯ノ如ク處斷シタルハ擬律錯誤ト思料スル旨上告シタリ  
然レモ刑事局ニ於テハ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却セシモノニ係  
ル

其理由ニ曰ク酒造稅則附則ヲ案スルニ其第一條ニ自家用料ノ酒類判  
書ヲ製造スル者ハ管廳ヘ届出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八十錢ヲ  
納ムヘシトアリ此法文ニ依レハ届出ノ上鑑札料ヲ納ムルモ免許鑑札  
ヲ受ケサル以前ニ於テハ釀造スルヲ得サルヲ論テ誤スシテ明カナ  
レハ若シ之レニ違ヒタル者ハ該則第八條ノ制裁ヲ免カル、ヲ得可カ  
ラサルモノナリ本件被告カ所爲ノ事實ニ於ケル原裁判官ノ認ムル所

ニ依レハ自家用料酒ヲ製造セントシ届出テ爲シ鑑札料金ヲ納ムルモ未タ免許鑑札ヲ受ケサル前ニアリテ濁酒ヲ醸造セシモノニシテ即チ該則第一條ノ違反者タル勿論ナレハ之レニ該條及ヒ同則第八條ヲ適用處斷セシハ相當ニシテ毫モ擬律ニ錯誤アルコトナシ故ニ上告ノ旨趣相立サルモノトス

酒造税則違犯 明治十八年  
第三千七百九十號

免許鑑札ノ下渡ヲ出願シ己ニ其認可アリタル場合ト雖モ鑑札ノ下渡ナキ以前ニ酛ノ仕込ヲ爲シタルモノハ尙ホ酒造税則第二十九條ノ制裁ヲ免カレサルヤ否

大分縣豊前國下毛郡高瀬村平民酒造營業堤芳平ニ對スル被告事件

初審 中津支廳

本件ノ事實ハ被告芳平ニ於テ從來營業トスル處ノ酒造營業引繼免許

鑑札ノ下渡ヲ出願セシニ被告村戸長ヨリ右願書認可アリタルヲ以テ保約證書差出スヘキ旨ノ通達アリシヲ以テ之ヲ差出サントセシニ豫テ依頼スル所ノ保證人某不在ニシテ之ヲ差出ス可ハサルヨリ既ニ認可アリシ上ハ造酒ニ着手スルモ差支ナキモノト誤認シ無鑑札ニテ若干ノ酛ヲ製造セシモノニシテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ヲ以テ酒造税則第一條乃至第三條ニ違反シタルモノト爲シ同則第二十九條免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許税二倍ノ金額ヲ科シ云々トアルニ照シ免許税二倍ノ罰金ニ處シ其酛并ニ器械ヲ沒收スル旨言渡シタルニ被告ニ於テハ未タ鑑札ハ下附ナラサルモ既ニ縣令ノ認可アリタルニヨリ造酒ノ準備ニ着手シ酛ノ仕込ヲ爲シタル迄ニシテ毫モ惡意アルニアラサレハ酒造税則ニ違背セシモノニアラサルハ勿論假リニ税則違反者ナリトスルモ酛ヲ仕込タルハ精酒釀造ノ豫備ニ止マリ未タ酒類ヲ製造シタル者ト云フ

ヲ得サレハ右税則ノ支配ヲ受クヘキモノニアラサルニ原裁判所カ前  
 顯ノ裁判ヲ下セシハ擬律錯誤ナル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於テ  
 ハ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却セシモノニ係ル  
 其理由ニ曰ク酒造税則第一條凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル  
 者ハ其旨管廳ニ願出酒造場壹ヶ所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ同第二十  
 九條免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械共  
 沒收シ免許税額二倍ノ金額ヲ科シ云々トアリテ苟モ酒類ヲ營業スル  
 者ニ於テ免許鑑札ヲ願受ケスシテ製造スル者ハ前顯第二十九條ノ制  
 裁ヲ免カレ得ヘキモノニアラサレハ假令出願ノ趣ハ認可ヲ得ルモ免  
 許鑑札ヲ受ケサル内ニ酒類ヲ製造シタル以上ハ該則ノ違犯者ニアラ  
 スト云フヲ得ス又同則第二條ノ第一類ノ場ニ釀造其割書ニ清酒濁酒  
 其他釀造シタルモノヲ云フトアレハ酤ノ如キハ即チ釀ス可キモノニ  
 シテ酒類中ノモノタルヲ論テ埃サルナリ故ニ上告者カ酤ヲ製造セシ

所爲ヲ以テ酒造製造ノ豫備ニシテ酒造規則ノ違犯者ニアラスト云フ  
 ヲ得サルモノトス

酒造税則違犯 明治十八年  
第七百四拾四號

検査既済ノ酒類ニ検査未済ノ酒類ヲ混和シタル場合ニ於テ沒收  
 ノ言渡ヲ爲スハ其總石數ニ對シテ爲スヘキモノナリヤ將々只其  
 未済検査ノ酒類ニ止マルヘキモノナルヤ否

長野縣信濃國更級郡芳宮村平民酒造營業中村忠右衛門ニ對スル  
 被告事件

初審 上田 支 廳

本件ノ事實ハ被告忠右衛門ニ於テ検査既済ノ古酒九石七斗二升ノ火  
 落酒ノ内ヘ検査未済ノ清酒四斗八升三合ヲ混合シタルモノニシテ初  
 審裁判所ハ右被告ノ所爲ニ對シ酒造税則第二十三條及同第三十六條  
 第二項ノ範圍内ニ於テ被告ヲ罰金五圓ニ處シ其犯則ニ係ル清酒四斗

八升三合ヲ沒收スル旨言渡シタリ然ルニ檢察官ニ於テハ原裁判所カ  
 清酒四斗八升三合ヲ沒收スル旨言渡シタルハ所謂ル擬律錯誤ノ裁判  
 ニシテ右ハ犯則ニ係ル酒類ノ總石數即チ拾石貳斗三合ヲ沒收スヘキ  
 モノナリトノ上告ヲ爲シタリ依テ刑事局ニ於テハ治罪法第四百廿九  
 條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ直ニ被告忠右衛門ニ對シ酒造稅則第廿三條  
 第三十六條ニ照シ罰金三圓以上三拾圓以下ノ範圍内ニ於テ罰金五圓  
 ニ處シ其犯則ニ係ル清酒拾石貳斗三合ヲ沒收スル旨判決シタルモノ  
 ニ係ル

其理由ニ曰ク原裁判所ニ於テ検査既濟ノ古酒九石七斗貳升内ヘ未濟  
 ノ清酒四斗八升三合ヲ混和シタルノ事實ヲ認トメ酒造稅則第二十三  
 條三十六條ニ依リ罰金五圓ニ處シタルハ相當スト雖ヒ單ニ清酒四斗  
 八升三合ヲ沒收スト言渡シタルハ該法文ヲ誤解シタルニ出ヅルモノ  
 ト謂ヘシ抑モ被告ノ所爲タル検査未濟ノ清酒ハ四斗八升三合ナリト

雖ヒ已ニ古酒ト混和シタル以上ハ新古ノ區分ヲ做スアタハス原裁判  
 所ハ何ノ方法ニ由テ其混和合同シタル酒中ヨリ新古ヲ區分シ清酒四  
 斗八升三合ヲ撰テ沒收スルヲ得ル歟決シテ爲シ得ヘキモノニアラ  
 ス酒造稅則第三十六條ニ云々第廿三條二項ヲ犯シタルモノハ云々其  
 製造酒類ヲ沒收ス云々トアリ故ニ第三十六條但書ニ第二項ノ酒類ハ  
 總石數ヲ沒收ストノ法文ニ從フニ於テハ混和スル所ノ全量ヲ沒收セ  
 サルヘカラス古酒ト新酒ヲ混同スルノ場合ニ際會シテハ乃チ同一ノ  
 製造ト看做サ、ルヲ得サレハナリ然ルニ原裁判ノ爰ニ出サリシハ上  
 告論疏ノ如ク擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノ  
 トス

酒造稅則違犯 明治十九年  
第千六百四號

白酒ニ甘酒ヲ混和スルハ清酒ニ水ヲ混シ砂糖ヲ以テ着色スルト  
 均シク法律ノ制裁ヲ受ケサルモノナリヤ否

大阪府大和國添上郡奈良南魚屋町第十五番地平民酒造營業人伊藤長八ニ對スル被告事件

初審 奈良 支 廳

本件ノ事實ハ被告長八ニ於テ検査既濟ノ白酒膠若干ハ甘酒若干ヲ混和シ其石數ヲ増加シ之ヲ販賣シタルモノニテ初審裁判所ハ右被告ノ處爲テ以テ醸造方法ノ變換ヲ届出テス擅ニ甘酒若干ヲ製造シ検査ヲ受ケス該白酒膠若干ト共ニ石臼ニテ挽揚ケ白酒合計若干ヲ製造シ之ヲ販賣シタルモノト認定シ酒造稅則第二十六條第三十五條ニ依照シ罰金拾五圓ニ處スル旨言渡タルニ被告ニ於テハ白酒ノ如キハ他酒類ト異ナリ一旦膠ノ検査ヲ受クルキハ再ヒ検査ヲ要セサルカ故ニ之ニ他物ヲ混シテ販賣スルモ固ヨリ法律ノ禁スル處ニアラス即チ本件ノ如キモ單ニ検査既濟ノ白酒膠ハ酒類ニ非ル甘酒ヲ混和シ以テ販賣シタルマテニシテ決テ醸造法ヲ變換シタルニ非ス恰モ清酒ニ水ヲ混シ

砂糖ヲ以テ着色販賣シタルト一般法律ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非ルニ前顯ノ如ク論決セラレシハ擬律錯誤ノ裁判ナル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於テハ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却セシモノニ係ル其理由ニ曰ク抑酒類ノ醸造方法ハ各多少ノ差異アルモノナレハ豫メ其方法ヲ届出置ヘキハ當然ニシテ又方法ヲ變換シ石數ニ増減ヲ生スル等ノ場合ニ於テハ其時々届ヲ爲スヘキモノナルコトハ酒造稅則第二十六條ニ規定スル所ナリ今原判官ノ認ル事實ニ據レハ被告カ所爲タル白酒ヲ醸造シ検査ヲ受クルノ後麴ト水トヲ以テ甘酒ヲ製シ之ヲ右白酒ニ混和シ石數ヲ増加シタリト云ニ在リ果シテ然ラハ其甘酒ヲ加フルコト則チ一種ノ製造法ニシテ豈之ヲ清酒ニ水ヲ混シテ増量シ砂糖ヲ以テ着色スルト同視シ酒造稅則第二十六條範圍外トスルヲ得ンヤ故ニ原裁判官カ此事實ヲ認メテ右第廿六條ノ違犯ト爲シ全第三十五條ヲ適用シ處斷シタル至當ニシテ毫モ錯誤セシモノニ非ス反テ上告



ノ論旨ハ法律ヲ誤解シタルニ過キサルヲ以テ到底採用スルニ由ナキ  
モノトス

酒造稅則違犯明治十八年  
第七百三拾六號

隱造ノ酒類ヲ販賣及自用ニ供シタル場合ニ於テハ隱造ノ處爲ニ  
對シ其總石數ニ對スル造石稅三倍ノ罰金ヲ科シタル上尙ホ其販  
賣自用ニ供シタル處爲ニ對シテモ同様造石稅三倍ノ罰金ヲ科ス  
ヘキモノナリヤ否

隱造ノ酒類ヲ検査既濟ノ酒類ニ混和シ之ヲ販賣シタル場合ニ於  
テハ稅則第三十六條ノ制裁ヲ受クルニ止マルヤ否

同上ノ場合ニ於テ賣捌代金ヲ徵收スルハ其混和シタル隱造酒ノ  
石數ノミニ對シテ徵收スヘキモノナリヤ否

鹿兒島縣薩摩國日置郡日置村平民酒造營業人川井田龜吉ニ對ス  
ル被告事件

初審 鹿兒島輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告龜吉ニ於テ燒酎貳石四斗四升五合ヲ密造シ内五斗  
八升五合ヲ餘シ其他五斗五升ヲ販賣シ八升五合ヲ自用ニ供シ殘ル壹  
石貳斗貳升五合ヲ検査既濟ノ燒酎拾三石八斗壹升ニ混和シ其内十四  
石六斗八升ヲ販賣シ且ツ前掲ノ燒酎ヲ製スル爲メ調査未濟ノ容器若  
干ヲ使用シタルモノニシテ初審裁判所ハ右五個ノ所爲ニ對シ隱造ニ  
付テハ改正酒造稅則第三十二條ニ依リ其總石數ニ對スル造石稅三倍  
ノ罰金ヲ科シ仍ホ現在ノ燒酎ヲ沒收シ之ヲ販賣シタル所爲ニ付テハ  
同則第三十一條ニ依リ其賣代金ヲ追徵シタル上其石數ニ相當スル造  
石稅三倍ノ罰金ヲ科シ自用ニ供シタル所爲ニ付テハ同則第三十三條  
ニ依リ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ヲ科シ之ヲ検査既濟ノ燒  
酎ニ混和販賣シタル所爲ニ付テハ同則第二十三條第二項同則第三十  
六條ニ依リ罰金若干圓ニ處シタル上其總賣代金ヲ追徵シ調査未濟ノ

機械ヲ使用シタル所爲ニ付テハ明治十六年第二十六號公布第二十條  
 初項ニ依リ罰金若干圓ニ處シタル上其機械ヲ沒收スル旨言渡シタリ  
 然ルニ被告ニ於テハ第一原裁判所カ隱造ノ所爲ニ付キ被告ヲ隱造ノ  
 總石數ニ對スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シタルニモ拘ハラズ同一ノ酒  
 類ニ對シ尙ホ販賣自用ニ供シタル所爲ニ付各別ニ其石數ニ相當スル  
 造石稅三倍ノ罰金ヲ科シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ第二自用ニ供シ  
 タル高ハ八升五合ナレハ之カ造石稅ノ三倍ハ壹圓貳拾七錢五厘ナル  
 ニ四圓二拾七錢五厘原判文ニハ正シク壹圓ヲ科セシハ尤モ不當ノ裁  
 判ナリ第三混和酒ノ賣代金ヲ追徴スルニ檢査既濟ノ石數ニ應スル賣  
 代金ヲ扣除セサリシハ不當ノ裁判ナル旨上告シタリ而シテ大審院立  
 會檢事ニ於テモ上告第一條ノ論點ハ其理由アルモノナリトノ意見ヲ  
 述ヘ且ツ稅則第二十三條第二項及第三十六條ハ檢査既濟ノ酒類ヘ檢  
 査未濟ノ酒類ヲ混和シタル場合及其制裁ヲ設ケタルモノニ過キサレ

ハ之ヲ賣捌キタル以上ハ同則第三十一條ニ依リ處斷セサルヘカラサ  
 ルニ原裁判ノ爰ニ出テサリシハ不法ナル旨附帶上告ヲ爲シタリ依テ  
 刑事局ニ於テハ上告第一條及附帶上告ノ論旨ヲ採用シ治罪法第四百  
 三十一條ニ依リ原裁判ノ擬律中密造ノ燒酎總石數ニ對シ酒造稅則第  
 三十二條ヲ適用シタルト密造ノ燒酎ヲ檢査既濟ノ燒酎ニ混和シ販賣  
 シタル所爲ニ對シ同則第三十六條ニ依リ處斷シタルトノ點ヲ破毀シ  
 直ニ被告龜吉ニ對シ現在セル密造即チ隱蔽ノ燒酎五斗八升五合ハ稅  
 則改正第三條及ヒ第三十二條ニ依リ造石稅三倍ノ罰金若干圓ニ處シ  
 其燒酎ヲ沒收ス又該燒酎壹石貳斗貳升五合ヲ檢査濟ノ燒酎拾三石八  
 斗壹升ニ混和シ内拾四石六斗八合ヲ販賣シタル所爲ハ同則第三十一  
 條ニ依リ其代金ヲ追徴シ改正第三條ニ照シ右石數ニ當ル造石稅三倍  
 ノ罰金ニ處ス但其販賣シタル殘餘ニ對シテハ同則第二十三條ノ二項  
 第三十六條ニ依リ處斷スヘキモノナルヲ以テ其範圍内ニ於テ罰金及

沒收ニ處シタル點及其他ハ原裁判ノ通ト判決ヲ與ヘタルモノニ係ル  
 其理由ニ曰ク被告人ノ所爲ハ燒酎貳石四斗四升五合ヲ密造シ隱蔽シ  
 タルモ内五斗八升五合ノミ現在シ其外ハ販賣消糜混和并ニ其混和酒  
 販賣ニ係ル場合ニ在テハ販賣シタルハ酒造稅則第三十一條自家ニテ  
 消糜シタルハ同則第三十三條其隱蔽酒即チ検査未濟ノ燒酎ヲ検査既  
 濟ノ燒酎ヘ混和シタルハ同則第三十六條其混和ノ燒酎ヲ販賣シタル  
 ハ同則第三十一條ニ依リ而シテ唯タ隱蔽ノ儘現存スル五斗八升五合  
 ニ對シ同則第三十二條ヲ適用處斷スヘキモノナルニ原裁判茲ニ出テ  
 ス其密造燒酎貳石四斗四升五合ニ對シ同則第三十二條ニ依リ處斷シ  
 タルト其密造ノ燒酎壹石貳斗貳升五合ヲ検査既濟ノ燒酎拾三石八斗  
 壹升ニ混和シ合計拾五石三升五合ノ内拾四石六斗八合ヲ販賣シタル  
 ノ所爲ニ對シ同則第三十一條ヲ適用セザリシハ上告第一ノ論旨ノ一  
 部及ヒ附帶上告ノ如ク原裁判ハ擬律ノ錯誤ナリトス上告ノ第二ハ自

家消糜ノ石數八升五合ニ對シ四圓貳拾七錢五厘ヲ科シタルハ不當ナ  
 リトノ點ハ謄本ノ誤寫ニ因ルモノナルヘク原裁判言渡書ニハ正シク  
 造石稅ノ三倍即チ壹圓貳拾七錢五厘ヲ科ストアルヲ以此點ハ上告ノ  
 原由ニアラストス上告ノ第三點ハ混和燒酎賣捌キ代金ノ内検査既濟  
 ノ石數ニ當ル代金ヲ扣除スヘキモノト云フニアルモ酒類ハ混合物ナ  
 レハ分ツヘカラサル性質ノモノニシテ検査未濟ノ酒類ヲ混和シタル  
 キハ其全部ヲ沒收スヘキモノナル事同則第三十六條但書ニ明記アル  
 所ナレハ販賣シタル場合ニ於テハ同則第三十一條ニ依リ其總石數ニ  
 係ル造石稅ノ三倍ノ罰金ヲ科シ尙ホ其賣代金ノ全部ヲ追徴スヘキモ  
 ノナリトス

酒造稅則違犯 明治十九年  
第千四百號

隱蔽シタル酒類ニ検査既濟ノ酒ヲ混和シ之ヲ販賣シタル場合ニ  
 於テハ其隱蔽ノ罪ハ之ヲ問ハサルヤ否

同一ノ場合ニ於テ造石税ノ罰金ヲ科スルハ混和酒ノ總石數ニ依  
テ算スヘキヤ將テ混和シタル検査既濟酒ノ石數ハ之ヲ控除シテ  
算スヘキヤ

同一ノ場合ニ於テハ尙ホ酒造税則第三十六條ノ制裁ヲ受クヘキ  
ヤ否

長崎縣肥前國北松浦郡生月村平民酒造營業宮田小太郎ニ對スル  
被告事件

初審 平 戸 支 廳

本件ノ事實ハ被告小太郎ニ於テ清酒四石六斗六升ヲ釀造隠蔽シ之ニ  
検査既濟ノ酒ヲ混和シ其未濟検査ノ清酒ヲ販賣シ又清酒十石九斗六  
升六合ヲ釀造隠蔽シ前同一ノ手段ヲ以テ之ヲ販賣シタルモノニシテ  
初審裁判所ハ右ノ所爲ヲ以テ酒造税則第二十三條ニ違犯シタルモノ  
ト爲シ其検査未濟酒ヲ販賣シタル所爲ニ對シテハ同則第三十一條ヲ

ヲ適用シ其賣捌代金ヲ追徴シ造石税壹石ニ付四圓ノ三倍百八拾七圓  
貳拾壹錢貳厘ノ罰金ニ處シ尙ホ其検査既濟酒ニ未濟酒ヲ兩度ニ混和  
シタル所爲ニ對シテハ同則第三十六條ニ照シ若干ノ罰金ニ處スル旨  
言渡シタリ然ルニ被告ニ於テハ被告ハ只酒造税則第二十三條第二項  
ノ違犯者ニ止マレハ同則第三十六條ト其但書トノ制裁ヲ蒙ルニ止  
マリ同則第三十一條ノ關係ヲ來タスヘキ理由ナク又被告ノ所爲ヲ以  
テ釀造隠蔽ト爲スニ於テハ單ニ第三十二條ノ制裁スル所ニシテ是又  
第三十一條トハ其精神大ニ同カラサルニ前顯ノ如キ裁判ヲ下セシハ  
事實ニ齟齬アル擬律錯誤ノ裁判ナル旨上告セシニ大審院檢事モ亦タ  
之ニ附帶シ原裁判ノ事實ニ據レハ被告ハ検査未濟酒ヲ検査既濟酒ヘ  
混和スルノ前既ニ隠蔽ノ罪アルモノナリ然ラハ此隠蔽ノ罪ハ尙ホ税  
則第三十二條ニ依リ處分スヘキモノナルニ原裁判ノ茲ニ出サルハ不  
當ナル旨上告シタリ而テ刑事局ニ於テハ原裁判ハ事實理由ノ不備ニ

シテ擬律ノ當否ヲ鑒査スルニ由ナキモノトシ其全部ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク原裁判言渡書ニ清酒四石六斗六升ヲ釀造隱蔽シ之レニ  
検査既濟ノ酒ヲ混和シ其未濟検査ノ清酒ヲ販賣シ又清酒拾石九斗六  
升六合ヲ釀造隱蔽シ前同一ノ手段ヲ以テ販賣シタルモノニシテ即チ  
酒造税則第二十三條ニ違犯シタルモノトアリ其判定ノ事實ニ據レハ  
被告ハ一旦隱蔽ヲ爲シタリトモ其隱蔽酒ニ検査既濟ノ酒ヲ混和シ販  
賣シタリシニヨリ其未濟酒ヲ販賣シタリシ所爲ヲ罰スヘキモノナル  
ヲ以テ隱蔽ノ罪ヲ問ハス検査未濟酒ヲ賣捌キタルモノトシ即チ酒造  
税則第二十三條第一項ノ違犯者ニシテ第三十一條ニ依リ處罰スヘキ  
モノトノ裁判ハ不當ナラサルモ酒類ハ分ツヘカラサルモノナレハ其  
造石税ノ起算ハ混和シタル總石數ヲ以テセサルヘカラス然ルニ其總  
石數ヲ判文上掲ケサルニヨリ之レヲ知ルニ由ナク又原裁判言渡書ニ

掲クル事實ハ前ニ記スル如ク隱蔽酒ニ検査既濟ノ酒ヲ混和シタル事  
實ニシテ検査未濟酒ヲ検査既濟酒ニ混和シタル事實ニアラサルニ税  
則第三十六條ニ照シ處斷シタルハ不當ナリ要スルニ原裁判ハ事實理  
由ノ不備ニシテ擬律ノ當否ヲ監査スルニ由ナク此點ニ付原裁判ノ全  
部ヲ破毀スヘキモノト認ムルヲ以テ其他ノ點ニ對シテハ一々之ニ辯  
明ヲ付セス

酒造税則違犯 明治十八年  
第三千五百三拾號

膠ヲ隱蔽シタル者ハ酒造税則ノ制裁ヲ被ラサルヤ否

山梨縣甲斐國北巨摩郡河原部村平民常吉母酒造營業人中山ヨシ

ニ對スル被告事件

初審 甲府輕罪裁判所

終審 東京控訴裁判所

本件ノ事實ハ被告ヨシニ於テ若干ノ膠ヲ隱蔽シ酒造検査ノ際之ヲ發

見セラレシモノニテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ニ對シ酒造稅則第三十二條酒類ヲ隱蔽スル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシトアルニ依リ同則第二條第一項第三條第四項ニ照シ隱蔽石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ヲ科シ其膠若干ハ之ヲ沒收スル旨言渡シタルニ被告ハ之ヲ不當トシテ控訴シタリ然レニ終審裁判所モ亦タ初審ノ裁判ハ相當ナルヲ以テ治罪法第三百六十八條第三百四十四條ニ照シ原裁判ヲ認可スル旨言渡シタリ依テ被告ニ於テ之ヲ不法ナリトシテ上告シタル要領ハ酒造稅則第二條第一項ニ所謂ル釀造酒トハ清濁ヲ問ハス既製成ノ酒類ヲ指的シタルモノナルコトハ第一類ノ明文ト其註解トニ依リ明ニシテ膠ノ如キハ右ノ釀造酒中ニ含有セラレサルモノナリ加之同稅則第十條追加第二項ノ趣意ニ依レハ造酒廢業ノ場合ハ格別一般普通ノ場合ニ於テハ未製成ノ酒類ハ檢査ヲ要スルコトナク又造石稅ヲモ科スルコトナキモノナレハ檢

査官カ被告ノ隱蔽膠ヲ發見告發シタリトテ素ヨリ權外ノ所爲ナルヲ以テ無効ノ告訴タルニ過キス加之同稅則第三十二條但書ニ未製成ノ酒類モトモロミノ類ト雖モ隱蔽シタル者ハ本條ニ依テ處分ストアリシテ明治十五年第六十一號公布ヲ以テ削除セラレタル等ニ依テ見ルモ未製成ノモノニ對シテハ課稅セサルノ趣意ナルヤ明白ナルニ原裁判所カ何等ノ説明ヲモ爲サス前顯ノ裁判ヲ下セシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ然レモ刑事局ニ於テハ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却セシモノニ係ル

其理由ニ曰ク酒造稅則第二條第一項ニアル釀造酒トハ清酒濁酒ハ勿論其他ノ釀造シタル酒類即膠ノ如キモ總稱シタルモノニシテ既製成ニ非サレハ其釀造酒中ニ入ラスト云フニ非ス假令未製成ト雖モ酒類トナルヘキノ方法ヲ盡シタル以上ハ即チ釀造シタル酒類ナレハ無論包含シアルモノトス而テ其酒類トナルノ方法ヲ盡シタル造酒ノ如キ

ハ酒造税則第十條ニ依リ検査ヲ受ケサルヲ得サルヤ勿論ナルノミナ  
 ラス膠ノ如キモ検査ヲ受クヘキモノナルヤ明治十七年第六十四號大  
 藏省達第二十八項ニ(税則第十九條ニ依リ酒造中ハ何酒類ヲ問ハス檢  
 査スヘキニ付酒もど及ヒ醪トモ前以テ申出サシメ必ス之レカ検査ヲ  
 爲スヘシ)トアツテ粲然タリ故ニ被告人ニ於テ當然其検査ヲ受クヘキ  
 醪ヲ隠蔽シタル事實ヲ認メテ以テ其理由ヲ明示シ而テ其事實ニ該當  
 スル酒造税則第三十二條同第二條第一項同第三條第四項等ヲ適用シ  
 處斷シタルハ尤モ妥當ナル裁判ニシテ其理由ニ於ケル不備ハ勿論擬  
 律ニ錯誤アリト云フヲ得ス因テ上告論旨其効ナキモノトス  
 酒造税則違犯 明治十九年  
第八百八十號

醪ヲ隠蔽シタル者モ酒造税則ノ制裁ヲ受クヘキモノナリヤ否之  
 カ制裁ヲ受クヘキモノト爲ストキハ其造石税三倍ノ罰金ハ醪ノ  
 現石數ニ依リ科スヘキヤ將々之ヲ成製シテ清酒ト爲シタル石數

ニ依リ科ス可キヤ

高知縣土佐國土佐郡種崎町百八十三番地平民酒造營業人江淵楠  
 平ニ對スル被告事件

初審 高知輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告楠平ニ於テ検査ノ際清酒及醪若干ヲ隠蔽シタルモ  
 ノニシテ初審裁判所ハ右ノ所爲ニ對シ酒造税則第三十二條第二條第  
 三條及明治十四年第七十二號公布第三條ヲ適用シ其隠蔽ニ係ル清酒  
 及醪ヲ沒收シ尙ホ之カ合石數ニ相當スル造石税三倍ノ罰金若干圓ニ  
 處スル旨言渡シタルニ被告楠平ニ於テハ酒造税則中醪ニ造石税ヲ課  
 スルノ規定ナク隨テ之ヲ隠蔽シタル者ヲ罰スルノ正條ナシ然ルニ前  
 顯ノ如ク處斷サレタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ良シ假リニ之ヲ罰スル  
 モノトスルモ醪ヲ製成シテ清酒ト爲シ造石税ヲ課セラル、ニ至ルモ  
 ハ其石數若干ヲ減少スルモノナリ然ルニ前顯ノ如ク清酒ノ石數ニ依

ラス醪ノ石數ニ依リ處斷サレタルハ不法ニシテ到底擬律ノ錯誤ヲ免  
カレサル裁判ナル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於テハ上告ノ理由ナ  
キモノトシテ棄却セシモノニ係ル

其理由ニ曰ク酒造稅則第二條一類釀造酒トハ單ニ成製ノモノ、ミテ  
云フニ非ス苟クモ釀造物ナランニハ醪モ醪モ含有シタルモノナルヤ  
（其他釀造シタルモノヲ云フ）トノ法文ニ徵シ明白ナリトス茲ヲ以其釀  
造ニ係ル醪モ醪モ一類ノ酒類ト云ハサルヲ得サレハ其醪ヲ隱蔽シタ  
ルモノ即チ酒類ノ隱蔽ナルヲ以該稅則第三十二條ニ所謂酒類ヲ隱蔽  
シタル者ト云フニ適當ナルモノニテ酒造稅則中醪ヲ隱蔽シタルモノ  
ヲ處罰スルノ正條ナシトノ論告ハ相立タサルモノトス又該第三十二  
條ニ酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル  
云々ト其隱蔽ノ酒類ヲ指シ其酒類ノ石數トアリテ酒類中醪醪ヲ特別  
ニ論スルノ法文アラサレハ其醪醪ノ現石數ヨリ税金ヲ起算スルノ外

ナキモノニテ原裁判所カ隱蔽シタル醪ヲ酒類トシ其酒類即チ醪ヲ沒  
收シ其酒類即チ醪ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科シタルハ  
相當ノ處分ニシテ原裁判ハ一モ擬律錯誤ト云フヘキ瑕瑾アルモノニ  
アラストス

酒造稅則違犯 明治十九年  
第七百十八號

醪ヲ隱蔽シタル者モ尙ホ酒造稅則第三十二條ノ制裁ヲ免カレザ  
ルヤ否

屆濟ノ清酒ニ竊ニ増水ヲ爲シ製成シタル清酒ヲ隱蔽シタル場合  
ニ於テハ隱蔽罪ノ外無屆變換ノ罪モ之ヲ罰スヘキモノナリヤ否  
長野縣信濃國上高井郡須坂町平民酒造營業人遠藤六三郎ニ對ス  
ル被告事件

初審 長野輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告六三郎ニ於テ醪並ニ屆濟ノ清酒ヘ竊ニ増水ヲ爲シ



製成シタル清酒若干ヲ隠蔽シタル所爲アリシモノニテ初審裁判所ハ刑法第五條ニ基キ酒造稅則第二十六條第三十二條第三十五條第三十七條ニ依リ被告カ隠蔽ノ所爲ニ對シテハ造石稅三倍ノ罰金若干圓ヲ科シ其膠及清酒ヲ沒收シ無届變換ノ所爲ニ對シテハ罰金若干圓ニ處スル旨言渡シタリ然ルニ被告ニ於テハ膠ヲ隠蔽シタルハ法律ニ正條ナキヲ以テ罰金ヲ科スヘキモノニアラス又原判文ハ隠蔽シタル酒類ノ稅則第二條第何類ニ相當シ其税金ハ壹石ニ付何圓ニ相當スルヤテ明示セス結局原裁判ハ擬律錯誤及法律ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於テハ上告論旨ハ共ニ其原由ナキモノトシテ採用セス却テ原裁判所カ無届變換ノ所爲ヲ罰シタルヲ不法トシ治罪法第四百三十一條ニ則リ其一部ヲ破毀シ直ニ被告六三郎ニ對シ届濟ノ清酒ニ竊ニ増水ヲ爲シタルハ罪トナラサルヲ以テ治罪法第三百五十八條同第二百二十四條ニ照シ無罪ヲ言渡ス

旨判決シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク上告第一論旨ニ膠ハ酒造稅則第二條中ノ酒類ニ非サル旨論告スレモ本條ニ其他醸造シタル者云々ノ明文アリテ素ヨリ膠ハ醸造ノ酒類ニシテ本條第一類ニ包含スル者ナレハ膠ヲ隠蔽シタル者ハ全則第三十二條ノ制裁ヲ免ル、ヲ得サル者トス故ニ第一第二論旨共相立タス而テ原判文ニ被告カ無届ニテ届石數ヲ變換シタル所爲ニ對シ酒造稅則第二十六條全第三十五條ヲ適用シタリ抑其第二十六條ニ違犯シテ第三十五條ノ罪ヲ成立スルハ單ニ二十六條ヲ犯シタル而已ニ限ルモノニシテ本案ノ如キ已ニ其酒類ヲ隠蔽シタル場合ニ在テハ二十六條ノ違犯モ共ニ隠蔽ノ罪ニ歸シ各別ニ犯罪ヲ構造セサル者トス然ルヲ原裁判茲ニ出テス前記ノ刑ヲ併科シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス

酒造稅則違犯 明治十九年  
第四百拾六號

醜及醜ヲ隠蔽シタル場合ニ於テ罰金ヲ科スルハ醜ノ現石數ニ依ルヘキヤ將々之ヲ清酒ト爲シタル石數ニ依リ科スヘキモノナリヤ否

無届無檢印ノ酒造器械ヲ使用シタル者ハ無届ト無檢印トヲ二個ノ所爲トシテ各別ニ處斷スヘキヤ將々無届ノ所爲ハ之ヲ罰セサルヤ否

静岡縣遠江國豊田郡三家村平民秋山福次郎ニ對スル被告事件

初審 濱 松 支 廳

本件ノ事實ハ被告福次郎ニ於テ届濟酒醜量數ノ外ニ若干ノ醜ヲ過造シ内若干ヲ以テ清酒醜ヲ製シ殘醜ト共ニ隠蔽シ又酒造諸器械ハ無届無檢印ノ儘之ヲ使用セシモノニテ初審裁判所ハ被告カ酒類隠蔽ノ所爲ニ對シテハ酒造稅則改正第三十二條及ヒ明治十四年第七十二號布告第三條ニ依照シ其隠蔽酒類ヲ沒收シ之カ現石數ニ相當スル造石稅

三倍ノ罰金ニ處シ又酒造器械ノ届ヲ爲サ、リシト検査ヲ受ケスシテ之ヲ使用シタルトノ二個ノ所爲ニ對シテハ酒造稅則第廿七條及ヒ酒造稅則改正第二十條第一項第三十五條第一項第二項及ヒ第三十七條ニ依照シ各罰金貳圓ニ處シ其酒造器械ヲ沒收スル旨言渡シタリ然ルニ被告福次郎ニ於テハ抑醜及ヒ醜ナル者ハ之ヲ清酒ニ製成スルキハ若干ノ數量ヲ減スルモノナルニ原裁判所カ醜ノ石數ヲ以テ清酒ノ石數ト同視シ醜ノ現石數ニ依リ罰金ヲ科シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナル旨上告シタリ而シテ刑事局ニ於テハ上告ノ論旨ハ相立タストシテ之ヲ斥ケシモ原裁判官ニ於テ被告カ無届無檢印ノ儘酒造器械ヲ使用シタル所爲ヲ以テ二個ノ所爲ト爲シ各罰金貳圓ニ處シタルハ擬律ニ錯誤アル不當ノ裁判ナリト認メ治罪法第四百三十一條ニ從ヒ此一部分ヲ破毀シ直チニ被告福次郎ニ對シ原裁判言渡ノ内諸器械ノ届出ヲ爲サ、リシ所爲ニ對シ罰金貳圓ニ處シタル部分ヲ取消スモノナリ

トノ判決ヲ與ヘタルモノニ係ル  
 其理由ニ曰ク上告ノ主要ハ隱蔽シタル酩酊ヲ清酒ニ引直サスシテ罰  
 金ニ處シタルハ不當ナリト云フモ凡ソ酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類  
 ノ製成タルト醗酲タルトヲ問ハス其隱蔽シタル現在高チ以テ罰金ヲ  
 算定スヘキ者タルハ酒造稅則第三十二條ニ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ  
 石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシトアリテ其現石數ヲ指  
 シタルト明白ナレハ上告論旨ハ相立タス然レモ原判官ニ於テ被告カ  
 酒造器械届出ヲ爲サ、ルハ酒造稅則改正第三十五條第一項ニ照シ檢  
 査ヲ受ケスシテ使用シタルハ同條第二項ニ照シ二個ノ所爲トナシ各  
 罰金貳圓ニ處シタルハ頗ル不當ト云ハサルヲ得ス何トナレハ右三十  
 五條ヲ按スルニ第一項ハ同第二十七條等違犯者ノ制裁ニシテ第二項  
 ハ同第二十條等違犯者ノ制裁ナレハ各別ニ其二個ノ所爲アル場合之  
 ヲ併科スルハ素ヨリ論ヲ埃スト雖モ本按被告所爲ノ如キハ前二十條

ニ所謂酒造用諸器械ハ使用前管廳へ申出検査ヲ受ケトアルニ違犯シ  
 尋テ其器械ヲ使用シタル者ニシテ即チ前二十七條ニ諸器械共豫テ届  
 出ヘシトアルニ其届出ヲナサ、ル所爲ノ結果ナレハ之ヲ二個ノ所爲  
 トナス可ラサルハ法理ノ然ラシムル所ナレハナリ

酒造稅則違犯 明治十九年  
第五百七拾四號

無届ノ器械ヲ以テ蒸溜シタル燒酎ヲ隱蔽シタル者ハ其無届ノ器  
 械ヲ使用シタル所爲ニ付テモ酒造稅則第三十五條第二項ノ制裁  
 ヲ受クヘキモノナリヤ否

富山縣越中國婦負郡御門村平民酒造營業酒井清藏ニ對スル被告

事件

初審 富山輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告清藏ニ於テ無届ノ器械ヲ以テ蒸溜シタル燒酎三斗  
 三升ヲ隱蔽シタルモノニシテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ニ對シ酒造

税則第三十二條ニ依リ其蒸溜酒ヲ沒收シ之ニ相當スル造石税三倍ノ罰金五圓貳拾五錢ヲ科シ檢察官ニ於テ被告カ無届ノ器械ヲ使用シタルハ税則第三十五條第二項ニ依リ處罰スヘキモノナリトノ要求アリシニモ拘ハラス但書ヲ以テ検査ヲ受ケサル釜桶等ハ隱蔽酒蒸溜用ニ供シタルニ過サルモノノ付酒造税則第三十五條第二項ヲ適用シ處罰スヘキ限リニアラスト之カ還付ノ言渡ヲ爲シタルニヨリ檢察官ニ於テハ酒造用諸器械ハ使用以前管廳ニ届出ヘキモノナルハ税則第二十條ノ規定スル所ナルニ原裁判所カ前顯但書ノ如ク漫ニ處罰スヘキ限リニアラスト斷言シ罪ノ有無ヲ判決セサルハ頗ル誤斷ニシテ所謂訴ヲ受ケタル事件ヲ裁判セサルモノナリ加之ナラス隱蔽燒酎ハ三斗三升ナレハ其造石税壹圓六拾五錢ノ三倍ハ四圓九拾五錢ナルニ罰金五圓貳拾五錢ヲ科シタルハ不法ノ裁判ナル旨上告シタリ依テ刑事局ニ於テハ其造石税ノ點ニ付テ爲シタル上

告ヲ以テ理由アルモノト爲シ治罪法第四百三十一條ニ則リ其一部ヲ破毀シ直ニ被告清藏ニ對シ税則第三十二條ニ依リ其酒類ヲ沒收シ仍ホ造石税壹圓六拾五錢ノ三倍即チ罰金四圓九拾五錢ニ處スル旨判決シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク上告第一點第二ニ於テ原裁判ハ訴ヲ受ケタル事件ニ對シ判決ヲ爲サス酒造器械ノ検査ヲ受ケサル前ニ於テ使用セシ所爲ニ對シ罰金ヲ科セサルハ不法ナリト論訴スルモ原判文上酒造税則第三十五條第二項ヲ適用處罰スヘキ限ニアラス云々ト言渡シアレハ只々見解ヲ異ニセシヨリ詳細ノ理由ヲ付セサルニ止マリ請求ヲ受ケシ事件ニ對シ判決ヲ爲ササルモノト云フヲ得ス殊ニ酒造營業者ニシテ其用ニ供スル器械ヲ管廳ニ申出テ検査ヲ受クルハ正當ナル業ヲ爲スニ使用スル場合ヲ指稱スルモノニテ營業外不正ニ使用スルカ如キ物品ハ税則第二十條初項ノ規則外ナルヲ論テ俟タサ

ノハ酒造税則第三十五條第二項ヲ適用處斷スルノ限リニアラスト  
判定セシハ其當ヲ得タルモノニ付前第一二項ノ論旨ハ共ニ採用セ  
スト雖モ燒酎三斗三升ヲ隱蔽セシ所爲ニ對シ税則第三十二條ニ依  
リ過當ノ罰金ヲ科シタルハ上告第三論旨ノ如ク即チ擬律ヲ錯誤セ  
ル不法ノ裁判ナリトス

酒造税則違犯 明治十八年  
第貳千貳百九拾四號

酒造營業者ニシテ醬麴ノ受賣ヲ兼業スルモノハ其酒造場ノ内外  
ヲ論セス渾テ酒造税則第二十一條ノ違犯者ヲ以テ論シ同則第三  
十六條ノ制裁ヲ受クヘキモノナリヤ否

岩手縣陸中國膽澤郡盞釜村平民酒造營業人菊地清治ニ對スル被  
告事件

初審 磐 井 支 廳

本件ノ事實ハ被告清治ニ於テ其長男新吉ノ名義ヲ以テ高田善助ノ

店頭ヲ借受醬麴受賣ヲ營業シタルモノニシテ初審裁判所ハ右ノ所  
爲ニ對シ被告ハ酒造營業者ニシテ醬麴受賣ヲ兼業スル能ハサルニ  
付云々長男新吉ノ名義ヲ僞リ云々高田善助ノ店頭ヲ借受ケ免許ヲ  
得テ醬麴受賣營業シタルハ酒造税則第二十一條ニ違犯シタルモノ  
ト確認ストテ同則第三十六條ニ依リ罰金若干圓ニ處シ仍ホ賣捌キ  
タル醬麴代金若干圓ヲ追徴スル旨言渡シタリ然ルニ被告ニ於テハ  
酒造税則第二十一條ハ酒造營業者ニ對シテ醬麴ノ販賣ヲ禁止シタ  
ルニ止マリ家族等カ他家ニ於テ其受賣ヲ爲ストマテモ禁シタルモ  
ノニアラサレハ其場所ヲ異ニシタル以上長男新吉ノ名義ヲ僞ルノ  
道理ナキノミナラス被告ハ毫モ該營業ニ關係ヲ有セサル者ナレハ  
旁同則ノ違犯者ニアラサルヤ明カナルニ前顯ノ如ク所斷セラレタ  
ルハ不服ナル旨上告シタリ依テ刑事局ニ於テハ治罪法第四百二十  
九條ニ法リ原裁判ヲ破毀シ直チニ被告清治ニ對シ原裁判官カ認定

シタル事實ニ依レハ被告ノ所爲ハ罪トナラサルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪ヲ言渡スモノナリトノ判決ヲ與ヘタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク今原裁判言渡書ヲ閱スレハ被告犯罪ノ事實ハ酒造營業者ニシテ醬麴受賣兼業スル能ハサルニ付云々長男新吉ノ名義ヲ僞リ云々高田善助ノ店頭ヲ借受免許ヲ得テ醬麴受賣營業シタルハ酒造稅則第二十一條ニ違反シタルモノト確認ス)トアツテ此認メタル事實ニ依レハ原裁判官ニ於テ被告人ヲ有罪視シタルハ被告清治ハ身酒造營業人ニアリナカラ醬麴受賣營業ヲ爲シタルハ酒造稅則第二十一條ノ禁制ヲ犯シタルモノト判定シタルニ過キス果テ然ラハ此判定タル全ク法律ノ誤解ニ出ツルモノト云ハサルヲ得ス如何トナレハ酒造稅則第二十一條ニ於テ酒造營業者ニ酒モトノ販賣ヲ禁スル所以ノモノハ原ト酒造營業者ニ限テハ酒モト即チ醬麴ヲ製造シ其酒造用ニ供セシ

トスルニハ別ニ醬麴營業稅則ニ依リ納稅セズ製造シ得ヘキモノナルヲ以テ其酒造用ニ供スル爲メ製造シタル醬麴ハ勿論其供用ノ爲メ他ヨリ買受ケタル醬麴モ亦之ヲ販賣スルヲ許サ、ルノ精神ニ止リ酒造場外ニ於テ受賣ヲナスヲマテ禁制シタルニ非サルヤ其第二項ニ酒造上不用ニ屬シタル場合ニ限り同業者ニ販賣スルハ苦シカラサル明文アツテ判然タレハナリ然ラハ則チ原裁判官ニ於テ罪トナラサル事實ヲ認メナカラ法律ノ誤解ヨリ遂ニ有罪視シ前掲ノ如ク處斷シタルハ擬律ニ錯誤アル失當ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノト判定ス既ニ此點ヲ以テ破毀ヲ認メタル上ハ上告點ニ對シ辨明スルノ必要ナキニ付之ヲ與ヘス

酒造稅則違反 明治十九年  
乙第七拾二號

酒造ヲ營業ト爲ス者酢ノ販賣ヲ爲シタルハ假令其資格ト場所トヲ異ニシタル場合ト雖モ酒造稅則第二十一條ノ違反者ヲ以テ

論ニ同則第三十一條ノ制裁ヲ受クヘキモノナリヤ否  
長野縣信濃國南佐久郡小宮山村平民酒造兼醬油營業諸澤良助ニ  
對スル被告事件

初審 上 田 支 廳

本件ノ事實ハ被告良助カ酢ノ販賣ヲ爲シタル所爲ニ對シ初審裁判所  
ハ被告ハ酒造營業所ト醬油製造所トハ番地ト場所トヲ異ニシ醬油製  
造所ニ於テ醬油製造人ノ資格ヲ以テ酢ノ賣買ヲ爲シタルモノナレハ  
酒造營業ニ關係ナキ者ニシテ犯則ニ非スト云フモ被告ハ酒造醬油製  
造兼業ノ者ナレハ其場所ヲ異ニスルモ同一ノ人ニシテ酒造營業人ニ  
非スト云フヲ得サルモノトシ酒造稅則第二十一條ニ依リ同則第三十  
六條ニ照シ罰金若干圓ニ處スル旨言渡シタルニ被告ニ於テハ被告カ  
酢ノ販賣ヲ爲シタルハ酒造營業場トハ番地ト場所トヲ異ニシタル醬  
油營業場ニ於テ醬油營業人ノ資格ヲ以テ爲シタルモノニテ恰モ兵庫

縣下ニ於テ酒造業ヲ爲ス者カ千葉縣下ニ醬油營業ヲ爲スト一般遠近  
ノ差ハアルモ道理ニ於テ敢テ異ナルコトナク二個ノ資格ヲ具有スルコ  
當然ナルニ原裁判所カ其事實ヲ認メナカラ前顯ノ如キ裁判ヲ下セシ  
ノミナラス押收シタル酢ノ處分ニ付何等ノ裁判モ與ヘザリシハ擬律  
錯誤ノ裁判ナル旨上告シタリ而シテ刑事局ニ於テハ原裁判ヲ以テ事  
實理由ヲ明示セサル不法ノ裁判トシ治罪法第四百二十八條ニ則リ其  
全部ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク酒造稅則第三條免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及ヒ造石稅  
ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ酒造免許稅酒造場一ヶ所ニ付金三拾圓云々  
又酒造稅則取扱心得書第三項ニ酒造場ハ倉庫ノ棟數ト製酒ノ種類ト  
ヲ問ハス都テ其一區域ヲ以テ一ヶ所トシ免許鑑札ヲ授與スヘシトア  
リテ酒類ヲ製造スルハ其免許ヲ受ケタル一區域内ト製造資格人アル  
者ニ限ルハ勿論ナレハ酒造稅則第二十一條ニ酢ノ販賣ヲ禁シタルハ

其資格ト場所トニ依リ制禁シタル事明白ナルヲ以テ該條ノ違犯事件ヲ審判スルニハ此二條件ヲ審究判明スルヲ緊要ナリトス今原判文ヲ審檢スルニ被告人ハ酒造醬油兼營業人ニシテ云々酢ヲ仕入レ小賣ト爲シタル合計壹斗三升此代金壹圓三拾錢ナル者也トアリ又其後段ニ被告ハ酒造醬油製造兼業ノ者ナレハ其場所ヲ異ニスルモ同一ノ人ニシテ酒造營業人ニ非スト云テ得サル者トストアリテ被告カ酢ヲ販賣セシ場所ヲ判明セサルノミナラス醬油及ヒ酒造兼業者ナレハ場所ノ如何ニ關セサルモノ、如ク判定シ此緊要欠ク可カラサル事實理由ヲ明示セサレハ未タ以テ擬律ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナク即チ治罪法第三百四條ニ違背セシ不法ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノトス

酒造稅則違犯 明治十九年  
第千百貳拾六號

家族又ハ雇人カ免許ヲ受ケス自用ノ酒類ヲ釀造シタル場合ニ於テハ一家ノ用料ナルト自己ノ用料ナルトヲ問ハス又酒造營業者

又ハ自家用料酒釀造免許者ナルト否トヲ論セス總テ酒造稅則附則第九條及ヒ酒造稅則第三十八條ニ依リ處斷スヘキ者ナリヤ否  
千葉縣下總國東葛飾郡根本村平民常吉母燒芋賣買渡世橋本タツ  
ニ對スル被告事件

初審 千葉輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告タツニ於テ免許ヲ受ケス濁酒若干ヲ釀造シタルモノニテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ニ對シ被告タツニ於テハ自用ノ爲メ無免許ニテ濁酒ヲ釀造シ置キタルヲ某年月日巡回ノ巡查某々ノ爲メ看破告發セラレタルモノニテ其事實ハ巡查某々ノ告發狀等ニ參照シ明白ナリト雖モ酒造稅附則第九條ニ據リ酒造稅則第三十八條ニ照ストキハ其責ニ任スヘキ者ハ戶主ニシテ被告タツニ至ラサルモノト認メタリトノ判決テ下シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルニ檢察官ニ於テハ酒造稅則第三十八條ハ酒造營業者又ハ自家用料酒釀造ノ免許ヲ受ケタ



ル者ニ對シテ適用スヘキ法條ニシテ酒造營業者又ハ自家用料酒釀造  
 免許者ニアラサル者ノ家族雇人ニシテ無免許酒造ヲ爲シタル場合ニ  
 於テハ其事ニ關係ナキ家主ニ責任ナキヤ論ヲ俟タス即チ犯則本人チ  
 罰スヘキモノナリトノ主旨ヲ以テ縷々原裁判ノ擬律錯誤ナルヲ論  
 告シタリ然レニ刑事局ニ於テハ上告ノ理由ニ依ラス原裁判ヲ以テ事  
 實理由ニ齟齬スルノミナラス付スヘキ理由ヲ付セサル失當ノ裁判ナ  
 リト認メ治罪法第四百廿八條ニ從ヒ其全部ヲ破毀シタルモノニ係ル  
 其理由ニ曰ク酒造稅則第三十八條全附則第九條ノ法則タルヤ一ノ免  
 許營業者若クハ自用酒釀造免許者在テ其家族或ハ雇人ノ所爲ニ於ケ  
 ル犯則アルハ營業者免許者ニ於テ假令其情ヲ知ラサルモ該本主ヲ  
 處罰スルノ律意ナルヲハ其法文ニ徵シテ粲然タル者ナレハ果シテ本  
 件ノ釀酒ハ被告一己ニ使用スル爲メナラシメハ上告ノ論旨最モ適當  
 ナルモ原判文ヲ閱スルニ被告「タツ」ニ於テハ自用ノ爲メ無免許ニテ濁

酒ヲ釀造シ置キタルヲ云々看破告發セラレタルモノニテ其事實ハ云  
 々明白ナリト雖モ云々其責ニ任スヘキ者ハ戶主ニシテ被告「タツ」ニ至  
 ラサルモノト認メタリトアリテ該前段ノ事實ニ依レハ右ニ説明スル  
 カ如ク被告「タツ」一己自用ノ爲メ釀造セシモノ、如ク果シテ然レハ其  
 責ニ任スヘキ勿論ナレニ後段ノ理由ニ於ケルヤ其責戶主ニ歸スヘキ  
 云々認メタリトアルニ依レハ又戶主カ一家自用ノ爲メ被告ニ釀酒セ  
 シメタルモノ、如ク若シ果シテ此事實ヲ適實ナリトセハ被告ハ無罪  
 タルヘキモ其事由前後牴觸スルノミナラス該責任ハ何等ノ理由アリ  
 テ其戶主ニ歸スヘキモノ乎其理由ヲ付セサルヲ以テ爰ニ被告「タツ」カ  
 無罪タル乎將タ有罪ナルヤノ事由ヲ鑑別スルヲ能ハス之ヲ要スルニ  
 原裁判ハ事實理由ニ齟齬スルノミノミナラス附スヘキノ理由ヲ附セ  
 サル失當ノ裁判ト認ルニ依リ破毀スヘキ者ト裁決ス

酒造稅則違犯 明治十九年  
第千貳百拾四號

戸主ニ非ル者免許ヲ受ケス自用ノ酒類ヲ釀造シタルモハ戸主其責ニ任スヘキヤ否

千葉縣上總國市原郡山小川村平氏伊之太郎祖父菓子小賣營業清水與八ニ對スル被告事件

初審 千葉輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告與八ニ於テ免許ヲ受ケス自用ノ濁酒若干ヲ釀造シタルモノニテ初審裁判所ハ被告カ自用ノ爲メ無免許ニテ濁酒ヲ釀造シタルハ明晰ナリト雖モ酒造稅則附則第九條ニ因リ酒造稅則第三十八條ニ照スルハ其制裁ヲ受クヘキモノハ戸主ニシテ被告ニ非サルモノト認定スト無罪ノ言渡ヲ爲シタルニ檢察官ニ於テハ酒造稅則第三十八條ニ其營業者ヲ處罰ストアルハ酒造營業者タルノ故ヲ以テ其責任ヲ營業者ニ負ハシメタルモノニシテ戸主タリ家族雇人タルノ故ニ非ス素ヨリ本案ノ如キ酒造營業者ニ非ス又自家用料酒釀造免許人ニ

モ非サル者ナレハ其情ヲ知ラサル以上ハ犯則本人ヲ罰スヘキト勿論ナルニ前顯ノ如キ裁判ヲ下セシハ擬律錯誤ノ裁判ト思料スル旨上告シタリ依テ刑事局ニ於テハ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ直ニ被告與八ニ對シ所犯新酒造稅則付則施行前ニ在ルヲ以テ新舊稅則ヲ比照スルニ（舊則第十八條）其罰等シキヲ以テ改正酒造稅則附則第十條ニ照シ罰金三圓ニ處シ製造ノ濁酒及釀造桶ヲ沒收スル旨言渡シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク酒造稅則附則第九條ニ此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ストアリ其第三十八條ニ酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルモハ總テ其營業者ヲ處罰ストアルニ依レハ附則第九條ノ如キモ一家飲用ノ爲メ酒類ヲ釀造スル場合ニ於テハ假令戸主其情ヲ知ラサルモ其責メニ任セサル可カラサルハ該條ノ精神ナリトス何トナシハ其利害ノ及フ處戸主ノ

財産ニ直接ノ關係アレハナリ然リ而テ原判文ヲ閱スルニ被告ハ孫伊之太郎ヨリ金若干ヲ貰受ケ該金員ヲ以テ麴ヲ買入レ己レ所有ノ米ニ混和シ自己飲料ノ濁酒ヲ釀造シタルモノナリトノ事實ヲ認メアレハ其一家ノ爲ニスルニ非ラスシテ自飲料タルヲ明カナレハ到底被告ハ酒造税則附則第一條ノ違犯者タルヲ免カル可カラス然ルテ原裁判茲ニ出テス同則第九條及ヒ本則第三十八條ニ照依シ無罪ノ言渡ヲナシタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ定ムル上告ノ原由アリトス

酒造税則違犯 明治十八年  
第七百九十七號

自家用料酒釀造ノ免許ヲ受タル者其醗ノ造込ヲ同一ノ免許ヲ受タル他人ニ依頼シタル場合ニ於テハ之カ造込ヲ爲シ與ヘタル者モ亦法律ノ制裁ヲ免カレサルヤ否

福井縣越前國坂井郡折戸村平民農大島勘右衛門同縣同國同村平

民農牧野吉兵衛ニ對スル被告事件

初審 福井輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告勘右衛門ニ於テ自家用料酒若干ノ製造免許ヲ受ケ其醗ノ造込ヲ爲スニ際シ偶事故ノ生セシカ爲メ其造込ヲ爲シ難キヨリ之ヲ同一ノ免許ヲ受タル被告吉兵衛ニ依頼セシニ吉兵衛ニ於テ其依頼ニ應シ自己ノ醗ト共ニ自宅ニ於テ其造込ヲ爲シ與ヘタルモノニシテ右被告兩名ノ所爲ニ對シ初審裁判所ハ被告勘右衛門ノ所爲ハ酒造税則附則第四條ニ違背セシモノニシテ同第八條ニ該當スルモノナルモ吉兵衛ノ所爲ハ法律ニ之ヲ罰スヘキ正條ナキヲ以テ被告勘右衛門ヲ罰金三圓ニ處シ醗若干ヲ沒收シ吉兵衛ハ刑法第二條ニ依リ無罪ナル旨言渡シタリ然ルニ檢察官ニ於テハ被告吉兵衛ノ所爲ハ被告勘右衛門ノ犯罪ヲ幫助シタル從犯者タルヲ明瞭タリ依テ被告ノ所爲ハ酒造税則附則第九條ニ照シ本則第三十七條ニ從犯ノ例ヲ用ヒストノ

明文ナキ以上刑法第五條ニ基キ同第九條ニ照シ罰ス可キ正條アルハ辯ヲ要セサルニ前顯ノ如ク法律ニ正條ナシトシテ無罪ノ宣告ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ヲ免カレサル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於テハ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却セシモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑刑法第九條タルヤ其明文ノ如ク人ノ重輕罪ヲ犯スヲ知テ器具ヲ給與スルカ又ハ誘導指示シ或ハ其他ノ豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ現ニ其事ヲ行ハス人ノ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ニ適施スヘキ法章ニシテ現ニ其事ヲ行フタル以上ハ即チ正犯ナルヲ以テ該條ノ支配スヘキモノニ非ス然レモ其行ヒタル事柄ニ依リ假令共行ニ係ルモ一ハ罪ト爲リ一ハ罪ト爲ラサルアリ則チ本件ノ如キ之レナリ原ト刑法上ノ犯罪ト異ナリ本案稅則ノ如キハ其明文アリテ家族雇人等カ其法則ヲ犯スモ營業者ヲ罪トシ罰スヘキモノニシテ一ノ特別法ナレハ刑法ノ總則ヲ援キ共犯或ハ從犯トスルヲ得ス爰ニ又酒

造稅則附則ヲ閱スルニ其第四條ニ自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之レヲ製造スルヲ得ストアルヲ以テ之ヲ犯ス者ハ同第八條ノ制裁ヲ受クヘキモ之レニ反シ附則中代造ヲ禁シタルノ正條ナシ然ラハ被告カ壹石以内ノ代造ヲ爲シタリトテ本則ニ依ルヲ得サルハ勿論其所爲ハ犯罪ヲ以テ論斷スヘキモノニ非ス又豫備ノ所爲ヲ以テ人ノ犯罪ヲ容易ナラシメタル者トモ云フヲ得ス歸スル處勘右衛門カ住居セル一家ノ外ニ於テ製造シタリト云フノ一點ニ於テ罪アルノミ故ニ原判官カ被告カ所爲ハ法律ニ罰ス可キノ正條爲シトシ刑法第二條ニ依リ無罪ヲ言渡タル至當ノ裁判ニシテ聊カ擬律上錯誤アルニ非ス畢竟法律ノ見解ヲ誤リタル論告ナルヲ以テ相立タサルモノト裁定ス

酒造稅則違犯 明治十九年  
第千四十七號

無免許ニテ酒類營業ヲ爲スノ情ヲ知り其依頼ニ應シ酒類醬麴ヲ

製造シタル者ハ酒造税則第二十九條ノ制裁ヲ受クヘキモノナリ  
ヤ否

秋田縣羽後國南秋田郡土崎湊愛宕町平民麴屋營業船越谷長吉ニ  
對スル被告事件

初審 秋田輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告長吉ニ於テ三浦卯三郎ナル者カ無免許ニテ酒類營  
業ヲ爲スノ情ヲ知り其依頼ニ應シ清酒并ニ酒造用醬麴若干ヲ製造シ  
タルモノニシテ初審裁判所ハ右ノ所爲ヲ以テ酒造税則第二十九條ニ  
該當スルモノト爲シ被告ヲ免許税二倍ノ罰金ニ處スル旨言渡シタル  
ニ被告ニ於テハ被告ハ單ニ一日若干ノ賃錢ヲ以テ卯三郎ニ雇ハレ該  
事業ニ從事シタルマテナレハ税則第三十八條ニ照シ無罪ナルヘキニ  
前顯ノ如ク所斷サレタルハ不服ナル旨上告シタリ依テ刑事局ニ於テ  
ハ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直ニ被告長吉ニ對シ

被告ノ所爲ハ法律上罰スヘキモノニアラサルヲ以テ治罪法第三百五  
十八條ニ依リ無罪ヲ言渡ス旨判決シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク酒造税則ハ一種ノ取締法ニシテ特ニ酒造ヲ以テ營業ト  
爲ス者ヲ檢束スル爲メ設ケタルモノナレハ無免許ニテ酒類ヲ製造ス  
ル場合ニ於テモ單ニ其本人ヲ罰スルニ止マリ餘人ニ在ツテハ縱シヤ  
干涉セシ事實アリトスルモ刑法ノ共犯例ヲ適用シテ處斷ス可カラサ  
ルヤ明ラカナリ然レハ今被告長吉ハ三浦卯三郎カ無免許ニテ酒類營  
業ヲ爲スノ事實ヲ知リテ爲メニ清酒五石三合及ヒ酒製造ニ用ユル爲  
メ醬麴壹石四斗壹合ヲ製造シタルモノトスルモ法律ノ制裁ヲ受クヘ  
キモノニアラストス故ニ本案事實ニ付テハ宜ク治罪法第三百五十八  
條ニ照シ被告ニ無罪ヲ言渡スヘキモノナルニ原裁判所ニ於テ徒タニ  
無免許ニシテ酒類ヲ製造シタルモノトシ酒造税則第二十九條ニ據リ  
處斷シタルハ擬律ノ錯誤タルヲ免カンスシテ即チ治罪法第四百十條

第十ノ場合ニ該當スル破毀ノ原由アルモノトス然リ而シテ前ニ辯セシ如ク本案事實ハ法律ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラスト認メタルヲ以テ被告カ上告論旨ニ付テハ別ニ判明ヲ要セス

酒造税則違犯明治十九年第五百十九號

他人カ犯則ノ酒造ヲ爲スノ情ヲ知り自宅ヲ酒造場ニ貸與シタル者ハ酒造税則第二十二條及第三十六條ノ制裁ヲ受クヘキモノナリヤ否

鹿兒島縣薩摩國薩摩郡西手村三百七十壹番戸平民前田小次郎ニ對スル被告事件

初審 鹿兒島輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告小次郎ニ於テ某ナル者カ他ニ販賣營業スルノ情ハ知ラスト雖モ其造石高ノ一石以上ニ超過スルコトハ承知ノ上之カ依頼ニ應シ自宅ヲ造酒場ニ貸與セシモノニテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲

ヲ以テ某ノ犯罪ヲ容易ナラシメタルモノト認定シ酒造税則第二十二條及第三十六條ニ照シ罰金若干圓ニ處スル旨言渡シタルニ定期内上訴者ナク其裁判確定セシヲ以テ大審院檢事長ハ酒造税則改正第二十二條ハ單ニ酒造營業人カ其酒釀場ヲ非營業人ニ貸スコトヲ禁止シタル法律ナレハ被告ノ所爲ハ法律上罪トナルヘキモノニアラサルニ原裁判所カ前顯ノ處斷ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナル旨其職權ヲ以テ非常上告ヲ爲シタリ依テ刑事局ニ於テハ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判ヲ破毀シ直チニ被告小次郎ニ對シ被告ノ所爲ハ法律上罪トナラサルモノニ付治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪ナル旨判決シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク凡ソ規則ハ一般人民ノ遵守セサル可カラサルモノト特定ノ人ノミ之ヲ遵守スヘキモノトノ二種アリ本案酒造税則ノ如キハ酒造營業者ヨリ税ヲ徵スル爲メニ設ケタル規則ナレハ酒造營業者即

チ特定ノ人之レヲ遵守スヘキ者ニシテ常人一般之ヲ遵守セサル可ラ  
サル責ナキモノトス然ルヲ原裁判所ニ於テ酒造營業者ニ非サル前田  
小次郎カ前田彌助ノ酒造ヲ爲ス酒造場ニ自宅ヲ貸與シタル事實ニ對  
シ酒造稅則ノ制裁ヲ及ホシ之ヲ所罰シタルハ所謂罪トナラサル事實  
ニ對シ罪ヲ科シタルモノニシテ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリ  
トス

酒造稅則違犯 明治十八年  
第千八百三號

親屬ノ依頼ニ應シ酒類ノ隱蔽ヲ爲シタル者ハ刑法第五百十二條  
及同第五百十三條ニ依リ處斷スヘキモノナリヤ否

福島縣岩代國北會津郡南四合村平民農長尾大倍妻長尾トクニ對  
スル被告事件

初審 若 松 支 廳

本件ノ事實ハ被告トクニ於テ親族長尾源治ナル者ノ依頼ニ應シ若干

ノ清酒及膠ヲ自宅ニ隱蔽シタルモノナリ然ルニ公判ノ末檢察官ハ被  
告ヲ以テ全ク親族ノ間柄ヨリ依頼ニ應シ預リシ迄ニテ不正品タルノ  
情ヲ知テ隱蔽セシモノニアラスト認メ公訴權ヲ拋棄スル間無罪ノ言  
渡アラノトヲ希望スル旨陳述シタリ然レモ初審裁判所ハ被告ヲ以テ  
其情ヲ知リタル者ト判定シ其所爲ハ刑法第五百十二條ニ該當スルモ  
ノナルモ親族ニ係ルヲ以テ同第五百十三條ニ依リ無罪ニ處スル旨言  
渡シタリ爰ニ於テ檢察官ハ原裁判所カ被告ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シ  
タルハ固ヨリ相當ナルモ同官カ公訴權ヲ拋棄シタルハ被告カ犯罪ノ  
證憑充分ナラサルニ依リシモノナルヲ原裁判官ハ何等ノ理由ヲモ附  
セス被告ヲ以テ隱蔽ノ罪アリトシ之ヲ親族例ニ照シテ處斷シタルハ  
違法ノ裁判ト思料スル旨上告シタリ然ルニ刑事局ニ於テハ上告論旨  
モ採用セス亦タ原裁判モ適法ト認メサルモ販スル所到底無罪ナルヲ  
以テ敢テ破毀スルノ必要ナキモノトシ之ヲ棄却シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク本件上告ノ要旨ハ原裁判ハ被告人カ不正品タルノ情ヲ知リタルヤ否ヤノ理由及ヒ證據ヲ明示セスシテ罪證隱蔽ノ罪アリト爲セシハ不法ナリト云フニ在レモ原判文ヲ査閲スルニ被告トクハ明治十八年一月二十日夜酒造營業人長尾源治ニ於テ同人醸造セシ清酒ニ斗入樽三本及ヒ醪三十四本ヲ隱蔽スルニ際シ同人ノ依頼ニ應ジ之ヲ被告ノ宅ヘ隱蔽シタルモノナリ而テ被告ハ長尾源治ト親屬云々其證據ハ被告ノ自白云々トアリテ被告カ不正品タルノ情ヲ知リシト認メタルヤ論ヲ竣タサルノミナラス又其證據ノ點ニ於テモ被告ノ自白云々トアレハ則之レカ明示ナキモノト云フヲ得ス故ニ上告論旨ハ相立ス然レモ原判文ニ掲クル處ノ被告ガ所爲ハ罪證隱蔽ニアラスシテ長尾源治カ酒類ヲ隱蔽スルヲ幫助シタルモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ酒類ハ其營業者カ隱蔽シ初テ之レカ罪ノ成立ヘキモノニシテ未タ罪證隱蔽ト云フヘキニ非ラサレハナリ然ラハ則被告ハ源治カ從

犯ヲ以テ論スヘキモノ、如シト雖モ酒造稅則違犯即酒類隱蔽ノ如キハ他人之レニ關與スルモ總テ其營業者ヲ罰スヘキ特例ナクハ刑法第百九條ヲ適用スヘキモノニアラサルヲ以テ被告カ所爲ハ素ヨリ罪トナラサルモノトス然ルニ原裁判官ハ上文ノ如ク刑法第百五十二條同第百五十三條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ヲ免カレサルモ到底無罪ニ歸スルモノナレハ敢テ破毀スヘキノ必要ナキモノトス

酒造稅則違犯 明治十八年  
第七百七十五號

検査既濟ノ酒桶ヲ輪替シタルモハ假令ヘ桶形容量ニ伸縮増減ヲ生セサルモ其都度之カ検査ヲ受ケサレハ稅則第二十條ノ制裁ヲ免カレサルモノナリヤ否

千葉縣上總國長柄郡德增村五十八番地平民酒造營業平川信太郎  
ニ對スル被告事件

初審 千葉輕罪裁判所



本件ノ事實ハ被告信太郎ノ雇人某ニ於テ曩ニ改正検査ヲ受ケタル酒桶二本ノ留メ輪壹ヶ所ヲ輪替シ桶形容量ニ伸縮増減ヲ生セサルヲ以テ検査ヲ受ケサルモ差支ナキモノト思量シ其儘之ヲ使用シ居タルモノニテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ノ如キハ酒造税則第二十條ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非ストナシ刑法第二條ヲ適用シ無罪ノ言渡シヲ爲シタリ然ルニ檢察官ニ於テハ明治十三年第四十號布告酒造税則第二十條ニハ酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前云々ノ法文アリシニ明治十六年第二十六號布告ヲ以テ此條ヲ改正シ新製修繕ヲ問ハスノ語ヲ除却シタリ然レモ此改正ノ目的ハ修繕ハ罰セストノ意ニ出テシニアラス曾テ有ラサル所ノ第二項第三項ヲ加ヘ其範圍ヲ擴張シ自然新製修繕ヲ問ハスノ語冗文ニ歸セシヨリ之ヲ除却シタルモノナリ抑酒造用器械ノ如キ一旦之ニ修繕ヲ加フルルハ其内部ニ影響ヲ及ホシ之カ容量ヲ増減スル等ノ事ヲ生スルハ自然ノ勢ナルニ之カ検査ヲ要

セズトセハ遂ニ酒税ノ逋脱ヲ防禦スルヲ得ス是決シテ法律ノ趣旨ニ非ルナリ然ルニ原裁判官カ前顯ノ裁判ヲ下セシハ法文ノ解釋ヲ誤リタル擬律錯誤ノ裁判ナリト思料スル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於テハ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却セシモノニ係ル其理由ニ曰ク酒造税則改正第二十條第一項ニ酒造用諸器械ハ使用以前管廳へ申出検査ヲ受ケ云々トアリ該文旨ニ據レハ検査ヲ受クルニアラサルヨリハ苟モ使用スルヲ得ス然レハ既ニ検査ヲ受ケタル器械ナリトモ其受ケタル検査ノ効力ヲ消除セシメタル場合ニ在リテハ検査未済ノ器械ト異ルナキヲ以テ使用以前更ニ検査ヲ受クヘキハ條理上然ラサルヲ得サルモノナリト雖修繕ヲ加ヘタリト云フノミヲ以テハ未タ該第二十條第一項ニ遵ハサルヘカラサルモノト云ヒ難シ何トナレハ該項ハ検査ヲ受ケテ使用スヘシト命令シタルマテニシテ検査ノ効力存滅ニ關セス修繕毎トニ管廳へ申出検査ヲ受クヘシトハ命令

セサレハナリ凡ソ桶ノ輪替ヲ爲ス如キハ其容量ニ増減ヲ來スヘキ恐  
レナシトセサルモ輪替ハ必ス容量ニ増減アリテ曾テ受ケタル検査ノ  
効力ヲ消滅セシムルモノト法律ノ以テ推定シ得ヘキニアラサレハ其  
効力存滅ノ如何ハ事實認定ノ如何ニ委セサル可カラサルナリ而原裁  
判官ニ於テ輪替ノ爲メ増減ヲ來セシモノト認メサリシヤ判文ニ徴シ  
明白ナルヲ以原裁判ハ擬律ノ錯誤ニアラサルモノト判定ス

酒造税則違犯明治十八年  
第三千八百三十四號

他人ノ鑑札并ニ器械等ヲ借用シ酒類ヲ製造販賣シタル場合ニ於  
テモ尙ホ酒造税則第二十九條ニ依リ其器械ヲ沒收スヘキモノナ  
リヤ否

高知縣土佐國香美郡久枝村平民中村馬次ニ對スル被告事件

初審 宇和島支廳

本件ノ事實ハ被告馬次ニ於テ大橋兼吾ナル者ノ酒造鑑札酒造場并ニ

酒造器械ヲ借用シ若干ノ酒類ヲ製造販賣セシモノニテ曩キニ中村支  
廳ノ所斷ニ服セス上告ノ末初審裁判所ニ移スノ判決ヲ受タルモノナ  
リ依テ初審裁判所ハ右ノ事實ハ被告ノ白狀大橋兼吾ノ告訴狀ノ幾部  
約定證酒造器械預リ證等ニ徴シ證憑充分ナリトシ其所爲ハ刑法第五  
條酒造税則第二十四條第三十條第二十九條并ニ改正第三條ニ依リ處  
分スヘキモノトナシ被告ニ對シ酒造器械ヲ沒收シ造石税三倍ノ罰金  
及免許税二倍ノ罰金ヲ併科シ并ニ酒類販賣代金ヲ追徴スル旨ヲ言渡  
シタルニ被告ニ於テハ初審裁判所カ被告ノ所有ニアラサル器械ニ對  
シテ沒收ノ言渡ヲ爲シタル點其判文ニ刑法第五條云々ニ依リトノミ  
アリテ該條二項ノ中何レニ依リシヤヲ明示セサル點及被告ハ始終無  
罪ヲ主張セシモノナルニ其判文ニ被告ノ白狀大橋兼吾カ告訴狀ノ幾  
分云々トアルハ如何ナル點ヲ採用セシモノナルヤ其理由ヲ明示セサ  
リシ點ニ付原裁判ヲ不法ナリトシテ上告シタリ而シテ檢察官ニ於テ

モ上告第二第三ノ論點ハ其理由ナキモノナシ第一ノ論旨ハ其當ヲ得タルモノナリトノ附帶上告ヲ爲シタリ依テ刑事局ニ於テハ治罪法第四百三十一條ニ從ヒ原裁判ノ一部ヲ破毀シ直ニ被告馬次ニ對シ原裁判所カ酒造器械ノ沒收ヲ言渡シタル一部ヲ取消ス旨ノ判決ヲ與ヘタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑沒收ノ刑ハ刑法第四十四條ニ明記シアル如ク應禁物ヲ除ノ外ハ犯人ノ所有ニ係ルカ又ハ所有主ナキ時ノ外沒收スルヲ得サルハ論ヲ竣サルナリ又同法第四十三條ノ但書ニ法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フトハ該條ニ掲ケタル三箇ノ外沒收ノ特條アルヲ示シタルモノニシテ則チ酒造稅則第二十九條等ノ如キ場合ヲ指示シタル法意ナルモ其物品ヲ沒收スルニ於テハ所有主ノ如何ヲ問ハストノ特定法ナカル可カラス然ルニ酒造稅則第二十九條ニ其特別法ノ規定ナキ以上ハ刑法第四十四條ニ依ラサ

ル可カラサルハ勿論ナリ今原判文ヲ閱スルニ酒造諸器械ハ被告人所有物ニアラスシテ大橋兼吾ヨリ借用セシ物品ナリトノ事實ヲ明認スル所ナレハ該品ヲ沒收ス可キ者ニアラス然ルニ之カ沒收スルノ言渡ヲ爲シタルハ被告カ上告第一論旨及ヒ原檢察官附帶上告ノ如ク擬律錯誤ニ該ルヲ以テ此點ハ破毀ノ理由アルモノトス又治罪法第三百四條ニ裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲スニハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ明示シ且一切ノ證據ヲ明示スヘシトアル其事實ノ理由トハ犯罪ヲ構成セル理由ヲ示スヘシトノ法意ニシテ證據ノ取捨上ニ對シ其理由ヲ詳悉掲クルモノニアラス只判官ノ心證ニ資リシ證據ヲ掲記スルヲ以テ足レリトス而テ法律ノ理由ハ其適用スル正條ヲ舉示スレハ其全文ヲ掲クルノ必要ナキモノナリ故ニ原判文ニ刑法第五條明治十三年第四十號布告酒造稅則第二十四條第三十條第二十九條云々ト舉示シ又其前項ニ被告ノ白狀大橋兼吾告訴狀ノ幾部約定證酒造諸器械預リ證

云々證憑充分ナリトアリテ尙ホ原書類ニ徴スルニ被告カ中村警察署ノ調書ニ大橋兼吾ヨリ酒造諸器械ヲ借受ケ兼吾カ名義ヲ以テ酒類ヲ醸造セシトハ自陳シアリテ事實及ヒ法律ノ理由證憑モ充分明示アレハ原裁判相當ニシテ被告カ上告第二第三論旨ハ其理由ナキモノトス酒造稅則違犯明治十八年  
第三千六百五拾三號

違警罪裁判所ニ輕罪裁判所ヲ開キ依テ審判シタル裁判ハ無効ナルヤ否

静岡縣伊豆國田方郡日向村平民當時同郡本立野村寄留酒造營業鈴木太平外壹名ニ對スル被告事件

初審 静岡輕罪裁判所

本件ノ事實ハ曾テ被告太平等ニ於テ酒造稅則違犯ノ事件ニ付沼津違警罪裁判所ニ開ク静岡輕罪裁判所ノ處斷ニ服セス論告スル所アリシニ大審院立會檢事ハ之ニ附帶シ治罪法ハ勿論他ノ特令等ニ於テモ違

警罪裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クヲ得ルノ法律ナシ本案ハ即チ裁判所構成規則ニ違犯シタル無効ノ裁判ナレハ其全部ヲ破毀セラレシトテ請求スル旨上告シタリ依テ刑事局ニ於テハ治罪法第四百二十八條ニ則リ原裁判ノ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク抑刑事裁判所ノ構成ハ治罪法第二編ニ明掲スル如クニシテ輕罪裁判ニ付テハ其第一章及ヒ第三章ニ規定シアリ而テ明治十四年第五十四號布告ヲ以テ其訴件ニ依テ治安裁判所ニ輕罪裁判所ヲ開クノ特令法アルモ違警罪裁判所ニ輕罪裁判所ヲ開キ審理判決ヲ爲シ得可キノ法律アルニアラス然ルニ本件ハ此等ノ法律ニ違背シ沼津違警罪裁判所ニ輕罪ノ裁判所ヲ開キ審判セシモノナレハ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク裁判所構成規則ニ違犯セシ無効ノ裁判ニシテ無論破毀ス可キモノト判定ス既ニ該裁判ハ無効ノモノト判決スルニ於テハ其他ノ當否ヲ論究スルノ要ナキヲ以テ被告兩名カ上告及ヒ原檢察

官附帶上告ニ對シテハ別ニ辨明ヲ與フルヲ要セス

醬油稅則違犯 明治十九年  
第貳百九十四號

検査既濟ノ醬油ト検査未濟ノ醬油トヲ混和シ隠蔽シタル者ハ醬油稅則第二十五條但書ニ依リ單ニ造石稅三倍ノ罰金ニ處スルニ止マルモノナルヤ否

新潟縣越後國古志郡長岡神田壹ノ町平民醬油營業人高津茂三郎

ニ對スル被告事件

初審 長岡支廳

本件ノ事實ハ被告茂三郎ニ於テ第一検査既濟ノ醬油ト検査未濟ノ醬油トヲ混和シ之ヲ隠蔽シタルト第二検査未濟ノ桶壹個ヲ營業ニ使用シタルトノ二個ノ違犯アリシモノニテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ニ對シ第一ノ罪ハ醬油稅則第二條第二十五條ニ依リ隠蔽醬油總石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ現在ノ醬油及桶壹個ヲ沒收シ第二

ノ所爲ハ同則第十四條第二十八條ニ依リ若干圓ノ罰金ニ處スル旨言渡シタリ然ルニ被告ニ於テハ醬油稅則第二十五條但書ニハ只検査既濟ノ醬油ト検査未濟ノ醬油トヲ混和シテ隠蔽シタル者ハ其總石數ニ就テ論ストノミアリテ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收スルノ明文ナキニ原裁判所カ是等沒收ノ言渡ヲ爲シタルハ越權ノ處分ナル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於テハ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却セシモノニ係ル

其理由ニ曰ク醬油稅則ヲ按スルニ其第二十五條ニ醬油ヲ隠蔽シタル者ハ製成未製成トニ拘ハラズ其石數ニ相當スル三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及ヒ容器ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス但検査既濟ノ醬油ト検査未濟ノ醬油トヲ混和シテ隠蔽シタル者ハ其總石數ニ就テ論ストアリ此但書ノ法意タルヤ其明文ノ如ク検査未濟已濟ノ醬油ヲ混入隠蔽シタルハ其總石數ヲ以テ本條ノ如ク

論斷ストノヲ指稱シタルモノニシテ即チ本按被告ノ所爲ヲ罰スル  
ハ本條ト但書トニ照シ處分ス可キモノナレハ犯罪ニ係ル醬油ト容器  
即チ桶ヲ沒收スルハ當然ニシテ之レヲ越權ノ處分ト云フヲ得可キモ  
ノニアラサルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナキモノトス

賣藥規則違犯目錄

丁數

賣藥製造營業者ニ關スル件

一無鑑札者ニ賣藥ノ請賣ヲ爲サシメタルニ關ス

明治十七年  
第三千六百四十四號

八一

一同上

明治十八年  
第一千九百十五號

八三

一新鑑札ノ下附ナキ以前ニ賣藥ノ販賣ヲ爲シタ

明治十九年  
乙第三百五十二號

八六

ルニ關ス

賣藥請賣營業者ニ關スル件

一無鑑札ノ賣藥ヲ販賣セントシタルニ關ス

明治十八年  
第二千二百八十五號

八九

一無鑑札者ニ賣藥ノ復請賣ヲ爲サシメタルニ關

明治十九年  
第四百十九號

九一

ス

賣藥ヲ營業ト爲サル者ニ關スル件

一非賣藥營業者カ數多ノ賣藥ヲ所持シタルニ關

明治十八年  
第二千五百六十一號

九四

ス

一 藥輔營業者カ他人ノ依頼等ニ依リ調藥販賣シタルニ關ス

明治十九年 乙第六百四十七號 九六

雜件

一 治罪法第三百五十六條ノ適用ニ關ス  
賣藥印紙稅規則違犯目錄

明治十九年 第一千五百三十八號 九九

賣藥製造營業者ニ關スル件

一 無印紙ノ賣藥ヲ所持シタルニ關ス  
一同上

明治十八年 第一千四百三十五號 一〇二

明治十九年 第六百四十九號 一〇四

一 無印紙ノ賣藥ヲ行商セシメタルニ關ス

明治十九年 乙第四百二十號 一〇六

明治十八年 第一千四百五十八號 一一〇

一 不足印紙ノ賣藥ヲ所持シタルニ關ス

賣藥請賣營業者及行商者ニ關スル件

明治十九年 乙第四百五十七號 一一三

一 賣藥行商者カ無印紙ノ藥品ヲ所持シタルニ關ス

一 賣藥行商者カ印紙ニ消印ナキ賣藥ヲ所持シタルニ關ス

明治十九年 第九百五十號 一一六

賣藥印紙稅規則及賣藥規則違犯ニ關スル件

一 賣藥製造者カ其請賣者ニ賣藥ノ調製及印紙ノ調用ヲ委任シタルニ關ス

明治十九年 乙第四百九號 一一九

一 賣藥製造者カ無鑑札ニテ單味ノ藥種ヲ行商セシメタルニ關ス

明治十九年 乙第九百四十三號 一二一

藥品取扱規則違犯目錄

一 藥種商カ無證書ニテ劇藥ノ販賣ヲ爲シタルニ關ス

明治十九年 乙第一千百五十二號 一二五

賣藥規則違反 明治十七年  
第三千六百四拾四號

賣藥營業者カ無鑑札者ニ賣藥ノ請賣ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ賣藥規則第二十一條ニ照シ其營業鑑札ヲ取上ケ其製藥ヲ沒收スヘキモノナリヤ否

岐阜縣美濃國厚見郡今泉村三番地平民賣藥營業人近藤岩次郎ニ對スル被告事件

初審 岐阜輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告岩次郎ニ於テ自家製造ノ井上目洗藥二貝ヲ無鑑札ナル黒田幾藏ナル者ヲシテ請賣セシメタルモノニシテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ニ對シ刑法第五條ニ基キ賣藥規則第二十一條ニ照シ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ罰金若干圓ニ處スル旨言渡シタルニ被告ニ於テハ被告カ黒田幾藏ニ目洗藥二貝ヲ遣シ置キタルハ同人ヨリ該藥品請賣ノ依頼ヲ受ケ其求メニ應セン爲メ見本トシテ遣シ置キタル



モノニシテ未タ請賣セシメタルニ非ス良シヤ假リニ請賣セシメタル  
 モノトスルモ賣藥規則第廿一條ニ鑑札ヲ取上ケ云々トアルハ鑑札ヲ  
 貸與シタル者ノ制裁ヲ規定シタルモノナルニ原裁判所カ之ヲ被告ニ  
 適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルノミナラス單ニ製藥ヲ没入スト言  
 渡シタルハ事實ノ明示ヲ欠キタル違法ノ處分ナル旨上告シタリ而シ  
 テ檢察官ニ於テモ亦タ本按被告カ所持スル營業鑑札及製藥ノ如キハ  
 毫モ犯罪ニ因果ナキモノナルニ原裁判所カ賣藥規則第廿一條ニ依リ  
 之ヲ没入スト言渡シタルハ破毀ノ原由アルモノト思料スル旨附帶上  
 告ヲ爲シタリ依テ刑事局ニ於テハ治罪法第四百廿九條ニ照シ其製藥  
 ヲ没入シ及ヒ鑑札ヲ取上クルト言渡シタル點ヲ破毀シ直ニ之ヲ取消  
 シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク本按被告カ上告論旨中井上目洗藥二具ハ黒田幾藏ノ求  
 メニ應シ受賣セシメノ爲メノ見本トシテ遣シ置キタリトノ點ハ要ス

ルニ事實判定上ニ對スル非難ニ過キササルヲ以テ固ヨリ上告ノ原由ト  
 爲スヲ得スト雖ヒ賣藥規則第二十一條ヲ檢按スルニ同條ハ鑑札又ハ  
 製藥ヲ以テ犯罪ヲ構成スルモノ即チ請賣鑑札ヲ貸借シ及ヒ期限ノ經  
 過シタル鑑札ヲ以テ賣藥ヲ受賣スルモノ、如キ其鑑札及ヒ製藥ヲ没  
 入スルコトヲ規定シタルモノニシテ本按被告ノ如キハ其營業鑑札及ヒ  
 製藥ハ毫モ犯罪ニ關係ヲ有セサルモノニ付キ同條ノ支配外ニ在ルヤ  
 明カナリ然ルニ原裁判ノ之ヲ取上ケ又ハ没入スト言渡ヲ爲セシハ上  
 告及ヒ附帶上告論旨ノ如ク不當ノ裁判ナルニ依リ治罪法第四百二十  
 九條ニ照シ該裁判ノ被告人ニ對シ製藥ヲ没入シ及ヒ鑑札ヲ取上クル  
 ト言渡シタル點ヲ破毀シ直ニ之ヲ取消スモノナリ

賣藥規則違犯 明治十八年  
第千九百拾五號

賣藥營業ヲ爲ス者無鑑札ノ者ヲシテ其請賣ヲ爲サシメタルハ  
 賣藥規則第二十一條ニ依リ罰金ノ上尙ホ其鑑札ヲ取上クヘキモ

ノナリヤ否

東京府日本橋區本町壹丁目拾六番地平民賣藥營業人堀田長左衛門ニ對スル被告事件

初審 東京輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告長左衛門ニ於テ自己ノ製造ニ係ル即効紙貳拾枚ヲ無鑑札ナル某ヲシテ請賣セシメタルモノニシテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ヲ以テ賣藥規則第二十一條ニ該當スルモノト爲シ右即効紙ノ鑑札ヲ取上ケ罰金拾圓ニ處スル旨言渡シタルニ被告ニ於テハ曾テ被告ノ行商人カ某ヨリ欺ムカレ即効紙貳拾枚ヲ賣渡シタルトハ之アルモ素ヨリ被告ノ關知スル所ニアラサレハ賣藥規則ノ制裁ヲ受クヘキ謂レナク又假リニ被告ヲ以テ犯則者ト爲スルハ宜シク刑法第八十九條第九十條ニ依リ酌量減等セラルヘキニ其事モナク前顯ノ如ク所斷セラレタルハ不法ノ裁判ナル旨上告セシニ大審院立會檢事ハ本案上

告ハ事實ノ點ニ涉リ一モ其原由ナキモ賣藥規則第二十一條中其鑑札ヲ取上ケトアルハ本條中ニ明記シタル鑑札ヲ云ヒタルモノニテ營業鑑札ニアラサルトハ該條解釋上自ラ知ラル、所ナルニ原裁判所カ被告ニ對シ其營業鑑札ヲ取上ケタルハ違法ノ裁判ナル旨附帶上告ヲ爲シタリ依テ刑事局ニ於テハ附帶上告ノ旨趣ヲ採用シ治罪法第四百三十一條ニ則リ原裁判ノ一部ヲ破毀シ直ニ被告長左衛門ニ對シ原裁判官カ營業鑑札ヲ取上クルト言渡シタル部分ハ之ヲ取消ス旨ノ判決ヲ與ヘタルモノニ係ル  
其理由ニ曰ク被告人カ上告ハ原裁判官ノ正當ナル職權ヲ以テ爲シタル事實判定ヲ非難シ且ツ酌量輕減ヲ與ヘラレサルハ不法ナリト云フニ過キスシテ一モ治罪法第四百十條各項ニ規定スル場合ニ適當セザレハ上告ノ原由ト爲スヲ得サルモノトズ然リト雖モ賣藥規則ヲ按スルニ其第二十一條無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ

以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ク製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科スヘシトアリテ其取上ヘキ鑑札ハ請賣鑑札ヲ指示シタルモノニシテ賣藥營業鑑札ヲ云ヒタルノ法章ニアラサルヤ其明文ニ因テ瞭然タリ故ニ無鑑札ノ者ヲシテ賣藥請賣セシメタル罪ノ如キハ一方ニ付罰金十圓ヲ科スルハ相當ナルモ其間接ニ係ル營業鑑札迄ヲ取上クヘキモノニアラス然ルニ原裁判官カ被告ノ所爲ニ對シ該條ヲ適用シ罰金十圓ノ刑ヲ言渡シナカラ仍ホ其營業鑑札迄ヲ取上クルトノ言渡ヲ爲セシハ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナルヲ以テ此一部ハ破毀ノ原由アルモノト判定ス

賣藥規則違犯 明治十九年  
乙第三百五拾貳號

賣藥營業者ニ在テハ其免許鑑札ノ滿期ニ至リ新鑑札願受ノ手續ヲ爲シタルキハ未タ新鑑札ノ下附セラレサル以前ト雖モ其賣藥

ノ販賣ヲ爲スヲ得ルヤ否

秋田縣羽後國仙北郡大曲村平民賣藥營業柴田作左衛門ニ對スル  
被告事件

初審 大 曲 支 廳

本件ノ事實ハ被告作左衛門ニ於テ其營業免許鑑札ノ期限滿チタルニ依リ更ニ新鑑札願受ノ手續ヲ爲シタルモ未タ其鑑札ノ下附ナラサル以前賣藥ノ販賣ヲ爲シタルモノニシテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ヲ以テ無鑑札ニテ賣藥四方ヲ販賣シタルモノトナシ賣藥規則第二十三條ニ依リ刑法第八十九條第九十條ニ照シ其情狀ヲ酌諒シ本刑ニ二等ヲ減シ若干圓ノ罰金ニ處シ仍ホ賣得金若干ヲ没入スル旨言渡シタルニ被告ニ於テハ賣藥規則第二十三條ニ無鑑札云々トアルハ私擅ニ製藥ヲ爲シ之ヲ販賣スル者ヲ指タルモノニテ被告ノ如キヲ目シタルモノニアラス良シ又假ニ被告ヲ以テ滿期後無鑑札ナリトスルモ新規營

業出願者トハ等カラス被告カ販賣シタル賣藥ハ前營業期限中ニ調劑シタル殘藥ニシテ既ニ内務省衛生局ノ調査ヲ經タル官准ノ藥劑ナレハ之ヲ販賣スルモ決テ罰セラレヘキモノニアラス加之ナラス賣藥規則第二十一條ニ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スルモノハ云々トアレトモ營業人ヲ禁スルノ明文ナキヲ以テ見ルモ被告ノ所爲ハ罰セラレヘキモノニ非サルニ一概ニ被告ヲ以テ無鑑札營業者ナリトノ判定ヲ下シ前顯ノ如ク所斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナル旨縷々論告シタリ然レモ刑事局ニ於テハ上告ノ理由ナキ者トシテ棄却セシモノニ係ル其理由ニ曰ク賣藥規則第八條ニ營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其ノ鑑札記載ノ月日ヨリ滿五ヶ年ヲ以テ免許ノ期限トス「トアリテ賣藥請賣行商鑑札ハ共ニ滿五年間其効力ヲ有スルモノニシテ其期限經過スルニ於テハ無効ニ歸スル勿論ナレハ假令引續營業願ヲ爲スモ期限後新鑑札下付ナキ以上ハ無鑑札タル論ヲ竣ヌシテ明カナリ然レハ其許

可ヲ受クサル時間ハ藥劑調製ハ素ヨリ之ヲ發賣スルヲ得サルモノナルヲ以テ若シ之レニ背キタル者ハ賣藥規則第二十三條ノ制裁ヲ受クルハ當然ナリ故ニ原裁判官ニ於テ被告カ所爲ニ對シ該條ヲ適用處斷セシハ最モ至當ニシテ之ヲ擬律錯誤ナリト云テ得サンハ上告論旨ハ相立サルモノトス

賣藥規則違犯 明治十八年  
第貳千貳百八十五號

無鑑札ノ賣藥ヲ賣用ニ供セシ爲メ店頭ニ併列シタル者ハ未タ之ヲ販賣セサルモ賣藥規則第二十一條ノ制裁ヲ受クヘキモノナリヤ否

鳥取縣伯耆國久米郡河原町平民賣藥請賣人三島久平ニ對スル被告事件

初審 鳥取輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告久平ニ於テ無鑑札ノ賣藥入方ヲ賣用ニ供セシ爲メ

他ノ請賣藥品ト共ニ之ヲ店頭ニ併列シタルモノニシテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ヲ以テ賣藥規則第二十一條ニ該當スルモノト爲シ該藥品ヲ没入シ藥劑一方ニ付罰金若干圓ツ、ニ處スル旨言渡シタルニ被告ニ於テハ該藥品ハ元來自用ノ爲ニ買入置タルモノニシテ販賣セントシタルモノニアラス然ルニ原裁判官ハ單ニ検査員ノ告發書ノミチ偏信シ何年頃買入シタル藥品ナルヤ其審檢ヲ請求セシモ之ヲ許サス漫ニ前顯ノ如ク論斷シタルハ審理不盡ノ裁判ナルノミナラス假リニ之ヲ賣用ニ供シタルモノトスルモ只店頭ニ併列シタル迄ニシテ未ダ販賣シタルニアラサルコトハ原裁判官ノ是認スル所ナルニ賣藥規則第二十一條ヲ適用シタルハ比附援引ノ處分ナル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於テハ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却セシモノニ係ル其理由ニ曰ク上告ノ旨趣ハ掲テ前顯ノ如シト雖モ賣藥規則第二十一條ノ法規タルヤ其藥品ヲ賣渡シタルト否トヲ問ハス無鑑札ニテ販賣

セント賣料ニ供シタル以上ハ該條ノ制裁ヲ免カレサルモノニシテ本案被告カ所爲ノ如キ承審官ノ認ル事實ニ依レハ即チ無鑑札ニテ販賣ノ賣藥ヲ販賣セント店頭ニ併列シタリトアルヲ以テ右第二十一條ニ依リ處斷シタルハ相當ニシテ聊カ擬律上錯誤アルニ非ス其他ハ承審官ノ正當ナル職權ヲ以テ判定シタル事實及ヒ採證ノ如何ヲ非議論難スルニ止リ判文上事實ノ理由ニ不備アルコト又審理不盡ハ勿論越權ノ裁判ト認ル點アルニ非サレハ結局該上告ハ徒ニ不服ヲ唱ヘ苦情ヲ分疏スルモノニシテ適法ノ原由ナケレハ採用スルニ由ナキモノトス

賣藥規則違犯

明治十九年  
第四百拾九號

賣藥請賣ヲ業トスル者其請賣スル所ノ賣藥ヲ無鑑札者ニ復請賣セシメタル片ハ賣藥規則第二十一條ニ依リ罰金ノ上其鑑札ヲ取上ク可キモノナルヤ否

東京府本所區本所中ノ郷竹町三拾八番地平民荒物渡世兼賣藥請  
賣人川村紋三郎ニ對スル被告事件

初審 東京輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告紋三郎ニ於テ其請賣スル所ノ按摩膏藥ヲ無鑑札ナル某へ復請賣セシメタルモノニテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ヲ以テ賣藥規則第二十一條ニ違犯シタルモノト爲シ同條ニ依リ請賣鑑札ヲ取上ケ罰金若干圓ニ處スル旨言渡シタルニ其裁判確定後大審院檢事長ハ賣藥規則第二十一條ニ所謂其鑑札ヲ取上ケトハ期限過キタル鑑札又ハ貸借シタル鑑札ヲ以テ請賣スル者ヲ制裁スルノ法意ニシテ本案被告ノ如キ無鑑札者ニ請賣セシメタル者即チ免許請賣人ノ所持スル鑑札ヲ指シタルニ非サルコト明ナリ何トナレハ貸借又ハ期限過キタル鑑札ハ法律上其効ナキニ之ヲ使用スルヲ以テ犯罪トシ之ヲ取上クベキモ被告ノ如キハ之ニ反シ其無鑑札者ニ請賣セシメタル所爲カ犯

罪ニシテ其所持スル鑑札ハ毫モ犯罪ニ關係ナケレハナリ然ルニ原裁判所カ前顯ノ如ク處斷シタルハ頗ル不法ノ裁判ニシテ要スルニ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡セシモノト云ハサルヲ得ストノ非常上告ヲ爲シタリ依テ刑事局ニ於テハ非常上告ヲ以テ其原由アルモノト爲シ治罪法第四百三十五條第二項ニ依リ原裁判中按摩膏請賣鑑札ヲ取上ケトアル一部ヲ破毀シ直ニ之ヲ取消ス旨ノ判決ヲ與ヘタル者ニ係ル其理由ニ曰ク賣藥規則第二十一條ニ所謂其鑑札ヲ取上ケトアル鑑札ハ即チ期限過キタル鑑札又ハ貸借シタル鑑札ヲ以テ請賣シタル鑑札ヲ指スモノニシテ本案被告ノ如キ只タ無鑑札者ニ請賣セシメタルニ止リ其所持スル鑑札ハ期限過キタルニ非ス又タ貸與シタルニモ非サル者ニ適用スヘキニ非ス如何トナレハ其鑑札ハ毫モ犯罪ニ關係ナケレバナリ然ルニ原裁判所ハ該條ニ依リ右被告ガ所持スル請賣鑑札ヲ取上ケタルハ非常上告論旨ノ如ク相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル

不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百三十五條第一項ニ適スル非常上告ノ

原由アルモノトス

賣藥規則違犯 明治十八年  
第貳千五百六拾壹號

賣藥請賣營業者ニアラサル者數多ノ賣藥ヲ所持シタルモハ其所  
持シタル所爲ノミチ以テ無鑑札賣藥請賣者ナリトノ判定ヲ下ス  
トヲ得ルヤ否

高知縣土佐國安藝郡安藝村三百八拾九番地士族小間物兼煙草小  
賣營業人寺尾準興ニ對スル被告事件

初審 高知輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告準興ニ於テ曾テ店頭臨檢ノ際賣藥十七種ヲ所持シ  
居タルモノニテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ヲ以テ無鑑札ニテ賣藥請  
賣ヲ爲シタルモノト認定シ賣藥規則第二十一條ニ依リ其藥劑ヲ沒收  
シ藥劑一方毎ニ若干圓ノ罰金ヲ科スル旨言渡タルニ被告準興ニ於テ

ハ右ノ藥品ハ數十年前ヨリ年々製藥者某ノ出賣人ト稱シテ來ル者ヨ  
リ一家自用ノ爲メニ買入レ漸々其種類ヲ増加シタルモノニシテ素ヨ  
リ請賣ヲ爲スノ目的ニアラサレハ店頭ニ出サ、ルノミナラス賣品ト  
混交ナカラシメ、ン爲メ反古類ト共ニ古箱ニ入レ奥庭米匣ノ上ニ藏メ  
置キタルヲ臨檢ノ際取り出シタルモノニテ未ダ曾テ賣藥規則ニ違犯  
シタル廉ナキニ原裁判所カ前顯ノ如キ判決ヲ爲シタルハ越權不法ノ  
裁判ナル旨縷々論告シタリ依テ刑事局ニ於テハ治罪法第四百廿八條  
ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル  
其理由ニ曰ク抑請賣者トハ製造人ヨリ其賣品ヲ買請ケ之ヲ販賣スル  
者ヲ云フニアレハ其請賣權ヲ犯シタリト云フニハ製藥ヲ買入タルノ  
ミチ以テ足レリトセス必ス之ヲ販賣ト見ルヘキノ事實即チ之ヲ賣渡  
タルカ又ハ招牌等ヲ掲クルカ若クハ店頭ニ於テ他ノ需用ニ供シタル  
等ノ所爲アルヲ要ス今マ原判文ヲ査閱スルニ金龍丸云々合セテ十七

種ヲ所持シタルハ無鑑札ニテ賣藥請賣ヲ爲シタルモノト認定ストアルノミ其文旨タル宛モ賣藥ヲ所持シタルヲ以請賣營業ト認メシモノ、如キモ賣藥所持ノミヲ以テ請賣權ヲ犯シタリト云フヲ得サルヲ前ニ辨明スル如クナリ要スルニ原裁判ハ治罪法第三百四條ノ規定ニ違フモノニテ治罪法第四百十條九項ニ當ル上告ノ原由アルモノトス

賣藥規則違犯明治十九年  
乙第六百四拾七號

藥舖ヲ營業トスル者カ他人ノ依頼又ハ醫師ノ處方ニ依リ調合シテ販賣シタル藥劑ハ賣藥ヲ以テ論スヘキモノナリヤ否

被告人ノミ控訴ヲ爲シタル場合ニ於テハ假令ハ當然言渡スヘキ刑ト雖モ初審ヨリ重劇ノ言渡ヲ爲スコトヲ得サルヤ否

岐阜縣飛驒國益田郡三鄉村拾壹番地平民當今同縣美濃國惠那郡付知村四番地寄留藥舖戶谷思郎ニ對スル被告事件

初審 御嵩治安裁判所

終審 岐阜輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告思郎ニ於テ風藥外四方ヲ無鑑札ニテ製藥販賣シタリトノ告訴ヲ受ケシモノナルモ被告ニ於テハ右ノ藥劑ハ購求者ノ依頼又ハ醫師等ノ處方書ニ依リ調合販賣シタルモノナレハ營業上敢テ賣藥規則ヲ犯シタルモノニ非スト初審裁判所カ賣藥規則違犯ヲ以テ處斷シタルヲ不法ナリトシ控訴シタルモノナリ然ルニ終審裁判所ニ於テモ亦收稅官ノ告發書等ニ依リ明治十七年以來管廳ノ免許鑑札ヲ受ケス自宅ニ於テ風藥外四方ヲ調製シ數々度ニ九拾七貼ヲ金壹圓四拾八錢ニ發賣セシモノト認定ストテ被告ノ陳辯ヲ斥ケ且ツ初審裁判所カ其判文ニ賣得金ノ沒收ヲ言渡サバリシト犯罪ノ年月日ヲ認メザリシトテ不當ナリトシ其全部ヲ取消シ更ニ刑法第五條ニ基キ賣藥規則第三章第二十三條ニ依リ藥劑五方ニ係ル罰金若干圓ニ處シ其賣得金ヲ沒收スル旨言渡シタリ依テ被告ハ又之ヲ不法ナリトシテ上告セ



シニ刑事局ニ於テハ原裁判ヲ以テ擬律ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナキノ  
 ミナラス治罪法第三百四十四條ニ違背シタル不備且ツ越權ノ裁判ナ  
 リト認メ同法第四百二十八條ニ則リ其全部ヲ破毀シタルモノニ係ル  
 其理由ニ曰ク賣藥規則第一條ニ此規則ニ稱スル所ノ賣藥トハ丸藥膏  
 藥煉藥水藥浴藥散藥煎藥等ヲ調製シ効能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云  
 フトアルニ依レハ賣藥營業トハ被告自ラ前掲ノ藥劑ヲ調製シ之ニ効  
 能書ヲ附シテ販賣スルカ又ハ効能書ニ等シキ方法ヲ以テ之ヲ販賣ス  
 ルノ義ニテ醫師ノ處方書ヲ以テ藥劑ノ調合ヲ頼マル、等全ク人ノ注  
 文ヲ受テ調製スルカ如キハ賣藥營業ト云フヘキモノニ非レハ假令無  
 鑑札ニテ如此調劑ヲ爲ストモ賣藥規則第三章第二十三條ノ制裁スル  
 所ニアラサルナリ今原判文ヲ閱スルニ(前)明治十七年九月以來管轄廳  
 ノ免許鑑札ヲ受ケス自宅ニ於テ風藥外四方ヲ調製シ數ケ度ニ九十七  
 貼ヲ金壹圓四拾八錢ニ發賣セシモノト認定ス云々トアルノミニテ其

藥品タル効能書ヲ附スルカ又ハ効能書ヲ附スルニ等シキ方法ヲ以テ  
 之ヲ販賣シタルカ將被告云フ如ク醫師ノ處方書ヲ以テ藥劑ノ調合ヲ  
 頼マレタルニ依リ調劑シタル事實ニアラサルヤ否ノ要點判示ナキカ  
 故ニ被告ノ所爲タル果シテ犯則ナルヤ如何ヲ知り難ク隨テ原裁判ノ  
 擬律其當ヲ得タルヤ否ヲ鑑査シ得サルノミナラス治罪法第三百四十  
 四條第二項被告人ノミ控訴ヲ爲シタル時ハ原裁判言渡ヨリ重キ刑ヲ  
 言渡スヲ得ストアルニ依レハ本件ノ如ク被告人ノミ控訴ヲ爲シタ  
 ル場合ニ在テハ始審裁判ニ於テ當然言渡スヘキ刑即チ賣得金沒收ノ  
 言渡ヲ爲サル迎更ニ此刑ヲ加フルヲ得ス然ルニ之ヲ言渡シタルハ  
 是亦該條ノ規則ニ違フタル裁判ニシテ所謂越權ノ處分タルヲ免レサ  
 ルモノトス

賣藥規則違犯明治十九年  
第五百三拾八號

治罪法第三百五十六條ハ罰金ノ言渡ヲ受ケタルモノニモ之ヲ適

用スヘキモノナリヤ否

富山縣越中國上新川郡富山千石町平民賣藥行商中島喜平ニ對スル被告事件

初審 八 戸 支 廳

本件ノ事實ハ被告喜平ニ於テ賣藥行商中蒼龍丸外三十一方薄荷圓外拾方合計四拾三方ヲ私ニ調製販賣シタル者ナリトノ告訴ヲ受ケタルモノナルモ呼出當日被告出廷セザリシヲ以テ初審裁判所ハ欠席ノ儘右被告ノ所爲ヲ以テ賣藥規則第二十三條ニ依リ處斷スヘキモノトナシ同條及刑法第四十三條ニ依リ罰金沒收ノ言渡ヲ爲シタル末但書ヲ以テ此言渡ニ對シテハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ故障又ハ直ニ控訴ヲ爲スヲ得可シ其期限ハ此言渡アリタルヲ知リタルヨリ故障ハ三日內控訴ハ五日內ナリトストノ言渡ヲ添付シタリ然ルニ檢察官ニ於テハ治罪法第三百五十六條ハ禁錮ノ言渡ヲ受クヘキモノニ適用スルノ法

章ニシテ罰金ノ言渡ヲ受ケタルモノニ適用スヘキモノニ非サルヤ明カナルニ原裁判所カ前顯但書ノ言渡ヲ爲シタルハ越權ノ裁判ト確認スル旨上告シタリ而シテ被告ニ於テモ亦タ事實上ノ點ニ付之ニ附帶シ被告ノ所爲ハ賣藥規則ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラストノ主意ヲ縷々論告シタリ依テ刑事局ニ於テハ檢察官ノ上告ヲ以テ其理由アリト爲シタルノミナラス尙ホ原裁判ヲ以テ事實ノ理由ヲ欠キタル不法ノ裁判ナリト認メ治罪法第四百廿八條ニ從ヒ其全部ヲ破毀シタルモノニ係ル  
其理由ニ曰ク抑輕罪事件ニシテ禁錮ノ刑ニ該ル欠席裁判ニ對シテハ治罪法第三百五十六條全第三百六十六條ノ規則ニ從ヒ刑ノ期滿免除ニ至ル迄故障控訴ヲ爲シ得ヘシト雖モ主刑罰金以下ニ該ル者ナル時ハ治罪法第三百五十五條全第三百三十二條第三百六十八條第三百三十九條ニ定ル如ク其言渡書送達アリタルヨリ起算シ故障ハ三日控訴

ハ五日內ニアラサレハ爲ステ得サルモノナリ然ルニ原公判始末書ヲ  
 閱スルニ本按欠席裁判言渡書謄本ヲ本籍地ニ送達セシメタルヲ明  
 記スルニモ拘ハラス原判文末項ニ於テ此言渡ニ對シテハ期滿免除ニ  
 至ル迄故障又ハ控訴ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ掲ケテ言渡ヲ爲タルハ原檢察  
 官上告論旨ノ如ク越權ノ處分ナルハ勿論如何ナル藥劑ヲ調製シタル  
 乎蒼龍丸外三十一方薄荷圓外拾方云々トノミニテ其事實モ明示セス  
 輒ク判了シタルハ事實ノ理由ヲ欠キタル不法ノ裁判ナリトス

賣藥印紙稅規則違犯 明治十八年  
第四百三十五號

賣藥營業者カ無印紙ノ賣藥ヲ所持シタルハ其賣藥ハ刑法第四  
 十三條及第四十四條ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノナリヤ否

東京府北豐島郡金杉村平民賣藥受賣營業柳川伊之助ニ對スル被  
 告事件

初審 東京輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告伊之助ニ於テ無印紙ノ賣藥若干ヲ所持セシモノニ  
 テ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ニ對シ被告ヲ刑法第五條ニ基キ賣藥印  
 紙稅規則第六條ニ依リ若干圓ノ罰金ニ處シ但書ヲ以テ藥品及能書上  
 包版本等ハ沒收ノ限ニアラサルヲ以テ之ヲ還付スル旨言渡シタルニ  
 檢察官ニ於テハ原裁判所カ無印紙藥品ノ還付ヲ言渡シタルハ擬律錯  
 誤ノ裁判ニシテ右ハ刑法第四十三條同第四十四條ニ照シ所謂ル法律  
 ニ於テ禁制シタル物件トシテ沒收スヘキヲ當然ト認ル旨上告シタリ  
 然レモ刑事局ニ於テハ上告ノ理由ナキ者トシテ棄却セシモノニ係ル  
 其理由ニ曰ク刑法第四十三條第一項ニ所謂法律ニ於テ禁制シタル物  
 件トハ之レカ物件ヲ所持スル時ハ公益ヲ害スル等ノ恐レアルヲ以テ  
 法律上何人ト雖モ之ヲ所持スルヲ禁シタル場合ヲ指シタルニ在ル  
 ヤ明ニシテ同第四十四條ニ法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所爲  
 ヲ問ハス之ヲ沒收ストアル所以ナリ然ルニ本案藥品ノ如キハ假令無

印紙ノモノナリト雖モ一般ニ所持スルヲ禁シタルニ非ス單ニ請賣者行商者ニノミ限リ所持スルヲ禁シタルハ公益ヲ害スル等ノ恐レアツテ然ルニ非ス全ク税ヲ逋脱セントシタルヲ罰スルニ在ルヤ論ヲ俟タス故ニ之ヲ所持シタルトテ沒收スヘキモノニ非ス抑ソモ賣藥印紙稅規則ニ於ル沒收ス可ラサルヲ得サルモノハ同則第八條ニ掲ケテ明文アリ然ラハ則チ其明文ヲ掲ケサル者ハ沒收セサルノ精神ニ在ルヤ自ラ瞭然タレハ旁上告論旨相立タサルモノトス

賣藥印紙稅規則違犯 明治十九年  
第六百四十九號

賣藥營業者ニシテ無印紙ノ賣藥ヲ所持スルキハ賣藥印紙稅規則第五條ノ制裁ヲ受クヘキモノナリヤ否

長野縣信濃國上伊那郡東春近村平民賣藥營業人田中彌七郎ニ對スル被告事件

初審 長野輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告彌七郎ニ於テ賣藥稅檢査ノ際相當印紙ヲ貼用セザル賣藥若干ヲ所持シタルモノニシテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ヲ以テ法律上罰スヘキ正條ナキモノトシ刑法第二條ニ照シ無罪ナル旨言渡シタルニ檢察官ニ於テハ該藥品タル既ニ包紙ニ封印シ全ク發賣ノ裝置ヲ爲シタルモノナレハ賣藥印紙稅則第五條ノ制裁ヲ受クヘキモノタルヤ論ヲ俟タスシテ明カナルニ原裁判所カ前顯無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於テハ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却セシモノニ係ル

其理由ニ曰ク檢察官カ上告ノ旨趣トスル所ハ被告ハ賣藥營業人ナルニ相當印紙ヲ不貼用ニテ所持シタルヲ以テ賣藥印紙稅規則第五條ノ制裁ヲ受クヘキモノナリト云フト雖モ該則第五條ハ營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者トアリテ無印紙ニテ所持シタルモノヲ制裁スル條則ニアラス素ト營業者ナルモノハ無印紙ノ儘發賣シタルニ

據テ始メテ該條ノ制裁中ニ入ルヘキモノアリ本按ノ如キハ所持ニ止  
 ルヲ以テ其所爲ヲシテ發賣ト論スルヲ得サルノミナラス該條ノ精神  
 ヲ釋ヌルニ營業者ハ製劑シ而シテ后之レニ相當ノ印紙ヲ貼用シテ發賣  
 スルニ至ルモノナレハ其製造シテ所持シ居タル間ニ在テハ未タ製造  
 シタルノミニ止マリ發賣ニ至リシモノト見サルヤ明カナリ何ントナ  
 レハ全則第六條ヲ參閱スルニ請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所  
 持シ云々トアリテ明カニ請賣行商ノ兩者ヲハ制裁シタルモ特リ營業  
 者ニ在テハ全則第五條ニ無印紙ノ藥品所持云々ノ文字ヲ明記セサル  
 ニヨリ無印紙ノ藥品所持ヲシテ營業者ニ責メノ及ハサルヤ瞭然タレ  
 ハナリ故ニ原裁判官ニ於テ被告ノ所爲ヲ刑法第二條ニ照シ無罪ト言  
 渡シタルハ至當ノ裁判ナリトス

賣藥印紙稅規則違犯 明治十九年  
乙第四百廿號

賣藥製造營業者カ無印紙ノ賣藥ヲ行商セシメタル場合ニ於テハ

賣藥印紙稅則第六條ニ依リ處斷スヘキモノナリヤ否

岡山縣備中國窪屋郡宿村百三拾壹番地平民賣藥製造營業根馬健

治ニ對スル被告事件

初審 岡山輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告健治ニ於テ其製造ニ係ル賣藥數種ヲ無印紙ノ儘行  
 商人銀持幸十郎ニ託シ行商セシメタルモノニシテ初審裁判所ハ右被  
 告ノ所爲ヲ以テ賣藥印紙稅規則第六條ニ違犯シタルモノト爲シ罰金  
 三拾圓ニ處スル旨言渡シタルニ被告ニ於テハ第一原裁判所ハ收稅官  
 吏ノ告發書等ヲ以テ本按被告事件ノ證據ト爲シタルモノ之ヲ被告ニ示  
 サハルノミナラス調書ノ朗讀ヲモ爲サレハ其如何ナルモノタルヲ知  
 ルニ由ナク隨テ之カ辯解ヲ爲ス可能ハサリキ是レ治罪法第三百五十  
 二條第三百四條ノ法規ニ背クモノナリ第二原裁判所ハ被告ヲ稅則第  
 六條ニ照シテ處斷シタルモ該條ハ請賣者又ハ行商者ヲ罰スルノ法條

ニシテ被告ノ如キ賣藥製造者ニ適用スヘキモノニアラサルヤ明瞭ナリ然ラハ同則第五條ノ違犯者ナリトセシカ箇ハ賣藥製造營業者ニシテ無印紙藥品ヲ發賣シタル者ヲ處罰スルノ法條ニシテ本件ハ劔持幸十郎カ被告ノ不在中行商ノ爲メ未タ製造中ニ係ル賣藥ヲ持出シタル事實ナレハ是又被告ニ適用スヘキモノニアラス即チ原裁判ハ言渡ノ理由ヲ付セサル越權ノ處分ナルノミナラス無罪者ヲ處罰シタル擬律錯誤ノ裁判ナル旨上告シタリ而シテ大審院立會檢事ニ於テハ被告カ上告ノ論旨ハ總テ其原由ナキモ原裁判官カ賣藥印紙稅則第五條ヲ適用セスニ同則第六條ヲ適施シタルハ擬律錯誤ヲ免カレサル旨附帶上告ヲ爲シタリ依テ刑事局ニ於テハ附帶上告ノ主旨ヲ採用シ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ直ニ被告健治ニ對シ賣藥印紙稅則第五條ニ依リ罰金貳拾圓ニ處スル旨判決シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク上告第一論旨タル原判官ハ公判廷ニテ證據書類ヲ明示

セス且其朗讀ヲ爲サバリシハ不當ナリト云フニアレモ公判始末書ヲ檢スルニ一件書類ヲ朗讀セシメサルモ異議ナキヤ否ヲ問ヒタルニ朗讀ハ請求セスト答ヘ又々他ニ申立置クコトナキヤヲ問ヒシニ申立置ク事之レナシト答ヘアレハ原判官カ判定ノ資料ト爲シタル證據書類ハ被告於テ悉ク承認セシモノナルヤ明カナリ果シテ然ラハ仍ホ強テ此等ノ書類ヲ朗讀セシメ且其辯解ヲ爲サシムル必要ナキノミナラス法律ハ此等ノ場合ニ在テモ尙ホ之ヲ明示シ朗讀セシメサレハ無効ナリトノ規定ナキヲ以テ第一論旨ハ到底相立タス又々第二論旨ニ於テ賣藥規則第六條ハ請賣者行商者ヲ制裁スル云々ノ論點ハ其理由ナキニシモアラスト雖モ被告ハ無罪ナリト主張スルハ諸般ノ證據ヲ採擇シ事實ヲ判定スルハ原判官ノ正當職權ナレハ既ニ原判官カ正當職權内ニテ被告ハ其製造ニ係ル賣藥山田振藥外四方劑ヲ張籠ニ入レ無印紙ノ儘行商人劔持幸十郎ニ托シ行商爲サシメタルモノト判定セシ上ハ

其當否ヲ非難スルニ止リ亦其効ナキモノトス然リト雖モ原判官カ認  
ムル事實ニ據レハ被告カ所爲ハ賣藥營業者ニシテ無印紙藥品ヲ行商  
セシメタルモノニシテ其行商ヲ爲サシムル爲メ行商人ニ渡スハ即チ  
發賣ナルヲ以テ賣藥印紙稅規則第五條ニ依リ相當ノ罰金ヲ科スヘキ  
モノナリ然ルヲ同第六條ヲ適施セシハ本院檢事附帶上告旨趣ノ如ク  
擬律錯誤ノ裁判ニシテ即チ破毀ノ原由アルモノトス

賣藥印紙稅規則違犯 明治十八年  
第四百五拾八號

賣藥營業者ニシテ不足印紙ノ賣藥ヲ所持シタル者ハ稅則第五條  
ノ制裁ヲ受クヘキモノナリヤ否

廣島縣安藝國豊田郡本市村平民賣藥營業人藤原紋次郎ニ對スル  
被告事件

初審 廣島輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告紋次郎ニ於テ賣藥檢査ノ際其賣藥數個ノ内印紙五

厘分不足セシ品一個ヲ所持シタルモノニテ初審裁判所ハ右被告ニ對  
シ被告カ賣藥印紙五厘分不足セシ品一個ヲ所持シタルハ相違ナシト  
雖モ他ニ不足印紙ノ製藥ヲ發賣シタルノ證憑充分ナラストノ判定ヲ  
下シ無罪ノ言渡ヲ爲タルニ檢察官ニ於テハ原裁判官カ此ノ如キ判定  
ヲ下シタルハ稅則第六條ニハ所持販賣ノ文字アリテ營業者ヲ支配ス  
ヘキ第五條ニ其明文ナキニ依リシナルヘシト雖モ其趣意ニ至テハ兩  
條毫モ殊別アルコトナシ夫レ販賣トハ賣渡ストノ意義ニシテ發賣トハ  
賣出ストノコトナルヘシ故ニ苟モ營業者ニシテ其賣藥ヲ賣却ニ供シタ  
ルニ於テハ購買者ノ有無ニ拘ハラス第五條ノ責罰ヲ免カル、ヲ得サ  
ルハ文意上毫モ疑ヲ容ル、ニ足ラサル所ナリ今本案ニ於ル其賣藥ハ  
不足ニモセヨ既ニ印紙ヲ貼用シ他ノ完全ナル賣藥ト共ニ差置タルモ  
ノナレハ最早其賣藥ハ製藥ヲ了リテ賣却ニ供シタルモノナルコト明カ  
ナリ然ラハ則チ原裁判官カ相違ナシト認メタル第一ノ事實ハ第五條

ノ違犯タルハ明瞭且ツ證憑充分ナルニ之ヲ不十分ナリトシテ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ト思料スル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於テハ上告ノ原由ナキモノトシテ棄却セシモノニ係ル其理由ニ曰ク賣藥印紙稅規則第五條ノ發賣トハ其藥品ヲ已ニ賣却シタル場合ノミヲ云フニ非スシテ其藥品ヲ賣ン爲メ店頭ニ陳列シテ他ノ需用ニ供スルカ若クハ其藥品ヲ請賣者行商者ニ運搬シタル等發賣ト認ム可キ所爲アルニ於テハ該第五條ノ制裁ニ係ルモノナリト雖其發賣ノ所爲ナルヤ否ハ事實ノ認定如何ニアルモノトス然リ而シテ其請賣者行商者等ニ在テハ製藥裝置既ニ完全シ直チニ販賣シ得ヘキノ藥品ニアラサレハ所持スヘキモノニアラサルヲ以テ若シ無印紙不足印紙ノ藥品ヲ所持シタルニ於テハ法律之ヲ制裁スヘキ事勿論ナルモ營業者ニ在テハ自ラ製藥及ヒ裝置ヲ爲ス者ナルカ故ニ未タ裝置ノ完全セサル藥品ヲ所持セサルヲ得サル場合ナシトセス則チ賣藥印紙稅

規則第五條ト第六條ト其制裁ノ同シカラサル所以ニシテ本按事實ノ認定ニ於ケル賣藥印紙五厘分不足セシ品ヲ所持シタルハ相違ナシト雖他ニ不足印紙ノ製藥ヲ發賣シタルノ證憑充分ナラスト即チ發賣ノ所爲アリト認メサリシモノナレハ該第五條ニ依リ處罰セサルハ允當ノ裁判ニシテ上告ノ旨趣ハ其當ヲ得サルモノトス

賣藥印紙稅規則違犯 明治十九年  
乙第四百五拾七號

賣藥行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シタルキハ藥品ノ性質如何ヲ問ハス刑法第五條賣藥印紙稅規則第六條ノ制裁ヲ受クヘキモノナリヤ否

大阪府大和國吉野郡大岩村平民賣藥行商人森龜吉ニ對スル被告事件

初審 山田 支 廳

本件ノ事實ハ被告龜吉ニ於テ賣藥行商中無印紙ノ賣藥蘇命散三貫五



百目ヲ所持シタリトノ告訴ヲ受ケタルモノナルモ公判ノ末檢察官ハ被告カ無印紙ノ賣藥ヲ所持シタリトノ證據充分ナラスト認メ其公訴ヲ拋棄シタルモノナリ然ルニ初審裁判所ハ右被告ニ對シ云々賣藥行商中蘇命散三貫五百目ヲ無印紙ノ儘所持シ居タルヲ某年月日検査官ノ爲ニ發見セラレタルモノト判定ストテ刑法第五條賣藥印紙稅規則第六條ニ依リ被告ヲ罰金若干圓ニ處スル旨言渡シタルヲ以テ檢察官ニ於テハ凡ソ賣藥トハ賣藥規則第一條ニ明記セシ藥劑ヲ調製シ効能書ヲ附シタルモノヲ單稱スルモノニシテ未タ配劑調製セス且効能書モ附セサル藥品ヲ複稱シタルニアラス而シテ事實ノ判定ハ法律上承審官ニ許任スト雖モ架空ノ臆斷ハ法律ノ禁スル所ナリ今本按ノ藥品ハ現ニ三貫五百目ヲ古袋ニ入レ封緘シタルモノヲ旅店ニ預ケ置キタルモノニシテ他ノ蘇命散ノ如ク調合モナク又効能書モ附セス尋常一般ノ藥種ニ毫モ異ナルヲナシ然ルニ之ヲ賣藥ト認メタルハ固有ノ探

證據ヲ使用スルニ非スシテ自ラ證據ヲ作爲スルモノナリ此ノ如キハ法律ノ許ルス所ニアラストノ主旨ヲ以テ原裁判ハ擬律ノ錯誤及越權ノ處分アルモノト思料スル旨論告シ被告ニ於テモ亦タ原裁判ハ理由ニ齟齬アル不法ノ裁判ナル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於テハ上告論旨ニ依ラス原裁判ヲ以テ擬律ノ適否ヲ査定スルニ由ナキ失當ノ裁判ナリト認メ治罪法第四百廿八條ニ從ヒ之カ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク賣藥行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持スルヲハ賣藥印紙稅規則第六條ニ於テ禁制シタルモノナルヲ論テ竣マサレモ其藥品タルヤ必ス賣藥規則第一條ニ定ル賣藥ナラサル可カラス若シ之ヲ賣藥ナリトセハ又隨テ何人ノ調製ニ係ル歟將タ行商鑑札所持如何ノ事實ハ本案緊要ノ點ナリ何ントナレハ賣藥印紙稅規則ハ賣藥規則ト併行スヘキ者ナルヲ以テ本件蘇命散ト稱スルモノ、賣藥ト稱ス可カラ

ナルコ於テハ原檢察官論旨ノ如ク假令無印紙ニテ所持スルモ右第六條ノ制裁ヲ受ク可キモノニ非サレモ若シ賣藥ト稱スヘキモノニシテ無鑑札ナルキハ反テ賣藥規則第二十一條ノ支配ニ歸スヘク又之ヲ私ニ調劑セシモノナルニ於テハ全則第二十三條違犯ノ嫌ナキ能ハサレハナリ試ニ訴訟書類ヲ査閱スルモ是等ノ事實何レニアルヤハ毫モ睹ルヘキナシ之畢竟審理不盡ト云ハサルヲ得ス然ルニ原判文被告人森龜吉ハ云々賣藥行商中蘇命散三貫五百目ヲ無印紙ノ儘所持シ居タルヲ云々トノミ漠然タル事實ヲ掲ケテ輒ク判了シタルハ治罪法第三百四條ノ法規ニ背戻シ事實理由ヲ欠キタル失當ノ裁判ト認ルニ依リ今爰ニ擬律ノ適否ヲ査定スルニ由ナク原裁判ハ破毀スヘキモノト判定ス

賣藥印紙規則違犯 明治十九年  
第九百五拾號

賣藥行商者ト雖モ印紙ニ消印ナキ賣藥ヲ所持シタルキハ稅則第

三條第七條ノ制裁ヲ免カレサルモノナリヤ否

富山縣越中國上新川郡滑川町平民賣藥行商人川崎五郎三郎ニ對

スル被告事件

初審 姫 路 支 廳

本件ノ事實ハ被告五郎三郎ニ於テ第一無印紙ノ賣藥ヲ所持シ第二無印紙ノ賣藥ヲ販賣シ第三印紙ニ消印ナキ賣藥ヲ所持シタルトノ三個ノ所爲アリシモノニテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ニ對シ刑法第五條ニ基キ其第一第二ノ點ハ賣藥印紙稅則第二條ニ依リ第三ノ點ハ同則第三條第七條ニ依リ何レモ罰金若干圓ニ處スル旨言渡シタルニ被告ニ於テハ原裁判ヲ以テ事實ニ齟齬アル不法ノ裁判ナリトシテ縷々上告スル所アリシニ大審院立會檢事ハ被告上告ノ旨趣ハ事實ノ認定ニ對シ徒ニ苦情ヲ懇フルニ過キサレハ更ニ其理由ナキモノナリト雖モ被告ヲ第三ノ所爲ノ如キハ營業者ヲ罰スヘキモノニシテ行商者ヲ罰

スヘキモノニアラサルヲ原裁判ノ爰ニ出テサリシハ擬律錯誤ノ裁判ナル旨附帶ノ上告ヲ爲シタリ依テ刑事局ニ於テハ附帶上告ヲ採用シ治罪法第四百三十一條ニ基キ原裁判ノ一部タル第三點ヲ破毀シ直ニ被告五郎三郎ニ對シ被告カ第三ノ所爲ハ罪トナラサルニ付治罪法第三百五十八條及同第二百廿四條第三項ニ照シ無罪ナリトノ判決ヲ與ヘタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク被告カ上告ノ訴旨ハ採證ノ當否事實判定ノ如何ヲ論難スルニアリテ上告ノ原由トナスヲ得ス何トナレハ採證及ヒ事實ノ判斷ハ原裁判官カ特有スル職權内ニアレハナリ然リト雖本院檢事附帶上告ニ基キ賣藥印紙稅則第三條ヲ閱スルニ曰印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシトアリ此律意タルヤ營業者ノ何人タルヲ證シ且其藥品ノ價物ヲラサルヲ公ニスルニ在ルヤ必セリ故ニ其營業者ニ於テ是等ノ手續ヲ爲サ、ルキハ同則第七條ノ

制裁ヲ受ク可キ者タリ今ヤ本按被告ハ行商者ニシテ營業者ニ非ラサレハ其營業者ノ責メニ任ス可キ義務ナキハ多辯ヲ要セスシテ明カナリ然ルヲ原裁判官カ被告ハ行商者ナリト認メナカラ營業者ヲ罰ス可キ法條ヲ適用シテ處斷シタル擬律錯誤ノ裁判ナリトス

賣藥印紙稅規則及賣藥規則違犯 明治十九年  
乙第四百號

賣藥製造者ハ其請賣者ヲ以テ家族雇人ト同視シ之レニ賣藥ノ調製又ハ印紙ノ貼用ヲ委任スル事ヲ得ルヤ否

福岡縣筑前國福岡區博多中對馬小路平民賣藥製造業津原伊右衛門ニ對スル被告事件

初審 福岡輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告伊右衛門ニ於テ請賣人某へ自製ノ奇應丸外壹方ヲ無印紙ニテ賣渡シタルト右某へ藥劑ノ細末ヲ渡シ以テ自家ノ營業ニ係ル大補圓ノ調製ヲ爲サシメタルト二個ノ所爲アリシモノニテ初

審裁判所ハ右被告ノ所爲ヲ以テ賣藥印紙稅規則第五條及賣藥規則第二十三條ヲ適用スヘキモノト爲シ各罰金若干圓ニ處スル旨言渡シタルニ被告ニ於テハ自製ノ大補圓ハ元來粉藥ニシテ購求者ノ望ニ依リ或ハ練藥トシテ販賣スル事アルモ之ヲ練藥ト爲シ置クハ腐敗ノ恐レアルヨリ請賣人又ハ行商人へハ粉藥ノ儘ニテ渡シ服用者ノ適宜ニ任セタルモノニシテ則チ請賣人某へ粉藥ヲ渡シタルモ右ノ理由ニ外ナラス決テ調劑ノ方法等ヲ傳授調製セシメタルニアラサレハ賣藥規則第二十三條ノ制裁ヲ受クヘキ謂レナク又奇應丸外一方へ印紙ヲ貼用セサリシモノハ運送ノ途次包紙ノ毀損ナカラシメ爲メ右某ノ依頼ニ任セ包紙ト藥劑トヲ格別ニ送致シ之カ印紙ノ貼用ヲ委任シタルマテナレハ恰モ家族雇人ヲシテ之カ貼用ヲ爲サシムルト一般毫モ印紙稅則ニ違犯シタルモノニアラサルニ前顯ノ如ク處斷シタルハ不法ノ裁判ナル旨上告シタリ然レモ刑事局ニ於テ上告ノ理由ナキモノトシテ

棄却セシモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑賣藥製造營業ト請賣業トハ自ラ格別ナル者タルコトハ賣藥規則ニ判然其區別シアル所ニシテ請賣者ハ製造營業ノ家族雇人ト同一視スルヲ得サルハ論ヲ竣サルナリ而テ製造營業者ニシテ其賣藥ヲ請賣者又ハ行商者等へ販賣スルハ其賣藥調製ノ上其代價ニ相當スル印紙ヲ貼用シ消印ノ上送遞セサルヲ得サルハ賣藥印紙稅規則ニ依リテ明ラカナリ然レハ上告者自陳スルカ如キ調合ノ藥品粉ヲ請賣者ニ送附シテ調製セシメ又ハ二方ノ賣藥ニ印紙ヲ貼用セス請賣者ニ送附販賣セシメシ所爲ハ即チ賣藥規則第二十三條及ヒ賣藥印紙稅規則第五條ノ制裁ヲ免カレ得ヘキモノニアラサレハ原裁判ハ最モ至當ニシテ毫モ不當ノ點アルコトナシ故ニ上告ノ旨趣ハ相立サルモノトス

賣藥印紙稅規則及賣藥規則違犯 明治十九年  
乙第九百四十三號

營業鑑札ヲ受ケス單味ノ藥種ヲ行商セシメタル者ハ賣藥規則第

二十三條ノ制裁ヲ受クヘキモノナルヤ否

長野縣信濃國上伊那郡伊那村平民賣藥製造營業丸山八五郎ニ對スル被告事件

初審 長野輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告八五郎ニ於テ第一其製造ニ係ル神農感應丸若干ニ相當印紙ヲ貼用セス原田瀧太郎ナル者ヲシテ行商セシメタルト第二牛膽八十七貝ヲ營業鑑札ヲ受ケス同様行商セシメタルト二個ノ處爲アリシモノニテ初審裁判所ハ右被告ニ對シ第一ノ所爲ニ付テハ賣藥印紙規則第五條ニ依リ若干ノ罰金ニ處シ第二ノ所爲ニ付テハ被告ハ賣藥規則頒布前調製シ置キタル牛膽丸八十七貝ヲ其營業鑑札ヲ受ケス行商セシメタルモノナリトソ判定テ下シ賣藥規則第二十三條ニ依リ若干ノ罰金ニ處スル旨言渡シタルニ被告ニ於テハ被告ハ未ダ曾テ牛膽丸ト稱スル藥品ヲ調製シタルトナク唯單味ノ牛膽ヲ小片ニ

切斷シ貝入トナシタルニ過キサルトハ現ニ押收サレタル實品ニ徴シ明カナリ然ラハ則チ假令ヘ之ヲ行商セシメタルノ實アリトスルモ決テ賣藥規則ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラサルニ原裁判所カ殊更ニ牛膽丸ノ名稱ヲ附シ前顯ノ如ク處斷シタルハ不法ノ甚シキモノナリ况ンヤ牛膽ト云ヒ神農感應丸ト云ヒ何レモ明治八年中他ヘ貸賣トナシ置キタルモノニシテ此際行商セシメタルニアラサルヲヤト原裁判ハ越權ノ處分タルヲ免カレサルモノト信スル旨上告シタリ然ルニ刑事局ニ於テハ原裁判所カ被告第二ノ所爲ニ對シテ與ヘタル裁判ハ事實理由ノ不備ニシテ擬律ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナキ失當ノ裁判ナリト認メ治罪法第四百三十一條ニ則リ其一部ヲ破毀シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク被告カ神農感應丸ハ明治十八年中他ヘ貸賣トナシタル物品ニシテ行商セシメタルニアラスト論告スレモ則チ事實點ニ涉ル論旨ナルヲ以テ該上告ハ相立ス何トナレハ原裁判官ハ正當ノ職權ヲ

以テ該藥ハ相當印紙ヲ貼用セス原田瀧太郎ヲシテ行商セシメタルモノト認メタル以上ハ之レヲ動カシ得ヘキモノニアラサレハナリ然レニ賣藥規則ニ於テ賣藥ト稱スルハ藥味ヲ配伍調製シ効能書及ヒ用法定價ヲ附スルカ又ハ効能書ヲ附セサルモ購買者ヲシテ何病ニ如何ナル効能アリト信用セシムルニ足ル方法アルニアラサレハ賣藥ノ性質ヲ具備シタルモノトハ云フヲ得ス從テ賣藥規則ノ制裁モ亦受クヘキ者ニ非ラス本件原判文ヲ閱ミスルニ第二ノ所爲ニ對シテハ(賣藥規則頒布前調製シ置キタル牛膽丸八十七具ヲ其營業鑑札ヲ受ケス云々)トアルノミニシテ該藥ハ賣藥ノ性質ヲ具有スルモノナル乎否之ヲ知ルヲ得スト雖モ一件書類中ニ徵スルニ九トナシタルモノニアラスシテ單純一味ノ牛膽ナルモノ、如シ果シテ然ラハ決テ賣藥ノ性質ヲ有スルモノニ之レナキハ勿論賣藥規則ノ得テ管理スヘキモノニアラス然レモ之レ等必要ノ點ヲ審究明示ナケレハ未タ以テ擬律ノ當否ヲ鑑査

スルニ由ナキ事實理由ノ不備ナル失當ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノトス而テ檢察官ハ申立書ノミニテ趣意書ヲ出ササルヲ以テ其上告ハ成立タス

藥品取扱規則違犯 明治十九年  
乙第千五百五拾貳號

法律規則中ニ罰例アルモノハ刑法ニ正條アリト雖モ尙ホ其罰例ニ依リ處斷スヘキモノナリヤ否

三重縣伊勢國安濃津郡茶屋町平民東京府神田區元岩井町拾六番地寄留藥種商小菅半藏ニ對スル被告事件

初審 東京輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告半藏ニ於テ品名量數需用ノ目的年月日及住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ收受セスシテ藥品取扱規則ニ定メアル第三類ノ劇藥若干ヲ販賣シタルモノニシテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ヲ以テ賣藥取扱規則第四條ヲ犯シタルモノト爲シ同則第六條ニ依リ罰金三

拾圓ニ處スル旨言渡タルニ被告ニ於テハ原裁判ヲ以テ事實ト理由トニ齟齬アル不法ノ裁判ナリトシ被告ノ所爲ハ事實罪トナルヘキモノニアラサルニ之ヲ處罰シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナル旨縷々論告シタリ然ルニ刑事局ニ於テハ上告論旨ハ總テ其原由ナキモノナルモ原裁判官カ刑法ニ正條アルニモ不拘被告ヲ藥品取扱規則ニ照シテ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトノ理由ヲ以テ治罪法第四百廿九條ニ法リ原裁判ヲ破毀シ直ニ被告半藏ニ對シ刑法第貳百五十四條ニ依リ罰金拾圓ニ處スル旨判決シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑モ大審院ハ法律ノ當否ヲ鑑査スル所ニシテ事實ノ覆審ヲ爲ス所ニアラス今ヤ被告ノ上告論旨ハ前掲ノ如クニシテ法律ノ當否如何ヲ論疏スルニ非スシテ承審判官カ治罪法ノ規定ニ依リ特有スル職權ヲ以テ爲シタル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ固ヨリ適法ノ理由トハナラサルノミナラス法律上理由ノ齟齬又

ハ擬律錯誤トハ判示シタル理由ノ前後矛盾シテ其旨趣ノ歸着スル所詳カナラサルカ又ハ認定セシ事實ト之レニ當行シタル法條ト適合セサル場合ヲ云フモノニシテ被告カ論訴スル如キモノヲ云フニアラス因テ被告ノ上告旨趣ハ總テ相立タサルモノトス然レモ明治十四年第七十二號布告第六條ニ法律規則中ニ罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ストアルヲ以テ刑法ニ依リ處分スヘキモノナルニ原裁判茲ニ出テス藥品取扱規則ニ照シ處斷シタルハ擬律錯誤ニ係ル失當ノ裁判ナルニヨリ破毀ノ原由アルモノトス

古物質屋取締條例違犯目錄

古物賣買交換ニ關スル件

一物品賣買交換ニ關ス

一物品ヲ賣買交換シ帳記セサルニ關ス

一路傍ニ於テ物品ヲ賣渡シタルニ關ス

一無免許ニテ古物ヲ買取リタルニ關ス

一身元不詳者ヨリ古物ヲ買取リタルニ關ス

一古物買取ノ再犯ニ關ス

一古物行商ノ責任ニ關ス

一受刑者ヨリ物品ヲ買取リタルニ關ス

古物ノ届出ニ關スル件

一無届ニテ古物ヲ發送シタルニ關ス

一同上

丁數

明治十八年 一三九

明治十九年 一三一

明治二十八年 一三三

明治二十九號 一三五

明治二十八號 一三八

明治二十九號 一四〇

明治二十八號 一四三

明治十九年 一四六

明治十九年 一四七

明治十九年 一五〇



質物ニ關スル件

- 一 身元不詳者ヨリ物品ヲ預リタルニ關ス
- 一 質物ヲ預ルニ於テ證人ニ關ス
- 一 質物ノ捺印ニ關ス
- 一 質入人ノ年齢ニ關ス

明治十八年 一五三  
第千五百八十二號  
明治十八年 一五五  
第千五百九十一號  
明治十八年 一五八  
第千三百七號  
明治十九年 一六二  
乙第百六十號

古物取締條例違犯 明治十八年  
第千三號

古物商營業者ニ於テ物品ヲ賣買交換シテ之ヲ帳簿ニ記載セス又ハ其筋ノ認可ヲ受ケス身元不詳者ヨリ買取リ同條例第三條第四條ニ違犯シタル場合ハ數罪俱發例ヲ用ユベキヤ將タ各別ニ處分スベキヤ

大阪府平民古物商三木又七ニ對スル被告事件

初審 大阪輕罪裁判所

本件ノ事實被告三木又七ハ明治十八年三月四日物品ヲ賣買交換シテ其賣買交換及賣主讓主等ヲ帳簿ニ記載セス又警察官若シクハ巡查ノ認可ヲ受ケスシテ身元詳カナラサルモノヨリ買取リタルモノニテ明治十八年三月四日初審裁判所ニ於テ古物取締條例第三條第四條ニ違犯シタルモノト判定シ同第十四條ニ依リ罰金七圓ニ處シタリ同裁判所檢察官ハ被告カ所爲ハ二箇犯則ノ所爲ナルヲ以テ同條例第二十條

ニ依リ二箇ノ所爲各同條例第十四條ヲ適用スベキモノト主張シ上告ノ未刑事局ニ於テハ上告ノ主旨ニ依リ刑法第五條ニ則リ原裁判所カ認定ノ第一點ニ對シテハ古物商取締條例第三條及第十四條ヲ適用シ第二點ニ對シテハ同條例第四條及第十四條ヲ適用シ尙ホ同條例第二十條ニ照ラシ刑法ノ數罪俱發例ヲ用ヒス罰金貳圓以上貳百圓以下ノ範圍内ニ於テ各罰金三圓五拾錢宛ニ處シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク檢察官ノ起訴ニ於ルモ被告ハ古物商營業ノ者ニテ其取締條例第三條第四條ニ違犯スル所爲アリト云フニアリシハ公判始末書ニ明記スル所ニシテ裁判言渡書ニモ古物商取締條例第三第四條ニ違犯シタルモノニ付トアレハ該判文事實ヲ掲ケシ所ニ外ニ帳簿二冊ヲ製シ明細帳ニ登記アラサル賣買ヲ記入シ來リ而シテ該帳簿ハ是迄警察官ノ點檢ニ供シタルコトナクトハ其第三條ニ違犯ノ所爲ヲ云ヒ且以下ハ第四條ニ違犯ノ所爲ヲ指シタルモノニテ原裁判官ニ於テ事實

及ヒ法律ニ於テ二箇ノ條件ト認メシモノナルヤ明カナリ然レハ同條例第二十條ニ依リ各自其罰ヲ科スヘキニ數罪俱發ノ例ニ依リタルニハアラサルモノ二箇ノ條件ヲ束テテ處斷シタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス

古物商取締條例違犯 明治十九年  
第四百八十四號

數人ト數次ニ物品ヲ賣買交換シ其賣主及讓受主ヲ帳簿ニ記載セサルモノハ連續犯ナルヤ將テ各所爲毎ニ罰スベキヤ否

兵庫縣平民古物商内田兵太郎ニ對スル被告事件

初審 姫路 支廳

本件ノ事實被告内田兵太郎ハ第一明治十八年十一月中自宅ニ於テ畑新市ヘ蒸籠一組外三點ヲ賣拂ヒ其物品及賣主讓主ヲ買入帳ニ記載セズ第二明治十八年十二月中岡本庄太郎ヨリ木綿茶紺淺黃立縞男袷壹枚外六點ヲ買入レ之ヲ他人ニ賣拂ヒ或ハ交換シテ其買主讓受主ヲ帳

簿ニ記載セサルモノニテ明治十九年二月一日初審裁判所ニ於テ刑法第五條ニ基キ古物商取締條例第三條及第十四條ニ照シ第一第二ノ所爲ニ對シ各罰金五圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告カ賣拂ヒタル蒸籠外三點ノ内銅ノチロリハ被告ノ所持品ナルヲ以テ之ヲ賣拂フモ帳記スベキ筈ナキニ他品ト同視シタルハ不當ナリ又前顯物品ノ内結城縞單物一枚ハ藤田岩吉カ篠卷ト交換シ已ニ帳簿ニ記載セントスル際巡查ニ見咎メラレ其他ノ物品ハ畑竹藏助外五名へ直段モ取極メス貸渡シ未タ代金モ受取ラサル前ニ巡查ニ發見セラレタルモノナレハ未タ帳簿ニ記スル能ハス故ニ之ヲ犯罪ヲ以テ處分シタルハ不法ナリト論シ上告ヲナシ覆審ヲ訴求シ大審院臨席檢事ハ被告カ所爲ヲ二罪トシ各罰シタルハ擬律ノ誤判ナリト論シ附帶上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ被告カ上告ハ之ヲ棄却シ附帶上告ニ基キ治罪法第四百二十九條ノ法規ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ直ニ刑法第五條ニ基キ古物商取

締條例第三條及第十四條ニ照ラシ罰金五圓ニ處シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク被告人カ上告ハ前顯ノ如クニシテ專ラ承審判官ノ職權ヲ以テ爲シタル事實判定ニ不服ヲ唱へ覆審ヲ訴求スルニ止リ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル上告ノ原由之レナキニ依リ採用スルニ由ナキモノトス然リト雖モ古物商取締條例第三條ニ違背シ物品賣買主ヲ其帳簿ニ記載セサル如キハ假令數次ニ係ルモ之レヲ記載セサルノ意思ハ同一ニシテ其所爲連續犯ナルヲ以テ其罪ヲ數罪トシ各自ニ科罰スヘキモノニアラス然ルニ原裁判官ハ之レヲ二罪ト爲シ各自併罰セシハ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナルニ依リ破毀ノ原由アルモノト判決ス

古物商取締條例違犯 明治十八年  
第四百二十六號

他商ノ露店ノ側ニ於テ通行人へ古物類ヲ賣渡スモ古物商取締條例違犯ノ廉ナキヤ否

京都府上京區平民雜業小野幸次郎ニ對スル被告事件

初審 京都輕罪裁判所

本件ノ事實被告小野幸次郎ハ古物商某カ露店ノ側ニ於テ通行人ヘ衣類三點ヲ賣却シタルモノニテ明治十八年十月三十一日初審裁判所ニ於テ被告カ所爲ハ古物商取締條例ニ違犯シ營業ヲ爲シタルモノニアラスト判定シ刑法第二條ニ基キ之ヲ罰セスト言渡シタリ同裁判所檢察官ハ被告カ所爲ハ古物商取締條例第二條ニ違背セシ者ナルヲ以テ同條例第十四條ニ依リ處分スベキモノナリ然ルニ被告カ所爲ニ對シ之ヲ罰セスト言渡シタルハ不法ノ裁判ナリト論シ上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ其上告ハ理由ナキモノト認メ棄却シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク抑古物商營業者タルヤ其營利生計ヲ目的ト爲カ如キ商業ニ係ルモノヲ指稱シタルモノニシテ自己ノ所有物ヲ賣却スルニ市場ニ於テ爲シタリトテ直チニ之レヲ營業ナリト云フ可キモノニアラ

ス本件被告カ所爲ノ事實ニ於ケル原裁判官ノ認ムル所ニ依レハ古物商某カ露店ノ側ニ於テ通行人ヘ衣類三點ヲ賣却シタリト云フニ過スシテ其所爲タルヤ營業ヲシタルモノトス可カララストアリテ其賣却ヲ爲セシハ營利ヲ目的ニセシモノニアラサル事實ヲ原判官ニ於テ認メタル以上ハ古物商取締條例第二條第十四條ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラサレハ之レヲ擬律ノ錯誤ナリト云フヲ得ス故ニ上告ノ旨趣ハ相立サルモノトス

古物商違犯 明治十九年  
第九百二十九號

人ヲ宿泊セシメ其氏名等ヲ記載セサル違警罪ト古物商取締條例違犯ノ罪ト共ニ發覺シタルキハ數罪俱發例ヲ用ユベキヤ將タ一ノ重キニ從ヒ處分スベキヤ  
無免許ニテ古着類ヲ買取リタルモノハ古物商業取締條例第四條ニ依リ處分スベキヤ又同第二條第十四條ヲ適用スベキヤ否

神奈川縣平民旅人宿兼古道具商石渡佐五右衛門ニ對スル被告事  
件

初審 横濱輕罪裁判所

本件ノ事實被告石渡佐五右衛門ハ第一票原定吉外壹名ヲ宿泊セシメ其姓名ヲ記載セス第二古着免許鑑札ヲ受ケス古着ヲ買取リタルト右衣類買取ノ節身元ヲ詳カニセサルモノニテ明治十八年三月十五月初審裁判所ニ於テ被告第一ノ所爲ニ對シテハ神奈川縣甲第二百三十九號第五條第十條ニ依リ科料貳拾錢ニ處シ第二ノ所爲ハ明治十六年第五十號布告古物商取締條例第二條第四條第十四條第二十條ニ據リ罰金各貳圓ノ處刑法第一百一條末段ニ依リ一ノ重キ古物商取締條例違反ノ罪ニ從ヒ尙同條例第二十條ニ照シ同條違反ノ罪ニ對シテハ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス各罰金貳圓宛ニ處スト言渡シタルヲ同裁判所檢察官ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ旅人宿取締規則ト古物商取

締條例トヲ比照シ刑法第一百一條末段ヲ適用シ重キ古物商取締條例ニ從ヒ處斷シタルハ不當ナリ又古着商ノ免許ヲ受ケス其營業ヲ爲シタルハ古物商條例第二條ヲ犯シタルモノト爲シ身元詳カナラサル者ヨリ古着ヲ買取タルモノハ同條例第四條ヲ犯シタルモノト爲シ之ヲ同條例第十四條ニ照シ各其罰金ヲ科シタルハ事實理由ノ齟齬シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ刑事局ニ於テハ上告ノ趣旨ニ基キ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ第一ノ所爲ハ神奈川縣甲第二百三十九號第五條第十條ニ照シ科料貳拾錢第二ノ所爲ハ明治十六年第五十號公布古物商取締條例第二條第十四條ニ依リ罰金貳圓ニ處シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク明治十六年第五十號布告古物商取締條例第二十條ニ此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒストアリ然ラハ則他ニ犯罪アル場合ニ於テハ併科スヘキ法意ナルハ論ヲ竣サルナリ然

ルニ原裁判官ハ被告カ犯シタル違警罪ト古物取締條例違犯トヲ刑法  
第一百一條未段ニ照シ一ノ重ニ從ヒ違警罪ヲ不問ニ附シタルハ不當ナ  
リトス又古物商取締條例第四條ニ身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取  
又ハ交換スルヲ得ストアルハ則免許ヲ受ケタル古物商ノ遵守スヘ  
キ法條ナレハ本按被告ノ如キ無免許ニテ古着ヲ賣買シタルモノハ當  
ニ無免許營業ノ罰ヲ科スルニ止マリ第四條違犯ノ罰ヲ科スヘキモノ  
ニアラサルニ同條例第二條第四條ニ違背シタルモノトシ第十四條第  
二十條ニ依リ各罰金貳圓ニ處シタルハ原檢察官上告論旨ノ如ク不法  
ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ理由アルモノトス

古物商取締條例違犯 明治十九年  
乙第五百八十八號

身元不詳者ヨリ古物類ヲ買取リ之ヲ帳記セサルモノハ一所爲ト

シテ罰スベキヤ將タ二罪ニ問フベキヤ否

兵庫縣平民古物商赤井與三郎ニ對スル被告事件

初審 姫 路 支 廳

本件ノ事實被告赤井與三郎ハ自宅ニ於テ氏名及ヒ身元詳カナラサル  
者ヨリ女單物壹枚外數品ヲ買入レ之ヲ買入簿又ハ賣渡帳ニ記載セザ  
ルモノニテ明治十九年七月十日初審廳ハ古物商取締條例第四條第三  
條第十四條ニ照依シ其身元不詳者ヨリ物品買入レタル所爲ヲ罰金五  
圓帳簿ニ記載セサル所爲ヲ罰金五圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ  
被告ハ身元不詳者ヨリ買入レタルヲナシ其氏名ハ帳簿ニ記セリ又前  
顯物品ノ内買入ノ後染直ヲ爲シ賣却セシモノアルヨリ買入帳ト賣渡  
帳トノ符合セサルヲ以テ該帳簿ヲ引上ケラレ眞實ノ申立ヲ爲スモ聽  
許セラレテ苛酷ノ取調ヲ受ケ一時其意ニ隨ヒ調書ニ押印シタルモノ  
ナリ云々ト論シ原裁判ニ不服ヲ唱へ上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ  
被告カ上告ハ其理由ナキモノト認メ之ヲ棄却シ又原裁判ハ治罪法第  
四百二十九條ニ從ヒテ之ヲ破毀シ直ニ被告與三郎ニ對シ古物商取締

條例第四條同第十四條ヲ適用シ罰金五圓ニ處シタルモノニ係ル  
 其理由ニ曰ク上告ノ旨趣ハ前顯ノ如クニシテ專ラ承審判官ノ特有ス  
 ル職權ヲ以テ爲シタル證憑ノ取捨事實ノ判定ニ對シ其當否ヲ論難ス  
 ルニ止マレハ之ヲ以テ上告ヲ爲スノ原由トスルヲ得ス然リト雖モ原  
 裁判官ノ認タル被告カ所爲ノ事實ニ依レハ身元不詳者ヨリ物品數點  
 買入レ之ヲ買入帳ニ記載セサル者ナリ此事實ニ於ケル古物商取締條  
 例第四條ノ違犯ニ止リ同第三條ノ違犯者ナリト爲スヲ得ス何トナレ  
 ハ該三條ノ精神タルヤ法律上古物商人カ賣買シ得可キ物品ノ賣買交  
 換ヲ爲ス事ヲ記載スヘシトノ法意ニシテ禁制シタル物品賣買迄ヲ登  
 記スヘシトノ法章ニハアラサルヲ以テナリ然ルニ原裁判茲ニ出テス  
 被告カ所爲ヲ二罪トシ之レニ二罰併科シタルハ擬律ニ錯誤アル不當  
 ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノト判定ス

古物商取締條例違犯 明治十九年  
第六百二十八號

古物商ニ於テ買受物品等ノ帳記ヲ爲サス一年內ニ再ヒ古物商取  
 締條例ニ違犯シタルモノハ刑法第五條第二項ノ法章ニ基キ罰ス  
 ベキヤ否

青森縣平民柴田忠三郎ニ對スル被告事件

初審 弘前輕罪裁判所

本件ノ事實被告柴田忠三郎ハ曩キニ古物商條例違犯ノ罪ニ依リ罰金  
 ノ刑ニ處セラレ又明治十九年六月一日買受ケタル古着類ノ内百三十  
 四品ヲ帳簿ニ記載セサルモノニテ明治十九年七月九日初審裁判所ハ  
 被告カ所犯ハ一年內ニ係ル再犯ト判定シ刑法第五條第二項ニ依リ古  
 物商取締條例第三條第十四條ニ照シ罰金貳圓以上貳百圓以下ノ範圍  
 內ニ於テ處斷スヘキ犯罪ニ該當スルモ再犯ニ係ルヲ以テ刑法第九十  
 二條第七十條ニ依リ本刑ニ一等ヲ加ヘタル範圍內ニ於テ罰金拾五圓  
 ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢察官ハ古物商取締條例第

十九條ニ古物商一年內ニ此條例ニ再犯シタルキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁シ又ハ停止スルヲ得トアリテ即チ本條ハ該條例ノ總則ヲ掲ケタルモノナレハ本按被告カ所爲ニ對シテハ刑法第九十二條第七十條ヲ適用スヘキモノニアラスト論シ上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ上告論旨ハ其理由ナキモノト認メ治罪法第四百二十七條ニ則リ棄却セシモノニ係ル

其理由ニ曰ク刑法第五條二項ニ若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フトアリ今古物商取締條例ヲ審檢スルニ該條例ニ總則ノ規定ナキハ勿論該條例第十九條ハ其明文ノ如ク行政上ノ處分ニテ營業禁止停止スルヲ指示シタルモノニシテ一ノ特定法ヲ掲ケタルニ止レハ之ヲ總則ナリト云フ可キモノニアラス其他該條例中再犯罪ニ付テノ特別法アルニアラサレハ原裁判官ニ於テ前記刑法第五條二項ノ法章ニ基キ被告カ所爲ニ對シ刑法第九十二條

第七十條ヲ適用シ再犯ヲ以テ論斷セシハ最モ至當ニシテ毫モ擬律ニ錯誤アルニアラス故ニ上告論旨ハ其理由ナキモノトス

古物商取締條例違反 明治十九年  
第三百二十八號

古物營業者ニ於テ其家族又ハ雇人等ヲシテ行商鑑札ヲ受ケシメ行商ヲ爲スニ方リ犯則ノ所爲アルキハ其責家族又ハ雇人ニアルヤ將タ本人ニアルヤ否

京都府上京區平民古物商藤江儀一郎ニ對スル被告事件

初審 京都輕罪裁判所

本件ノ事實被告藤江儀一郎ハ第一明治十九年一月廿五日ヨリ同年二月二十四日迄他ニ賣渡シタル物品ヲ帳簿ニ記載セス第二ニ被告カ妻ふくハ明治十九年二月十二日全十八日全廿一日ノ三度ニ藤岡かつ外一名ヨリ物品ヲ買受ク簿冊ニ登載セサルモノニテ明治十九年三月廿五月初審裁判所ニ於テハ被告ニ對シ古物商取締條例第三條第十四條



ニ照シ罰金四圓ニ處シ第二ノ所爲ハ其妻ノ行爲ニ係ルヲ以テ被告ハ無罪ナリト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ古物商取締條例ニハ其行商人ニ係ル規定ナシト雖モ同條例第二十三條ニ基キ京都府知事ニ於テ設定セシ細則第三條ニ古物商人ノ家族又ハ雇人ニ限り行商ヲ爲サシムルヲ得ルノ方法アルノミニテ行商人ハ其營業上獨立ノ資格アルモノニアラス即チ營業上諸般ノ責ハ古物營業者自ラ任スベキモノナリ然ルテ原裁判官ニ於テ被告カ妻ニ夫クハ獨立ノ營業ヲ爲セシモノ、如ク誤解シ右ニ夫クカ條例違犯ノ所爲アルヲ認メナカラ此點ニ付無罪ト言渡シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在リ刑事局ニ於テハ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ古物商取締條例第三條ニ違背スルモノト認メ全條例第十四條第十二條ニ照シ罰金五圓ニ處シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑古物商取締條例中ニ行商ヲ爲サシムルノ規定アルニ

アラサレハ該條例第二十三條ニ從ヒ京都府ニ於テ古物取締細則ヲ規定セシモノニシテ其細則第二條第三條ニ於テ行商ノ方法ヲ設ケタルノ精神ハ古物行商ノ特立ノ業ヲ設立シタルニアラスシテ古物商營業資格アル者ニ其行商業ヲ許シタルヤ該法條ニ因テ明瞭タリ然レハ古物營業者カ自己又ハ家族雇人ヲシテ其行商鑑札ヲ受シメ其行商ヲ爲スニ方リ犯則ノ所爲アルキハ該條例第二十二條ノ明文ニ依リ其責メ營業者ニ歸スルハ論ヲ埃サルナリ本件被告人カ妻藤江ニ夫クカ行商中三度ニ藤岡カノ外一名ヨリ物品ヲ買受ケ之ヲ簿冊ニ登記セサルノ事實ハ原裁判官ニ於テ認ムル所ニシテ此所爲ニ對シテハ被告人ヲ該取締條例第二十二條第三條第十四條ニ照シ第一ノ所爲ト共ニ處斷スヘキモノナリ然ルニ該所爲ニ對シ其責被告ニアラストシ無罪ヲ言渡シタルハ上告ノ論旨ノ如ク擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノト判定ス

古物商取締條例違犯 明治十九年

盜贓故買ノ處分ヲ受ケタルモノヨリ其犯者ナルヲ知ラス物品ヲ買  
取リタルモノハ古物商取締條例ノ制裁ヲ受クヘキモノナルヤ否  
愛知縣平民石原庄作ニ對スル被告事件

初審 岡崎支廳

本件ノ事實被告石原庄作ハ警察官ノ許可ヲ受ケスシテ盜贓故買ノ處  
分ヲ受ケタル水野源助ヨリ衣類ヲ買取リタルモノニテ明治十七年八  
月廿日初審廳ハ被告ニ對シ古物商取締條例第六條ニ依リ罰金若干圓  
ニ處スルノ言渡ヲ爲シタリ被告ハ其賣主ノ犯罪者タルヲ知ラスシテ  
買取リタルモノナシハ反則ヲ以テ論スヘキモノニアラスト思料シ上  
告ヲ爲シ大審院立會檢事モ亦古物商ハ賣主ノ犯者タルヤ否ヤヲ取調  
ルノ責任ナキモノナレハ之カ取調ヲ爲サ、ルヨリ其犯者タルヲ知ラ  
サル場合ノ如キハ條例違犯ト爲スヘカラス且ツ原裁判ハ治罪法第三

百四條ノ規定ニ背キタル失當ノ裁判ナリト論シ附帶上告ノ末刑事局  
ニ於テハ原裁判ハ緊要ノ事實理由ヲ缺キタルモノト認メ治罪法第四  
百二十八條ニ則リ破毀セシモノニ係ル

其理由ニ曰ク古物商取締條例第六條ニ依リ警察官ノ許可ヲ要スルハ  
盜罪等ノ處分ヲ受ケタル者タルヲ知テ其者ヨリ物品ヲ買取スル等ノ  
場ニ在レハ本條ノ違犯者ト認ムルニハ其盜罪等ノ處分ヲ受ケタル者  
ナルヲ知リタルトノ事實アルヲ要ス然ルニ原判文ニハ被告ハ贓物  
故買ノ處分ヲ受ケタル水野源助ヨリ 中衣類ヲ買取リ警察官ノ許可ヲ  
受ケサリシ義ハ云々トノミニテ其必要ナル點即チ被告ハ水野源助カ  
贓物古買ノ刑ニ處セラレタルヲ知リタリトノ事實ヲ明示セス故ニ果  
シテ其罪ヲ構成スルヤ否之ヲ識ルニ由ナク所謂事實理由ノ不備ナル  
不法ノ裁判ナリトス

古物商取締條例違犯 明治十九年  
乙第九百三十五號

古物ヲ買入レ發送シタル場合ニ於テハ發送到着二個ノ地ノ管轄  
警察署ニ届出ヲ要スルヤ否

長野縣平民古物商植松利八郎ニ對スル被告事件

初審 松本 支廳

本件ノ事實被告植松利八郎ハ其長男龜吉ヲ山梨縣下甲府ニ遣ハシ同  
所古物商山口吉太郎外數名ヨリ古着類ヲ買入レ之ヲ同所警察署ニ届  
出テス其儘之ヲ持歸リ其荷物ノ到着スルヤ直チニ松本警察署ニ届出  
タルモノニテ明治十九年十月六日初審裁判所ニ於テ被告ハ古着類ヲ  
買入レ其運搬ノ際甲府即チ買入レ地ノ警察署ニ届出サルモ古物商取  
締條例第九條ニ違犯セシモノト云フヘカラス到底被告事件ハ罪トナ  
ラサルモノト判定シ治罪法第三百五十八條ニ從ヒ無罪ノ言渡ヲ爲シ  
タリ之ヲ不當トシ同裁判所檢察官ハ本按被告カ所爲ハ古物商取締條  
例第九條ヲ適用スベキモノナリト論シ上告ノ末刑事局ニ於テ其上告

ハ理由アルモノト認メ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ  
更ニ古物商取締條例第九條第十四條ニ依リ同第二十二條ニ照シ貳圓  
以上貳百圓以下ノ範圍内ニ於テ罰金貳圓ニ處シタルモノニ係ル  
其理由ニ曰ク古物商取締條例第九條ニ古物商物品ヲ他府縣ニ運送セ  
ントスル時トアルハ物品ノ賣主買主タルニ拘ハラス總テ他府縣ニ運  
送ヲ爲スモノニ於テ届出ヘキノ規定ニシテ又ハ他府縣ヨリ受取り云  
々ハ其着荷ヲ受取りシ者其届出ヲ爲スヘキノ法條ナレハ此場合ニ在  
テハ發送到着二個ノ地ノ所轄警察署ニ届出ヲ爲サザルヘカラス今本  
按被告カ所爲ノ事實ハ原判官ノ認ムル所ニ據レハ被告ハ長男龜吉ヲ  
シテ山梨縣下甲府ニ於テ數多ノ古着ヲ買入レシメ該物品發送ノ際同  
所警察署ニ届出ヲ爲サスシテ着荷ノ後所管警察署ニ届出テシモノナ  
ル事明瞭ナレハ即チ前第九條ノ成規ニ違背シタルモノニ付同第十四  
條ニ依リ仍ホ同第二十二條ニ照シ處斷スヘキニ原裁判ノ茲ニ出テサ

ルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナリトス

古物商取締條例違犯明治十九年  
第一千二百號

古物商ヲ營業トスルモノニ於テ物品ヲ他府縣ヘ發送スルキハ物  
ノ新古ニ關セス管轄警察署ヘ届出ベキヤ否

東京府日本橋區平民古物商鈴木金造ニ對スル被告事件

初審 東京輕罪裁判所

終審 東京控訴院

本件ノ事實被告鈴木金造ハ明治十九年六月廿六日ニ新規仕立ノ蚊帳  
三拾枚入荷物壹個ヲ所轄警察署ニ届出ス發送シタルモノニテ初審裁  
判所ニ於テ被告ハ古物商取締條例第九條ニ違犯シタルモノト判定シ  
全第十四條ニ依リ罰金若干圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告ハ  
控訴ヲ爲シタリ明治十九年十月廿一日東京控訴院ハ審理ノ末初審ノ  
裁判ヲ相當ノモノト認メ治罪法第三百六十八條第三百四十四條ニ從

ヒ該言渡フ全部ヲ認可スル旨言渡シタルニ復タ被告ハ此終審裁判ヲ  
不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ハ元來新規仕立夜具蒲團蚊帳  
販賣營業ヲ兼古物商ノ鑑札ヲ得テ物品取扱上該條例ヲ遵奉セリ然レ  
モ仕立夜具蒲團蚊帳製造ノ營業ニ至リテハ別ニ取締規則ヲケレハ又  
鑑札ヲ受ク可キモノニアラサルノミナラス其物品ニ付テハ古物商條  
例ノ支配ヲ受クベキモノニ非ラス然ルニ原裁判官ニ於テ被告カ二種  
ノ營業ヲ兼ルトト現ニ發送シタル物品ハ新規仕立ニシテ古物ニアラ  
サルトヲ認メナカラ後段ニ至リ古物條例第九條ニ違犯シタルモノト  
判定シタルハ擬律ノ錯誤ナリト主張シタリ刑事局ニ於テハ該上告ハ  
其理由立タサルモノトシ棄却セシモノニ係ル  
其理由ニ曰ク古物商取締條例第九條ヲ閱スルニ古物商物品ヲ他府縣  
ニ運送セントスルキハ云々トアリテ單ニ古物ト指定シタルニ非サレ  
ハ苟クモ古物商ヲ營業トスル身分ノ者ハ物ノ新古ニ論ナク他府縣ニ

輸送スル時ハ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘキハ勿論ナルヲ以テ之レニ背クキハ全第十四條ノ制裁ヲ受クルハ當然ナリ今原判文ヲ檢スルモ被告カ新規仕立營業ノ事實ハ判定アルニ非ス其被告ハ仕立夜着蒲團蚊帳ノ製造販賣ヲ以テ云々又其後段被告ハ古物商取締條例ニ從ヒ云々ト掲載セシハ被告カ辯護ノ理由ナキヲ説明シタルノ文詞ナレハ是ヲ以テ事實ヲ錯誤シタリ或ハ擬律ノ錯誤ナリト云フヲ得サルハ勿論被告カ犯罪ノ事實ハ其前段ニ於テ被告鈴木金造ハ明治十九年六月廿六日云々蚊帳三拾枚入り荷物壹箇ヲ所轄警察署へ届出ス發送シタルノ事實ハ云々トアリテ此事實タル即チ古物商取締條例第九條ノ違犯タル明確ナレハ全條例第十四條ヲ適用處斷シタルノ初審裁判ヲ認可シタルハ相當ニシテ聊カ事實及ヒ法律適用上錯誤アルニ非サレハ之レニ對シ前掲ノ如ク論疏スルハ畢竟原判文ヲ誤解シ判定以外ノ事由ヲ擧ケ附會ノ說ヲ唱言シテ漫ニ無罪ヲ主張スルニ過キサ

ルモノトス

古物商取締條例違犯 明治十八年  
第貳千五百八十二號

身元不詳者ヨリ物品ヲ買取リタルモノハ一所爲毎ニ罰スベキヤ  
否

兵庫縣平民古物商藤原吉兵衛同商後藤喜一郎ニ對スル被告事件

初審 神戸輕罪裁判所

終審 大坂控訴裁判所

本件ノ事實被告藤原吉兵衛後藤喜一郎ハ身元詳カナラサル者數名ヨリ衣類外數品ヲ買取リタルモノニテ初審裁判所カ言渡シタル裁判ヲ不當トシ控訴ヲ爲シタルニ明治十八年七月十五日終審裁判所ハ初審ノ裁判ハ不法ノモノトシ該裁判言渡ヲ取消シ被告等ハ古物商取締條例第四條ニ違背シタルヲ以テ同條例第十四條第二十條ニ依リ一次毎ニ罰金ヲ科スヘキモノト判定シ吉兵衛ヲ罰金四拾貳圓喜一郎ヲ罰金

八圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告兩名ハ復タ上告ヲ爲シタリ  
 其要旨ハ被告等カ該物品ヲ買取リタルハ某ニシテ身元詳カナラサル  
 モノニアラサレハ被告ヲ犯則者トセシハ事實ニ齟齬スル不法ノ裁判  
 ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ大審院立會檢事ハ被告八カ上告  
 ハ證據ノ取捨ニ不服ヲ鳴ラスニ過サレハ其効ナキモ原裁判所ニ於テ  
 被告ノ所爲ヲ一次毎ニ罰シタルハ擬律誤判ト思考シ附帶上告ノ未刑  
 事局ニ於テ被告兩名カ上告ハ棄却シ擬律錯誤ノ點ニ基キ治罪法第四  
 百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ更ニ刑法第五條ニ基キ古物商取締  
 條例第四條第十四條ニ照ラシ罰金四圓ニ處シタルモノニ係ル  
 其理由ニ曰ク被告兩名カ上告ハ前掲ノ如クニシテ承審官ノ特有スル  
 職權ヲ以テ爲シタル證據取捨事實ノ判定ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キ  
 スシテ治罪法第四百十條各項目ニ適合スル原由アルニアラサレハ之  
 レヲ採用スルニ由ナキモノトス然リト雖モ同一ノ罪ヲ數次ニ涉リ犯

スニ其意思繼續シ其所爲纏絡シテ犯ス者ハ即チ連續犯タルヲ以テ該  
 犯罪ノ如キハ數罪ト爲シ論斷スヘキモノニアラス本按被告兩名カ犯  
 罪ノ事實ニ於ケル原裁判官ノ認定スル所ニ依レハ連續シテ犯シタル  
 一勿論ナレハ之レテ數罪トナシ各次併科スヘキモノニアラス然ルニ  
 原裁判ノ茲ニ出テス數罪併科セシハ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク  
 律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノトス

質屋取締條例違犯 明治十八年  
第貳千五百九十號

質物ヲ預ルニ於テハ物品毎ニ證人ヲ要スルヤ又條例上證人ヲ要  
 スル場合ニ數度證人ノ印影ヲ取置カサルモノハ連續犯ヲ以テ處  
 分スベキヤ否

德島縣平民質商中田伊平ニ對スル被告事件

初審 德島輕罪裁判所

本件ノ事實被告中田伊平ハ米田ヌイ外數名ヨリ數十度ニ質物ヲ取リ

帳簿ニ置主又ハ證人ノ印影ヲ取置カサルモノニテ明治十八年七月廿七月初審裁判所ニ於テ質屋取締條例第三條同第十四條ニ依リ一個毎ニ貳圓宛總計四拾貳圓ノ罰金ニ處スト言渡シタルヲ被告ハ之ヲ不當トシ質入物件ノ正當ナル時ハ證人ヲ要セス置主ノ實印ヲ取置クヲ以テ充分ナリトス然ルニ被告ヲ罰シタルハ不法ナリト思考シ上告ヲナシタリ同裁判所檢察官ハ被告カ上告ハ理由ナキ旨答辯シ且附帶上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ質屋取締條例第三條ハ一品ニ付一名ノ證人ヲ立ツベシト制定シタルニアラス即チ同一ノ證人ニシテ同時ニ數箇ノ物品ヲ保證シ得ルハ勿論一品毎ニ置主及ヒ證人ノ押印ヲ要スヘキニアラス而シテ米田ヌイ外數名ノ如キハ同日ニ數箇ノ物品ヲ質入同一ノ證人ヲシテ保證セシメタル者ナルヲ原裁判官ニ於テ認メナカラ一品毎ニ證人及ヒ質置主ノ捺印ヲ爲サシメサル犯罪ナリト斷定シタルハ不法ナリト云ヒ大審院立會檢事モ亦附帶上告ヲ爲セリ其要領ハ質屋

取締條例第三條ニ質入主及ヒ證人ヲ實印ヲ押捺セシメ置クヘキ旨ヲ規定シタルハ其第四條第五條ノ如キ特ニ法律上證人ヲ要スル場合ヲ指シタル者ニシテ本案ヲ斷セントスルニハ必ス先ツ其質置主ハ條例第四條第五條ニ定メタル原由アツテ法律上證人ヲ要スル者ナルヤ否ヤヲ審究シタル後ニアラサレハ罪ノ有無ヲ知ルヘカラサル者ナルニ原判文ニ毫モ此必要ノ事實ヲ掲ケサルハ治罪法第三百四條ニ背戾セシ不法ノ裁判ナレハ他ノ裁判所ニ移サレノコトヲ望ムト云フニ在リ刑事局ニ於テハ上告ノ主旨一部ニ基キ治罪法第四百二十八條ニ則リ原裁判言渡ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク質屋取締條例第三條ニ證人ヲ要スルハ質入主及ヒ證人ノ實印ヲ押捺セシメ置クヘシトアルハ同第四條第五條ニ規定スル身元詳カナラサル者又ハ無能力者或ハ雇主ノ家ニ在ル雇人又ハ官廳等ノ印章記號アル物品等ノ如キ質置主ノ身分又ハ物件ニ依リ證人ヲ

要スル場合ハ勿論其他特ニ證人ヲ必要ト見込場合ヲモ併セ云フモノ  
 ナレハ本按ノ罪ヲ組成スルニハ必ス第四條第五條ニ定ル原由又ハ或  
 ル特別ノ場合ナカルヘカラス然ルニ原判文上是等緊要ノ事實理由ハ  
 毫モ明示セサルヲ以テ其事實ノ如何ヲ知ルニ由ナク隨テ擬律ノ當否  
 ヲ監査スルヲ得ス良シ被告人ニ罪アルモノト假定スルモ此所爲タル  
 證人等ノ押印ヲナサシメサル毎ニ犯罪ヲ組成スルモノナレハ其所爲  
 繼續セスト雖モ意思ニ至テハ繼續スルヲ以テ連續犯トシ罰スヘキモ  
 ノニシテ一罪毎ニ罰スヘキモノニアラス到底原裁判ハ不法ニシテ治  
 罪法第四百十條第九第十ニ相當スル上告ノ原由アル者トス既ニ此點  
 ヲ以テ破毀ヲ認ル上ハ其他被告ノ上告及ヒ原檢察官附帶上告論旨ニ  
 對シ爰ニ當否ノ辯明ヲ要セス

質屋取締條例違反明治十八年  
第三千三百七號

質物ヲ取リタルモハ必ス質置人及證人ノ捺印ヲ要スルヤ否

高知縣平民質屋兼紙草商桑名吉太郎ニ對スル被告事件

初審 高知輕罪裁判所

本件ノ事實被告桑名吉太郎ハ明治十八年七月三十一日ヨリ同年九月  
 廿九日ニ至ル間池野梅次外四拾九名ヨリ質物トシテ衣類等ヲ取り之  
 ヲ質物臺帳ニ記載シ本人又ハ證人ノ名下ヘ被告所持ノ印願又ハ雇人  
 矢野某ノ認印ヲ押捺シタルモノニテ明治十八年十月十三日初審裁判  
 所ハ被告ニ於テ質置人及證人ノ實印ヲ押捺セシメサルハ質屋取締條  
 例第三條ニ違反シタルモノト判定シ且再犯ニ係ルヲ以テ同十四條ニ  
 依リ刑法第九十二條ニ照ラシ一等ヲ加ヘ罰金百五拾圓ニ處ス但印願  
 ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收スト言渡シタル裁判ニ對シ被告ハ上告  
 ヲ爲ス其要旨ハ原裁判ノ確認スル如ク被告ハ自己ノ印願又ハ雇人ノ  
 認印ヲ押捺シタルモノニテ其効力ハ實印ト同一ノモノナリ然ルニ本  
 人并ニ證人ノ實印ニアラストシ被告ヲ罰シタルハ治罪法第四百十條



第十一項ニ該當スル越權ノ處分ナリト云ヒ大審院立會檢事ハ質屋取締條例第三條ノ主眼ハ警察官ノ調査ヲ便ニスルモノナレハ第一項ノ場合ニ於テハ素ヨリ捺印ヲ要スルニアラス只第一條ノ場合ニ於テ身元詳カナラサルモノニシテ證人ヲ要スルキニ至リ始テ第三條ノ末項ニ依リ捺印ヲ要スルモノナルモ本案ハ果タシテ證人ヲ要スベキモノナリシヤ將タ或ハ被告ノ注意ヨリ證人ヲ記載シタルヤ其事實明確ナラサレハ從テ條例ニ觸犯シタルヤ否ヲ監査スルニ由ナキ理由不備ノ裁判ナリト思量シ附帶上告ノ末刑事局ニ於テハ其附帶上告ニ基キ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク原判文ニ(被告吉太郎ハ明治十八年七月三十一日ヨリ同年九月廿九日ニ至ル間日下村池野梅次外四十九名ヨリ質物トシテ其衣類等ヲ取り之ヲ質物臺帳ニ記載シ本人又ハ證人ノ名下ヘ實印捺押シアルモ其ノ實印タルヤ被告所持ノ印類又ハ雇人矢野某ノ認印ヲ捺

押シタルモノナレハ則チ質置主及證人ノ實印ヲ押捺セシメサルモノト判定ス)而シテ被告ノ所爲ハ質屋取締條例第三條ニ違犯スルヲ以テ同第十四條ニ依リ云々トアリ抑モ同條例第三條ハ其明文ノ如ク質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物貸金質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシトアリテ唯警察官ノ調査ニ便スルモノニテ素ヨリ捺印ヲ要ス可キモノニアラス其但書ニ證人ヲ要スルトキハ質入主及證人ノ實印ヲ押捺セシメ置クヘシトアルハ即チ第四條第五條等ノ場合ニ於テ證人ヲ要スルニ限ルモノナリ然ルニ本按被告カ池野梅次外四十九名ヨリ質物ヲ取りタルハ果シテ證人ヲ要スヘキモノナリシヤ將タ證人ヲ要セサルモノナル乎ノ事實明瞭ナラス若シ證人ヲ要スヘキモノニアラスシテ唯被告カ注意ヨリ出テタルニ於テハ縱令其證人等カ名下ニ被告等ノ實印ヲ押捺シアルモ該條例ノ支配スヘキモノニアラサルナリ然ルニ原判文上其事實ノ理由ヲ明示セサ

ルヲ以テ擬律ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナク之ヲ即チ理由不備ノ裁判ニシテ附帶上告論旨ノ如ク破毀ノ原由アルモノトス

質屋取締條例違犯明治十九年乙第三百六十號

質屋取締條例第五條ニ違犯シ十五歳未滿ノ者ヨリ數回質物ヲ取リタルモノハ繼續犯ヲ以テ論斷スベキヤ將々各別ニ罰スベキヤ否

兵庫縣平民農黑田嘉右衛門ニ對スル被告事件

初審 姫路 支廳

本件ノ事實被告黑田嘉右衛門ハ其相續人嘉一郎カ明治十八年八月一日以來七ヶ度ニ質物數品ヲ父母又ハ身元詳カナル證人ナクシテ八尾宗兵衛カ男金作十五歳未滿ヨリ取置キシモノニテ明治十九年五月廿七月初審廳ハ被告ハ質屋取締條例第五條ニ違背シタルモノト判定シ全條第十四條第十六條第十七條ニ依リ一回毎ニ罰金三圓五十錢宛ニ

處スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲ス其要旨ハ被告ハ金作カ年齢ヲ問ヒシニ十六歳ト答ヘタルヲ以テ質物預リノ手順ヲ爲シタリ且又金作ハ宗兵衛カ使ナルヲ以テ年齢ニ關係ナキモノナレハ被告カ所爲タル條例ノ支配ヲ受クベキモノニアラスト云ヒ大審院立會檢事ハ被告カ上告ハ事實ノ點ニ係ルヲ以テ其効ナシト雖モ本犯ノ所爲ハ繼續犯ヲ以テ論斷スベキモノナルニ原裁判所カ之ヲ數罪トシ刑ヲ科シタルハ擬律ノ錯誤ナリト主張シ附帶上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ被告カ上告ハ其理由ナキモノト認メ之ヲ棄却シ附帶上告ノ旨趣ニ依リ治罪法第四百二十九條ノ成法ニ則リ原裁判ヲ破毀シ直チニ被告黑田嘉右衛門ニ對シ刑法第五條ニ基キ質屋取締條例第十七條同第五條第十四條ニ照シ罰金三圓五拾錢ニ處シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク抑各般ノ證據ヲ取捨シテ犯罪ノ事實ヲ判斷スルハ特リ事實裁判官ノ職權ニ在テ他ヨリ漫ニ左右シ得ヘキモノニ非ス然ルニ

該上告ハ前顯ノ如ク專ハラ原判官ノ職權ヲ以テ爲シタル採證及ヒ事實ノ判定ヲ非難スルニ過キサルノミナラス質屋取締條例第五條ハ其明文ノ如ク十五年未滿ノ者云々トアルヲ以テ假令壹ヶ月ノ不足ニ係ルモ其未滿ノ者ヨリ質物ヲ取受タル以上ハ該條例第五條ノ違犯タルヤ論ヲ竣タザルナリ故ニ被告ガ上告ハ到底採用スルニ由ナキモノトス然リ而シテ原判文ヲ檢スレハ被告カ犯則ノ事實タルヤ明治十八年八月中七ケ度ニ年齢拾五歳ニ滿ダサル某ヨリ被告カ相續人嘉一郎於テ父母又ハ身元詳カナル證人ナクシテ質物ヲ取受ケタリト云フニ在リ然ラハ其取受ケノ事蹟ニ於テハ間斷アルモ其意思タル繼續スルモノナレハ連續犯ヲ以テ論シ單ニ一刑ヲ科スヘキモノナルニ之ヲ別箇犯罪ノ如ク七罪トシ刑ヲ併科シタルハ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク擬律ヲ誤リタル裁判ト認ルニ依リ此點ハ破毀スヘキ理由アリトス

船車稅規則 衝突豫防規則 牛馬賣買規則 違犯目錄

丁數

船稅規則ニ關スル件

- 一 船稅ヲ納メ無鑑札ニテ使用シタルニ關ス 明治十八年 一六五
- 一 船舶ノ檢印ヲ受ケス納稅ヲ免レタルニ關ス 明治十九年 一六七

車稅規則ニ關スル件

- 一 雇人カ荷積車ヲ他人ニ貸與シタルニ關ス 明治十九年 一七〇
- 一 無檢印荷車貸與ニ關ス 明治十九年 一七三
- 一 免稅車ヲ耕作外ニ使用シタルニ關ス 明治十八年 一七五
- 一 全上 明治十九年 一七七
- 一 無檢印ノ人力車ヲ使用シタルニ關ス 明治十九年 一八〇
- 一 車臺ヲ修繕シ届出サルニ關ス 明治十九年 一八三

衝突豫防規則ニ關スル件

- 一 碇泊中船燈ヲ所持セサルニ關ス 明治十八年 一八五

牛馬賣買規則ニ關スル件

一非營業者ニ於テ馬ヲ交換賣買シタルニ關ス

明治十八年 一八七  
第三千四百五十六號

船稅犯則 明治十八年  
第二千四百號

既ニ船稅ヲ納メタルモノハ免許鑑札ヲ有セサルモ犯則ト認メサ  
ルヤ否

茨城縣常陸國河内郡上根本村平民吉岡新助ニ對スル被告事件

初審 土 浦 支 廳

本件被告吉岡新助明治十七年五月ヨリ全十八年四月マテ採藻等ニ供  
スル小廻船壹艘ノ免許鑑札ヲ願出已ニ第一期ノ船稅ハ上納スルモ未  
タ鑑札下附ヲ得ス無鑑札ニテ使用シタルモノニテ十八年六月廿九日  
初審裁判所ニ於テ被告カ其無鑑札ニテ使用シタルハ脫稅ニ係ルモノ  
ト判定シ船稅規則第二條第六條第十八條ニ照シ脫稅高四十五錢ノ五  
倍ノ罰金二圓二十五錢ニ處スト言渡シタリ被告ハ之ヲ不當トシ上告  
ヲ爲ス其要領ハ舩稅ハ其都度上納シ義務ヲ果タシタルモノナレハ其  
鑑札ノ下附ナキハ官衙ノ都合如何ニ在テ毫モ被告ノ關知スル所ニア

ラサレハ脱税ヲ以テ處斷シタルハ不當ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ其上告ハ治罪法第四百十條十一項ノ原由アルモノト認メ全第四百廿八條ニ照シ原裁判ノ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク船税規則第十八條ノ明文ニ脱税ニ係ル者ヲ處罰ストアルヲ以テ脱税ニアラサルモノニ對シ該條ノ制裁ヲ及ホスヲ得ス而シテ原判文ニハ脱税シタルモノトアルモ其判定ヲ下スノ材料トシタリシ告發書等ノ書面上被告ハ該船ニ付キテハ鑑札下付ヲ願出税金ヲモ上納シタリシノ文旨アリ然レハ原裁判ハ其證據トシ判文上掲ケシ處ノ書面ニ記載アル文旨ニ反スル判定ニシテ該證ニ據テ爲シタル裁判ナリト云フヲ得ス蓋シ被告カ船税ノ上納ハ戸長役場ヘ納メシモノニテ直チニ郡役所ヘ納メサリシト云フニアラシカ果シテ然レハ誤斷ニ出シモノトス何トナレハ戸長ハ地租其他ノ諸税ヲ取立上納スルノ職務アルモノナレハ戸長カ其職務上收受シタリシ上ハ之ヲ納メタル者

ニ於テハ已ニ上納シタリト云フヲ得ヘケレハナリ要スルニ原裁判ハ證據中ニ之レナキ事實ヲ構造シテ判定ヲ下セシモノニテ越權タルヲ免レサレハ本案上告ハ治罪法第四百十條第十一項ニ當ル原由アルモノトス

船税犯則 明治十九年  
第七百三十四號

船舶ノ檢印ヲ受ケス數期ノ納税ヲ免レタルモノハ一期毎ニ罰スヘキモノナルヤ又六ヶ月ヲ經過シタルモノハ公訴ノ期滿免除ヲ得ルヤ否

愛媛縣讚岐國小豆郡土庄村平民農濱本五郎松ニ對スル被告事件

初審 高 松 支 廳

本件被告濱本五郎松ハ第一明治十八年四月ヨリ全十九年三月迄長ク二間ノ傳馬船ヲ無檢印ノ儘ニ使用シ第二明治十八年八月ヨリ全十九年三月迄長ク二間ノ傳馬船ヘ鑑札ヲ打付クスシテ使用シタルモノニテ

十九年四月廿一日初審廳ニ於テ右第一ノ所爲ハ船稅規則第六條ニ違犯シ二十錢(元)ノ稅金ヲ免カレタルモノニ付全則第十八條ニ依リ壹圓五十錢ノ科料ニ該リ第二ノ所爲ハ全則第七條ニ違犯セシモノニ付全則二十條ニ依リ科料壹圓ニ處スト言渡シタリ同裁判所檢察官ハ第一ノ所爲ニ對シ言渡シタル裁判ヲ不當トシ被告カ傳馬船無檢印ノ儘使用シタルハ滿一年間ナリト雖モ其使用ハ四月ニ起リ翌年三月ニ終ルヲ以テ十八年前後兩期十九年上半年ノ合計一年半ノ脫稅ヲ科スヘシト云ヒ上告ヲ爲シ大審院立會檢事モ亦被告カ所爲ニ對スル上告ノ計算ハ適當ナルモ十八年四月ヨリ同年十月ニ至ル迄ノ所爲ハ期滿免除ヲ得タルモノナリト論シ附帶上告ヲ爲シ破毀ヲ求メタリ刑事局ニ於テハ上告及附帶上告ノ論旨ニ基キ治罪法第四百三十一條ニ依リ原裁判中第一ノ所爲ニ對シテ言渡シタル裁判ヲ破毀シ被告カ明治十八年四月ヨリ全十九年三月迄無檢印ノ傳馬船ヲ使用シタル船稅規則第

六條全第十八條全第十一條ニ照シ一期脫稅金十五錢ノ五倍科料金七拾五錢ツ、合計二圓廿五錢ヲ科スベキ所本案ノ起訴ハ十九年四月十七日ニ係ルヲ以テ十八年上半年脫稅ノ罪ハ既ニ公訴ノ期滿免除ヲ得タルニ付治罪法第三百三十五條同第二百二十四條全第十一條ニ依リ免訴シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク船稅規則第十一條ニ規定スルカ如ク同第六條ニアル船稅金ヲ上納スルニハ一年ヲ二期ニ分チ上半年分ハ一月三十一日限下半期分ハ七月三十一日限リ徵收スルモノナルニ付キ無檢印使用ノ如キモ其半期毎ノ脫稅ヲ謀リタルモノナルヲ以テ其罪半期毎ニ組成スルモノト云ハサルヲ得ス然ルニ被告カ脫稅ヲ謀リタルハ明治十八年上下ノ兩期分ト明治十九年上半年分トナルニ原裁判官ハ兩期分即チ三十錢ノ脫稅ヲ爲シタルモノトナスノミナラス本案ノ如キ一期ノ脫稅金十五錢ノ五倍七十五錢ノ科料ニ處スヘキ違警罪ナルヤ明カナレ

ハ違警罪ハ六ヶ月ヲ以テ公訴期滿免除ヲ得ルモノニ付キ被告カ第一ノ明治十八年上半年期ノ脱税罪ハ既ニ公訴期滿免除ヲ得タルコト判然タルニ之レニ對シ免訴ヲ言渡サ、リシハ原檢察官カ上告并ニ本院檢事附帶上告論旨ノ如クナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノト裁定ス

車税規則違反明治十九年  
第一千九十三號

耕作上使用ノ車ト雖モ無檢印ニテ使用スルモノハ車税規則ノ制裁ヲ免レ得サルヤ否

大分縣宇佐郡岩崎村平民都留與十郎ニ對スル被告事件

初審 中 津 支 廳

本件被告都留與十郎ハ豫テ農業用ニ供スル爲メ明治十六年五月中買求メ置キタル古大八車壹輛ヲ他出中其雇人某カ同村某へ貸與ヘタルモノニテ明治十九年三月十九日初審裁判所ニ於テ其雇人カ貸與へ使

用セシメタルハ被告ノ管知セザル事ニシテ且又以前耕作外ニ使用セリトノ證據充分ナラスト判定シ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲シタルニ同裁判所檢察官ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ雇人ノ所爲ハ其責雇主ニ歸スヘキモノニシテ殊ニ無檢印荷積車ノ如キハ其使用ニ自他ノ區別ナク之ヲ使用スルニ由テ始メテ其罪ヲ構造スルモノナルカ故ニ假令自ラ使用セストモ他人ヲシテ使用セシメタルニ於テハ其責ニ任セサルヘカラスト云フニ在リ刑事局ニ於テハ原裁判ハ事實理由ノ不備ナルモノト認メ治罪法第四百二十八條ニ則リ原裁判言渡ヲ破毀シタルモノニ係ル  
其理由ニ曰ク雇人が人ニ車ヲ貸與シ使用セシムルノ情ヲ知ル雇主ハ固ヨリ其責ニ任ス可キモノナリト雖モ本案事件ノ如キハ雇主ノ不在中雇人ノ專斷ヲ以テ他人ニ貸與シタルモノナレハ雇主其貸與ヲ管知シ能ハサルヲ以テ其責ヲ負擔セシムルヲ得サレハ上告論旨第一點ハ

相立サルモノトス然レモ上告旨趣ノ二點ニ依リ原判文ヲ查閱スルニ  
 (被告人ハ豫テ農業用ニ供スル爲メ明治十六年五月中古大八車壹輛買  
 求メ置キタル處云々自是以前耕作用ノ外使用セリトノ證據不充分ナ  
 リ)トアリテ其車ヲ耕作用ニ使用シタルヤ明カナルノミナラス公判始  
 未書ヲ參觀スルニ被告第二ノ答ニ(検査官來ラレ車ニ檢印ナキヲ見出  
 サレ云々)トアリ其他被告ハ檢印ナキヲ陳述シアルニヨリ無檢印ノ  
 儘耕作上使用シタルモノ、如シ果テ然ラハ假令耕作用ニ購求セシモ  
 ノナルモ之レヲ無檢印ニテ使用シタルニ於テハ車稅規則第二則ニ違  
 背スルヲ以テ同第六則ノ制裁ハ免ル、ヲ得サルモノトス何ントナレ  
 ハ車ヲ買入レタルニ於テハ先ツ以テ其筋ニ届出テ之ニ檢印ヲ受ケ始  
 メテ其車ノ有稅無稅ヲ定メラレ然ル後ニアラサレハ之レカ使用ヲ爲  
 シ得ヘキ者ニアラサレハナリ然ルニ判文上其檢印ノ有無及ヒ使用ノ  
 年月日ヲ審究明示セサレハ之レカ擬律ヲ爲スニ由ナキ事實理由ノ不

備ナル裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノトス

車稅犯則明治十九年  
第三百四十二號

無檢印ノ車ヲ借り受ケ使用シタルモノハ車稅則第六條ノ責任ヲ  
 負フベキヤ否

埼玉縣武藏國南埼玉郡下間久里村平民農藤田鳥之助ニ對スル被

告事件

初審 浦和輕罪裁判所

本件被告藤田鳥之助ハ某者ヨリ無檢印ノ荷積小車一輛ヲ借受ケ蘆運  
 搬ニ使用シタルモノニテ明治十九年三月廿七日初審裁判所ニ於テ該  
 車ハ被告ノ所有ニ非サレハ罪トシ罰スベキモノニアラスト判定シ刑  
 法第二條治罪法第三百五十八條ニ從ヒ無罪ノ言渡ヲ爲シタリ同裁判  
 所檢察官ハ無檢印ノ車ヲ借り受ケ使用シタルハ所有ノ如何ヲ論セス  
 車稅規則第六則ニ依リ處斷スベキモノト思料シ上告シタルモ刑事局



ニ於テハ原裁判ハ適當ノモノト判定シ該上告ハ棄却シタルモノニ係ル  
 其理由ニ曰ク抑車税規則第六則ニ諸車類無届ニテ云々トアル其届ト  
 ハ何人ノ爲ス可キ者ナル乎則チ其第二則ニ新調ノ車ハ云々但從來所  
 持ノ分ニテ云々檢印可申受事トアルヲ以テ觀察スレハ總テ其車所有  
 者ノ爲スヘキ本務タルヲ論テ埃タスシテ明カナリ然ラハ右第六則ノ  
 責任タルヤ所有者其人ニ在テ他ニ及ハサルヤ知ル可キナリ故ニ本件  
 車ノ如キ原判官ノ認ル處ニ據レハ無檢印トアルヲ以テ復タ其無届タ  
 ル推シテ知ル可ク既ニ無届ノ車ナリトセハ所有者ト雖モ事由ノ如何  
 ニ論ナク使用スルヲ能ハサル者ナレハ隨テ人ニ貸シ與フルモ均シク  
 使用ナレハ之ヲ爲スヲ能ハサルニ之ヲ被告ニ貸與シタルハ即チ犯則  
 ナルヲ以テ本件ノ責メハ所有者ニ在ルモ被告鳥之助ニ負擔セシム可  
 謂キハレナシ况ンヤ人ノ所有車ヲ借用セシ迎納税ノ義務ヲ生セサル

ハ勿論假令檢印ノ有無ヲ知ルモ借用人ニ於テ之ヲ届出サレハ使用ス  
 ルヲ許サストノ法章アルニ非サルニ於テオヤ又公判始末書ヲ閱スル  
 モ被告カ答辯ニ三月十五日ヨリ同十七日迄三日間借用シタリトノ  
 チ記載アルヲ以テ視レハ裁判官ニ於テ此時間使用シタリト判定シタ  
 ル迎決シテ臆測架空ノ判定或ハ事實理由ノ齟齬トハ云フヲ得ス以上  
 辯明シタルカ如キ理由ナルヲ以テ原裁判官カ被告ノ所爲ヲ罪トシ罰  
 スヘキモノニ非スト論定シ無罪ヲ以テ決放シタルハ至極適當ノ裁判  
 ニシテ上告論旨ハ總テ相立タサルモノト判定ス

車税違犯明治十八年  
第三千八百四拾七號

免稅荷積小車ニ土砂等ヲ積載シ他人ノ扣山ヨリ自宅へ運搬セシ  
 モノハ車税規則ノ制裁ハ受ケサルヤ否

愛知縣尾張國知多郡山海村平民農鈴木熊吉ニ對スル被告事件

初審 名古屋輕罪裁判所

本件被告鈴木熊吉ハ明治十八年十月十二日肥料ヲ蓄フル方言ボチト稱スルモノヲ修復セシメ其所有耕作用ノ免稅荷積小車ニ土砂及石灰等ヲ積載シ某ノ扣山ヨリ自宅ヘ運搬セシモノニテ同十八年十二月八日初審裁判所ニ於テ被告カ所爲ハ耕作一途ノ範圍外ニ使用セシモノニ非ラス即チ觸法ノ廉ナキモノト判定シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルニ同裁判所檢察官ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ耕作一途ニ用ル免稅車ハ其範圍最モ狹隘ニシテ農具肥料收穫物ヲ自宅ト耕地トノ間ヲ運搬スルニ止リテ該品タリトモ自宅ト耕地外トノ間ヲ運搬スルハ耕作一途ノ範圍外ニシテ如斯モノヲ無罪ト爲スニ於テハ免稅車ト有稅車トノ區域判然セス本按被告事件ハ車稅規則第六條ヲ適用スベキモノナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告論旨ニ基キ原裁判ヲ破毀シ明治八年第二十七號公布車稅規則第六則第一則第四則ニ照シ半ケ年分ノ脫稅高五倍ノ科料金壹圓貳拾五錢ニ處シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク車稅規則第五條ニ荷積車ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タル可キ事ト明示シタリ此法文タル自家ト其耕地ノ間農具及ヒ種子肥料收穫等ノ運搬ニ限レルモノト見解セサルヲ得ス何トナレハ耕作一途ヲ限リタルモノナレハナリ本案被告ノ所爲タル他人ノ扣山ヨリ土砂石灰ヲ運搬シタル者ニテ直接耕耘ノ用ニ供ス可キモノニ非サレハ耕作一途ノ範圍外ニ使用シタルヤ明カナリ原裁判所ハ此事實ヲ認メナカラ耕作一途ノ範圍外ニ使用セシ者ニ非ストシ無罪ヲ言渡シタルハ則チ原檢察官上告趣旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ定メタル上告ノ原由アルモノナリトス

車稅規則明治十九年  
第千三百四十一號

他人ノ所有ニ係ル免稅車ヲ免稅外ノ用ニ供スルモ其使用者ニハ届出ノ義務ヲ生セサルヤ否車稅規則第六條ノ責任ハ何レニアル

ヤ)

埼玉縣武藏國北葛飾郡佐左衛門村平民農中島源藏ニ對スル被告  
事件

初審 浦和輕罪裁判所

本件被告中島源藏ハ明治十九年三月十九日父米藏所有ニ係ル耕作一途ニ用ル免税荷積小車壹輛ニ米三俵ヲ積載シ之ヲ賣却スル爲メ使用シタルモノニテ十九年三月廿九日初審裁判所ニ於テ該荷車ハ被告カ所有ニ係ルモノニアラサレハ管轄廳ニ届出ヲ爲スル責任ナキニ依リ罪トシ罰スベキモノニアラスト判定シ刑法第二條及ヒ治罪法第二百五十八條ニ從ヒ無罪ノ言渡ヲ爲シタリ同裁判所檢察官ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ所爲ハ車稅規則第六則ニ照シ罰スヘキモノナルニ該車ハ被告カ所爲ニアラサルヲ以テ管轄廳ニ届書ヲ爲スノ責任ナキニ依リ罪トシ罰スヘキモノニアラストシ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナリ該則第六條ハ無届ノ所爲ヲ罰スルニアラスト

テ營業又ハ使用シテ始メテ犯罪トスルニアレハ無免許ノ車ハ罪狀構成ノ要具ニ過キスシテ罪ヲ犯シタルモノハ現ニ之ヲ使用シタルモノニアルヤ明白ナリ云々ト論スルニアリ刑事局ニ於テハ其上告ハ理由ナキモノト判定シ棄却シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク上告ニ依リ車稅規則ヲ案スルニ其第六則ニ諸車無届ニテ云々其第五則ニ荷積車等ノ内ニテ耕作一途ニ用ユル者ハ云々トアル其届出又ハ其免税等ノ手續ヲ盡ス可キ者ハ何人ニアル乎第二則ノ文旨等ヲ參照シテ觀察テ下セハ渾テ該車所有主ノ負フ可キ義務ナリトス果シテ然ラハ前ニ所謂第六則ノ責任ハ所有者其人ニアリテ他ニ及ハサルヤ知ル可キナリ而シテ本件ハ原裁判官カ認メタル事實ニ依ルニ其所有主ハ被告ニ非ラスシテ其父半藏ニアルヤ明カナリ故ニ其使用セシハ被告ナリトスルモ其責任ハ所有主ニアリテ被告ニ負擔セシムヘキ謂ハレナシ何トナレハ己ノ名義ニアラサル車ヲ使用セシトテ

納税ノ義務ヲ生セス其義務ナキ者ハ脱税ノ責ナキ勿論ナレハナリ  
車税規則違犯<sup>明治十九年  
乙第三百七十號</sup>

納税濟ノ車ヲ買受ケタルモノハ其届出ヲ爲スヲ要セサルヤ否  
筑後國御井郡御井町平民大石治作ニ對スル被告事件

初審 久留米 支廳

本件ノ事實被告大石治作ハ明治十九年四月廿三日無檢印ノ人力車ヲ  
以テ賃錢三十五錢ノ約定ニテ御井町ヨリ客人ヲ載セ大分縣日田村迄  
曳キ行キタルモノニテ同五月廿五日初審裁判所ニ於テ明治八年第二  
十七號布告車税規則第一則第六則ニ依リ同十四年第七十二號布告罰  
例處斷法第三條ニ照シ半々年分脱税高金五十錢ノ五倍ノ罰金二圓五  
十錢ニ處シタルニ原裁判所檢察官ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其  
要旨ハ車税規則第六則ハ無檢印ニテ諸車類營業スルカ又ハ使用スル  
モ納税セシモノハ之ヲ罰セサルノ精神ナラン果シテ然ラハ無檢印ニ

テ營業又ハ使用スルモノヲ處分スル場合ニ於テハ其逋税ニ係ルヤ否  
ヲ審カニシ以テ之カ理由ヲ明示スルハ尤モ要點ナリ然ルニ原判文ニ  
ハ無檢印ノ人力車ヲ云々曳キ行キタルモノトノミアリテ其逋税ヲ謀  
リタル理由ヲ明示セサルハ理由ノ不備ナリ殊ニ本案被告カ使用シタ  
ル車ハ廣田止吉カ曾テ其筋ニ届出檢印ヲ受ケ納税シタルヲハ所轄郡  
役所ノ通知書ニテ明カナリ其後車ノ引手ヲ損シ之ヲ修繕シ未ダ檢印  
ヲ受ケサル儘被告ニ於テ買受ケ使用セシモノニテ其賣買届出ノ手續  
ヲ怠リタリト雖モ已ニ止吉カ納税シタル車ナレハ假令被告カ無檢印  
ノ儘使用スルモ車税規則ノ制裁ヲ受クベキモノニ非スト云フニアリ  
刑事局ニ於テハ上告論旨ニ基キ治罪法第四百二十八條ニ則リ原裁判  
言渡ヲ破毀シタルモノニ係ル  
其理由ニ曰ク上告論旨中被告カ使用シタル車ハ廣田止吉カ曾テ其筋  
ニ届出檢印ヲ受ケ納税シ居ルヲハ云々其後車ノ引手ヲ損シ之ヲ修繕